

第23回全国バズ学習研究大会

公開授業指導案綴

相互作用を生かし、参加度を高める学習指導

— 課題と評価の研究を通して —

昭和63年10月7日(金)・8日(土)



愛知県春日井市立中部中学校

目 次

会 場 案 内	-----	表紙裏
日 程	-----	2
公 開 投 業 案 内	-----	3
公開授業 (Ⅰ) 指導案		
1年公開授業指導案	-----	5
2年公開授業指導案	-----	22
3年公開授業指導案	-----	37
実務公開授業指導案	-----	56
公開授業 (Ⅱ) 指導案		
1年公開授業指導案	-----	58
2年公開授業指導案	-----	75
3年公開授業指導案	-----	90
実務公開授業指導案	-----	56
校地・校舎平面図	-----	表紙裏

日 程

10月7日(金) 第一日目

	内 容	場 所	備 考
9:00 9:25 9:30	受 付	体育館前	・研究紀要配布 昼食注文
10:20	公開授業(Ⅰ)	各教室	・公開授業案内参照
	休憩・移動		
10:30	公開授業(Ⅱ)	各教室	・公開授業案内参照
11:20	休憩・移動		
11:30	開 会 行 事	体育館	・開会挨拶 来賓祝辞 日程説明
12:00	昼食・休憩	体育館	・学校紹介VTR 写真パネル展示
13:00	ブラスバンド演奏	体育館	・「スペイン奇想曲」他
13:15	研 究 発 表	体育館	・本校の研究の概要
13:50	移 動		
14:00 16:30	分 科 会	各教室	・研究協議 提案要項参照

10月8日(土) 第二日目

8:30 8:50 9:00	受 付	体育館前	
10:10	全体会・指導講評	体育館	・分科会報告, 指導講評
11:45	記 念 講 演	体育館	・演題 「いま, どういう子どもを育てるか」 名古屋大学教授 梶田正巳先生
12:00	閉 会 行 事	体育館	・全国バズ学習研究会 諸連絡 ・閉 会

公開授業案内

公開授業(Ⅰ) 9:30~10:20

年・組	教科	単元・題材	指導者	指導場所
1の1	社会	古代社会の確立	高津卓史	1の1教室
1の2	英語	7. 日本に住んで	稲垣久義	LL教室
1の5・6	保健体育	障害走	野口博昭	運動場
1の5・6	保健体育	サッカー	安藤研彦	運動場
1の7	理科	動物の世界	中田博之	1の7教室
1の8	数学	方程式	伊藤彰	1の8教室
1の9	美術	板材でつくる	藤城吉雄	第1美術室
1の10	道徳	割れたガラス	小林千益	1の10教室
1の12	英語	7. 日本に住んで	稲垣淳代	1の12教室
2の1	社会	中国・四国地方	毛利公	2の1教室
2の2	国語	文法(接続詞)	本田直樹	2の2教室
2の3	数学	不等式	松本幸子	2の3教室
2の4	英語	6. What Do You Want to Be?	桑原進一	2の4教室
2の7	学指学活	交通安全	川本芳久	2の7教室
2の8	数学	不等式	伊藤富男	2の8教室
2の9	理科	電流回路	長尾智	2の9教室
2の11・12	技術家庭	木材加工Ⅱ	竹内正夫	2の11教室
3の1・2	保健体育	剣道	吉田英雄	武道場
3の1・2	保健体育	バレーボール	藤田三代	バレーコート
3の3	国語	日本語の特色	竹田幸代	3の3教室
3の4	数学	円	桜井雅弘	3の4教室
3の6	音楽	思い出は空に	久田律子	第1音楽室
3の7	数学	円	山内良仁	3の7教室
3の8	理科	大地もゆれ動く	吉田真人	3の8教室
3の10	理科	酸・アルカリ・塩	石黒照人	第2理科室
3の11	道徳	ぼくの悩み	立島雅代	3の11教室
3の12	数学	円	沢田由道	3の12教室
実務	作業学習	化粧箱作り	高島顕治 小森好敦 渡辺敦子	実務作業室

公開授業(Ⅱ) 10:30~11:20

年・組	教科	単元・題材	指導者	指導場所
1の1	数 学	方程式	林 薫	1の1教室
1の2	音 楽	夢の世界を	鮫名 幹史	第1音楽室
1の3	理 科	動物の世界	岸 宏行	1の3教室
1の4	国 語	無言化社会の中で	加藤美紀子	1の4教室
1の5	社 会	撰関政治	久保達哉	1の5教室
1の6	学指学活	仕事について調べよう	山本義則	1の6教室
1の7	技術家庭	木材加工 I	小林 真	1の7教室
1の9	国 語	ちょっと立ち止まって	西村典子	1の9教室
1の11	音 楽	大空賛歌	伊藤直美	第2音楽室
2の1・2	保健体育	バスケットボール	居波文義	バスケットコート
2の5	理 科	電流回路	片山 豊	2の5教室
2の6	音 楽	翼をください	児玉 誠	第3音楽室
2の7	美 術	ポスター	石黒 治子	第3美術室
2の9	英 語	6.What Do You Want to Be?	林 真樹	2の9教室
2の10	道 徳	忘れぬ友	鈴木直子	2の10教室
2の11	数 学	不等式	後藤文子	2の11教室
2の12	国 語	副詞 連体詞 接続詞 感動詞	市原みどり	2の12教室
3の1	英 語	Miss May Tells Us about Paris.	川越 慎一	3の1教室
3の3	学指学活	遵法と交通事故	藤田 滋	3の3教室
3の4	理 科	大地もゆれ動く	武山 春雄	3の4教室
3の5	美 術	東西の美術	森 真一郎	3の5教室
3の8	国 語	日本語の特色	中山喜久子	3の8教室
3の9・10	技術家庭	電気 III	押谷政紀	3の9教室
3の9・10	技術家庭	保 育	高木昭子	3の10教室
3の11	社 会	消費生活と経済のしくみ	加藤 武文	3の11教室
3の13	英 語	Miss May Tells Us about Paris.	久木田まゆみ	3の13教室
実 務	作業学習	化粧箱作り	高島 顕 小森 好治 渡 辺 敦子	実務作業室

公開授業 (1) 学習指導案

第 1 学年

第1学年1組社会科学学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第2時限 教室

指導者 高津卓史

1. 単元 古代社会の確立

2. 本時の学習 (本時6/11)

- (1) 目標
- 遣唐使の役割と天平文化について理解させる。
 - 自分の考えをもち、積極的に班活動に参加させる。
- (2) 準備
- 教師 フラッシュカード、プリント
生徒 資料新しい歴史
- (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	前時の復習をしなさい。		
	1. 班内で学習整理を答え合わせする。 2. 本時の目標を知る。	5 ○ 態度目標についても指示をする。	○ 班内で答え合わせができたか。 (挙手)
中心	遣唐使の苦勞や役割について調べなさい。		
	3. 遣唐使の苦勞について調べる。 4. 遣唐使が派遣された理由を班内で話し合う。	15 ○ 遣唐使について和歌や資料をもとに考えさせる。 ○ 唐文化、仏教文化を伝える使命があったことを理解させる。 ○ 教師の補説を加える。	○ 遣唐使の苦勞や役割が理解できたか。 (発表)
過程	唐文化が日本に与えた影響について調べなさい。		
	5. 奈良時代の文化について調べる。 ○ 各自で調べプリントに記入する。 ○ 班内で輪番法により確認をする。 ○ 班ごとに発表をする。	15 ○ 大陸の仏教文化の影響を受けていることに気づかせる。 ○ 気づいたこと、注目すべき点も記入させる。	○ 班活動は活発か。 (机間巡視) ○ 文化の特色が理解できたか。 (発表)
確認過程	プリントをまとめなさい。		
	6. 各班の発表を参考にプリントをまとめる。 7. 次時の予告を聞く。	15 ○ 他の班の意見に十分注意してまとめさせる。 ○ 平安時代について学習することを知らせる。	○ プリントがまとめられたか。 (机間巡視)

第1学年社会科学習課題構成図

9～10月 単元・題材名 古代社会の成立 11時間完了

- 目 標
- 唐が律令にもとづく古代国家をつくりあげたことを理解させる。
 - 古代天皇制と律令政治をめざして改革が進められたことを理解させる。
 - 平城京と貴族の生活、遣唐使と天平文化について理解させる。
 - 唐を中心とした東アジアの律令制がくずれ、各国が独自の発展過程をみせたことに着目させる。
 - 摂関政治のしくみと農村の変化を理解させる。
 - 武士の発生と成長および東北地方が発展したことを理解させる。

(学 習 活 動)

(学 習 課 題)



古代統一国家の完成

律令政治の移り変わり

変わりゆく東アジアと日本

古代社会の確立

第1学年2組英語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 LL教室
指導者 稲垣久義

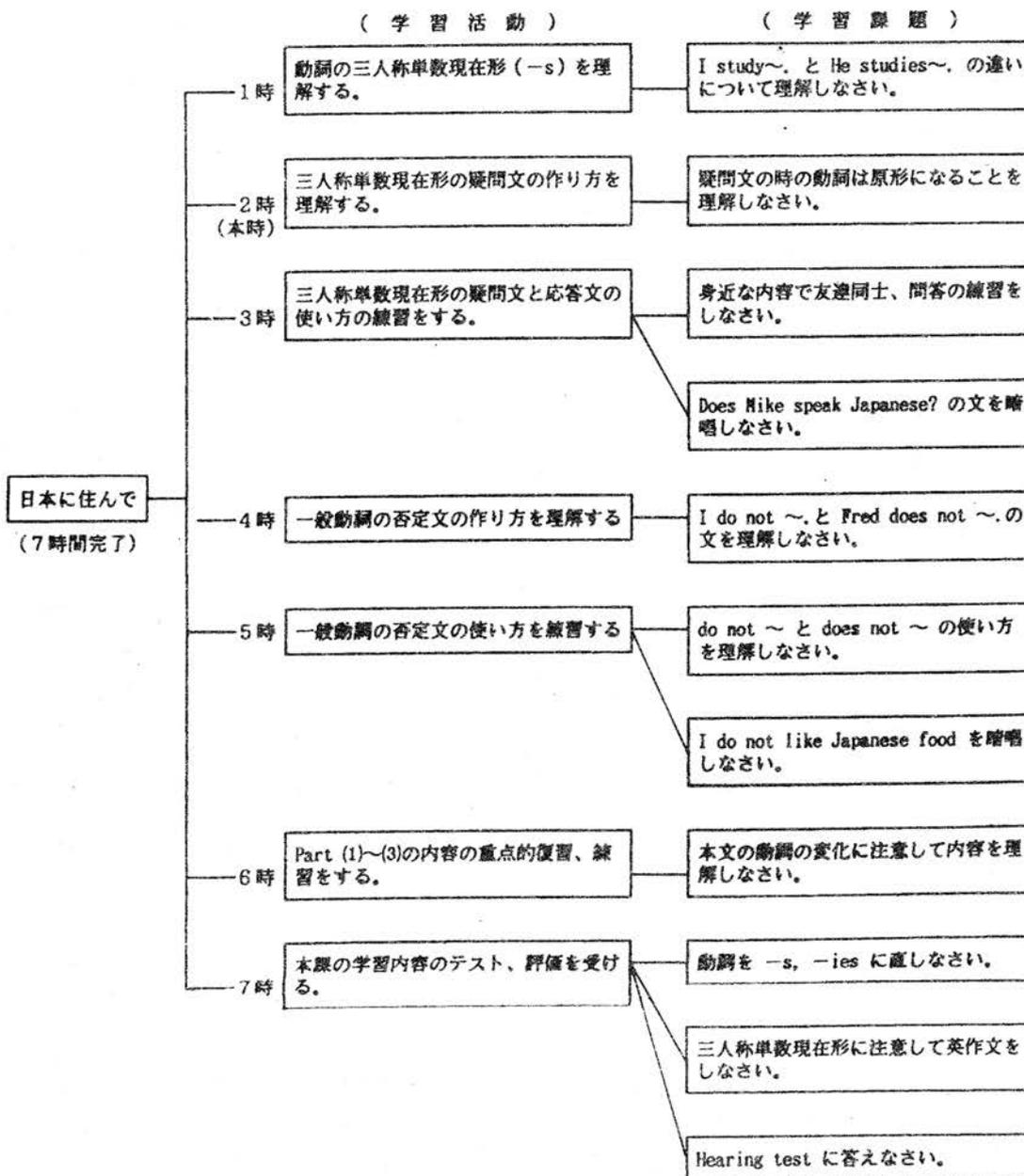
1. 題材 日本に住んで
2. 本時の指導 (本時 2/7)
 - (1) 目標
 - 三人称単数現在形の疑問文と応答文を理解させ、簡単な問答ができるようにさせる。
 - 班で話し合いや練習を活発に行わせる。
 - (2) 準備 教師 VTR Tape Flash cards TP
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	単語の意味を確認し、VTRを見ながら前時の復習をなささい。		
	1. Flash cardsで新出単語の発音と意味を確認する。 2. VTRを見て復習する。	⑮ 教師の後について発音練習した後、班内で意味を確認させる。 ○ 三単現の-sに注意させる。	○ 正しく発音できているか。 (観察)
中 心 過 程	VTRを見て、大まかな内容をつかみなさい。		
	3. 本時の目標文を知る。 4. VTRを見て、その問答の内容を考える。 (1) 班で確かめあう。 (2) 教師の説明を聞く。 (3) Chart 8 を使って口頭練習をする。	⑯ 三単現の疑問文と応答文を簡潔に示す。 ○ 各自で考えた後、話し合わせる。 ○ 班内で活発に練習させる。	○ 大まかな内容を把握できたか (指名) ○ 練習に参加しているか。 (観察)
過 程	本文の読みを練習し、内容を理解しなさい。		
	6. 本文を読み、内容をつかむ (1) 音読を聞き、教師・テープの後について練習する。 (2) 班で意味を確認する。	⑫ ○ はじめは、ゆっくり読み次第にスピードを速めて練習させる。 ○ 班内で順番に言わせる	○ 大きな声で練習できているか (観察) ○ 相互活動は活発か。 (机間巡視)
確 認 過 程	本時のまとめをしなさい。		
	7. 本時のまとめをする。 (1) ポイントをまとめる。 (2) 次時の予告を聞く。	⑤ ○ ポイントを明示する。 ○ 課題を具体的に示す。	

1 学年英語科学習課題構成図

10月	単元・題材名	日本に住んで	7時間完了
-----	--------	--------	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> マイクの日本での生活、マイクや両親の日本語の話しぶり、そして、日本食の好みなどを理解させる。 次の語法を理解させ、表現させる。 <ul style="list-style-type: none"> 動詞の三人称単数現在形（肯定平叙文） 動詞の三人称単数現在形（疑問文と応答文） 一般動詞を用いた否定文
----	---



第1学年5・6組(女子)保健体育科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 運動場

指導者 野口博昭

1 題材 障害走

2 本時の指導 (本時3/4)

- (1) 目標
- インターバルはスピードを落とさず、正しいフォームで走ることができるようにさせる。
 - 目標をもって、互いに協力して練習する態度を育てる。
 - 走路・用具の安全を確かめ、自他の健康・安全に留意して練習ができるようにさせる。

(2) 準備 教師 ハードル 生徒 学習カード

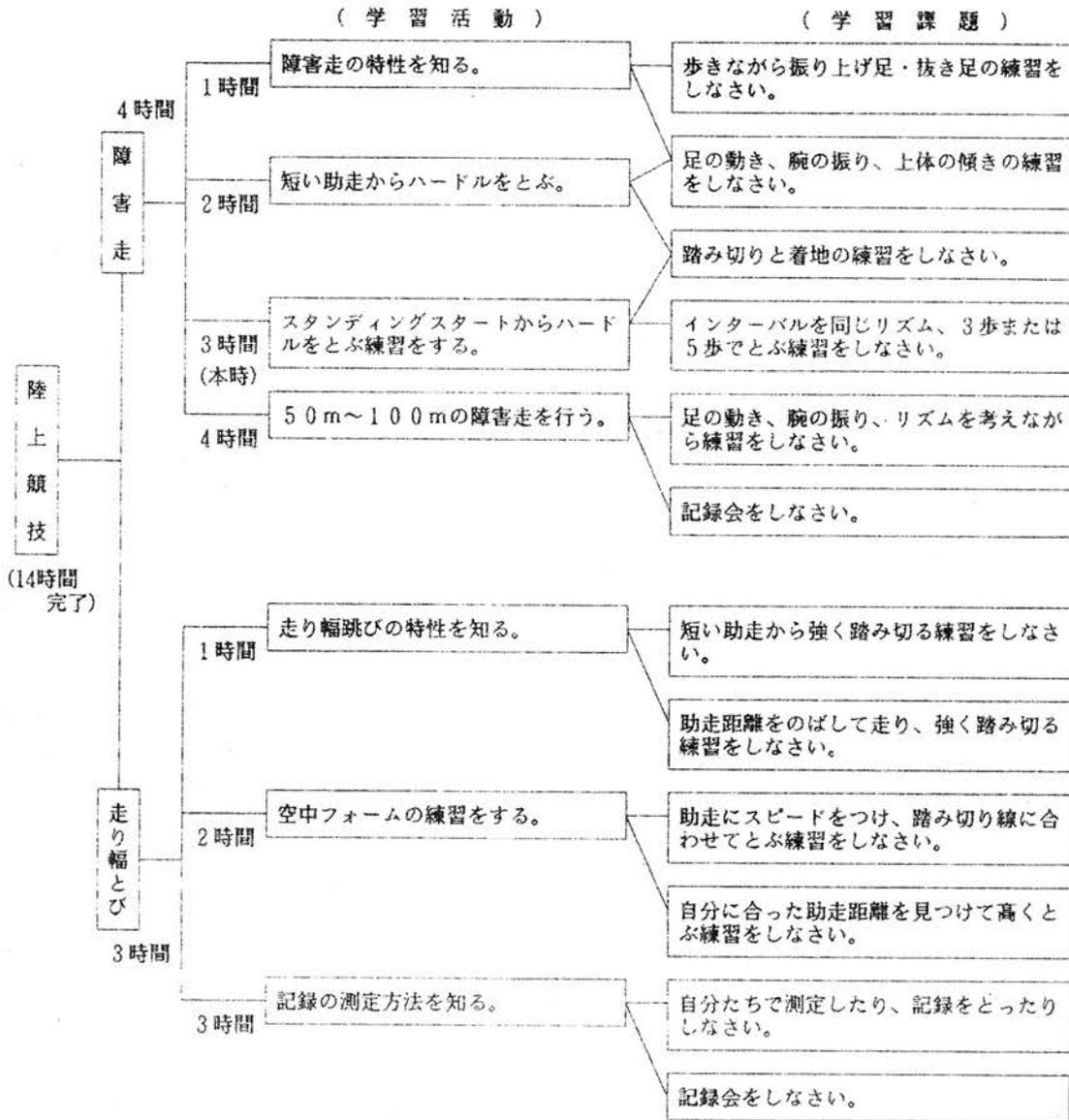
(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 集合・整列する。 (1) 準備運動をする。 ○ グループ別に行う。 ○ 補強運動を行う。	○ 積極的に行わせる。 ○ 見学者の指示をする。	
過程	2. 本時の学習内容を知る。	⑩ ○ 目標を明確にさせる。	本時の目標がわかったか。 (挙手)
中心過程	踏み切りと着地の練習をしなさい。		
	3. 自分の能力に合ったコースで練習する。 (1) スタンディングスタートから⑤の踏み切りは遠く、着地は近く3台のハードルをこす。 (2) グループで互いにフォームを観察する。	○ 踏み切りは遠く、着地は近くにさせる。 ○ 上下動を少なくさせる。	互いに教え合っているか。 (相互批評)
	インターバルの練習をしなさい。		
	4. インターバルを3歩か5歩で走る練習をする。 (1) クラウチングスタートから5②のハードルをこす。	○ 着地後の1歩を大きく踏み出させる。 ○ ハードリングやインターバルの一連の動作について観察させる。	リズムはうまくつかんでいるか。 (観察)
確認過程	本時の反省をしなさい。		
	(1) グループ別に反省をする。 2) 整理運動をする。 (3) 次時の予告を聞く。	○ 積極的に話し合いに参加させる。 ⑤る。	意欲的に練習できたか。 (挙手)

第1学年保健体育科学習課題構成図

10月	題材	陸上競技	14時間完了
-----	----	------	--------

目標	<ul style="list-style-type: none"> 走・跳の各種目の技能を高め、それぞれの技能の程度に応じて練習や競技を行い、自己の能力を最高度に発揮できるようにさせる。 目標をもち、互いに協力して練習や競技を行う態度を身につけさせる。 走路、砂場の安全を確かめるなど、健康・安全に留意して運動できるようにさせる。
----	---



第1学年5・6組(男子)保健体育科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 運動場

指導者 安藤 研彦

1 単 元 サッカー

2 本時の学習 (本時2/14)

- (1) 目 標
- インサイドキックを使った正確なパスができるようにさせる。
 - 班活動に積極的に参加し、相互による評価活動ができるようにさせる。
 - コートや用具の安全を確かめ、自他の健康・安全に留意して練習ができるようにさせる。

(2) 準 備 教師 サッカーボール 生徒 学習カード

(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	1. 集合・整列する。 (1) 班ごとに横隊で集合する。 (2) 準備運動をする。	○ 健康状態・服装を点検する。 ○ 見学者の指示をする。 ⑩ ○ ボールリフティング・トラップも行わせる。	本時の目標をたてたか。 (挙手)
中 心 過 程	インサイドキックでパスの練習をしなさい。 3. パスの練習をする。 (1) 確実にトラップしてからパスをする。 (2) ノートラップでパスをする。 走りながらインサイドキックでパスの練習をしなさい。 4. 走りながらパスの練習をする。 (1) 2人組で練習する。 (2) 対列で走りながら練習する。	○ 足首をしっかり固定してパスをさせる。 ⑮ ○ トラップをしっかりさせる。 ○ 走るスピードを徐々に速くさせる。 ⑮ ○ 班ごとに、協力して練習させる。	足の内側を使ってキックしているか。 (観察) 積極的に練習に参加しているか。 (巡視)
確 認 過 程	班ごとに本時の学習の反省をしなさい。 5. 整理運動と反省をする。 (1) 整理運動をする。 (2) 班ごとに反省する。 ○ 班ごとに話し合い発表する。 (2) 次時の予告と課題を聞く。	○ 足首を中心に行わせる。 ⑩ ○ 班内で相互評価させる。 ○ 次時の課題を告げ、意欲化をはかる。	意欲的に練習できたか。 (学習カード)

第1学年保健体育科学習課題構成図

10月 単元 サッカー 14時間完了

目標

- サッカーの各種の技能を習得し、それをを用いてゲームができ、ゲームの反省の内容が、次に活用できるようにさせる。
- 計画的な練習やゲームの中で、自己の役割を理解させるとともに、責任感、協力性といった社会性を養う。
- コートや用具の安全を確かめ、自他の健康・安全に留意して練習やゲームができるようにさせる。

(学習活動)

(学習課題)

サッカー
(14時間完了)



第1学年7組理科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 教室

指導者 中田博之

1. 単元 動物の世界

2. 本時の学習 (本時1/10)

- (1) 目標
- ・ 身近な動物の生活に注目して動物と植物の違いについて考えさせる。
 - ・ 今までに見たことのある動物を、セキツイ動物と無セキツイ動物に分類させる。
 - ・ 資料をもとにして、積極的に話し合いに参加させる。

(2) 準備 教師 読み物「セキツイ動物とは」、プリント

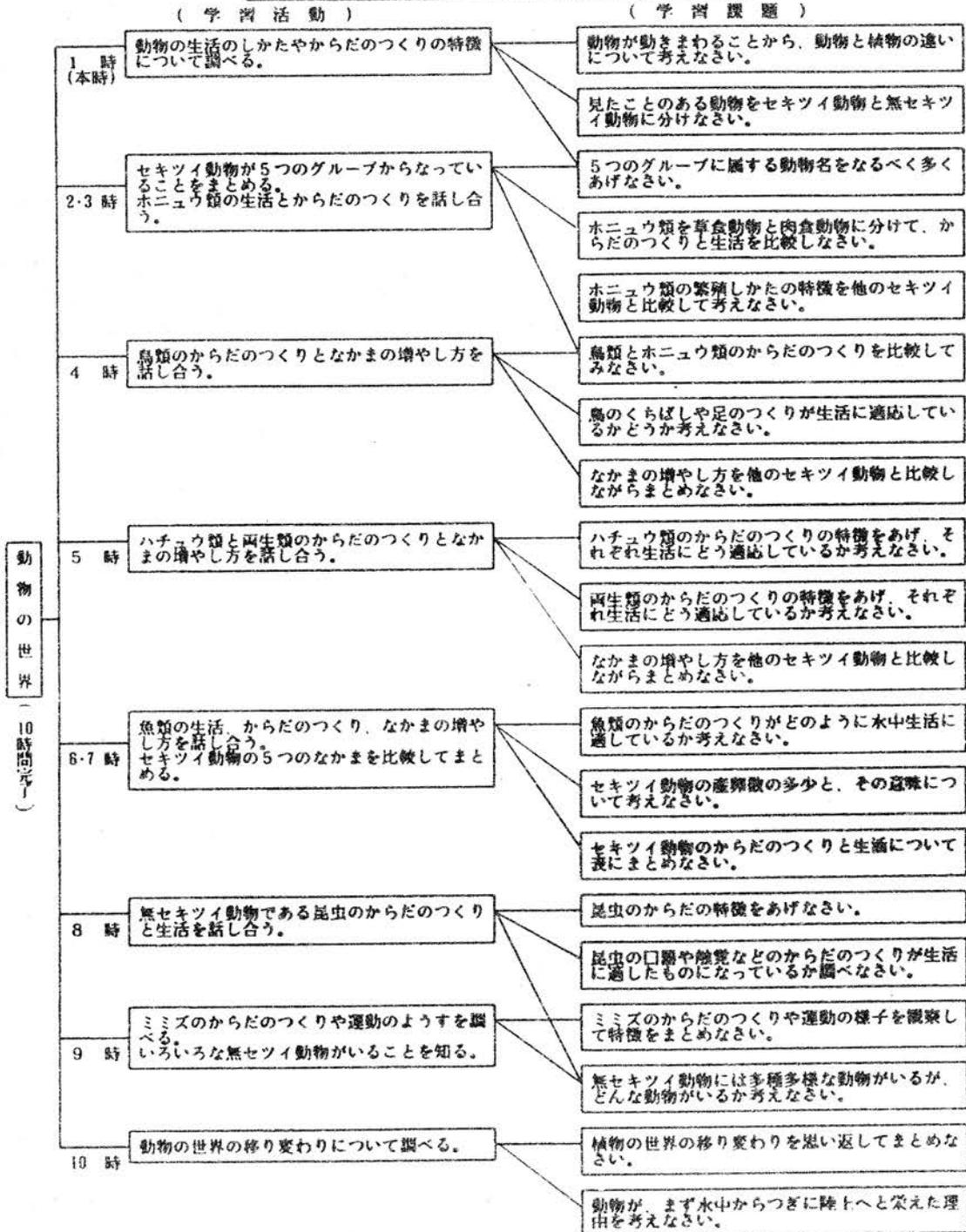
(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 単元についての概観を聞く。 2. 本時の目標を知る。	⑦ ・ 学習課題構成図を説明する。 ・ 態度目標も知らせる。	・ この単元の概観がわかったか。 (観察)
	動物は動きまわらないとなぜ困るか考えなさい。		
中心過程	3. 動物の特徴を植物と比較して考える。 ⑧	・ 食物をとったり身を守るために動くことを押さえる。	・ 動物の特徴が理解されたか。 (観察・発表)
	セキツイ動物の「背骨」の働きを調べなさい。		
中心過程	4. セキツイ動物の運動器官である「背骨」の働きを考える。 (1) セキツイ動物と無セキツイ動物についての説明を聞く。 (2) 読み物「セキツイ動物とは」を読む。 ⑨	・ 「もし自分の背骨がなかったらどうなるか」を考えさせる。 ・ 「背骨」のある動物とない動物の区別を説明する。 ・ 意見が出つくしたら読み物を読ませる。 ・ 特に活発な運動との関係に注目させる。	・ 自分の考えを持って話し合いをしているか。 (輪番法) ・ 背骨の働きがわかったか。 (観察・発表)
	知っている動物の中から、セキツイ動物を見つけなさい。		
中心過程	5. 身の回りの動物のうちセキツイ動物を見つける。 ⑩	・ セキツイ動物は体の中に背骨があることを確認させる。	・ セキツイ動物を見つけたか。 (観察・発表)
	セキツイ動物の生活と体のつくりについてまとめなさい。		
確認過程	6. 本時のまとめをする。 (1) プリントにまとめる。 7. 次時の予告を聞く。 ⑪	・ セキツイ動物の特徴について班で確認させる。 ・ セキツイ動物のくわしい学習を予告する。	・ 活発に話し合っているか。 (机間巡視・プリント)

第1学年理科学習課題構成図

10月 単元・題材名 動物の世界 10時間完了

目標
 ○動物のからだのしくみや習性を知り、動物のからだや生活は環境に適応していることを理解させる。
 ○動物は、その特徴によって分類することができることを理解させる。



第1学年8組数学科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 教室

指導者 伊藤彰

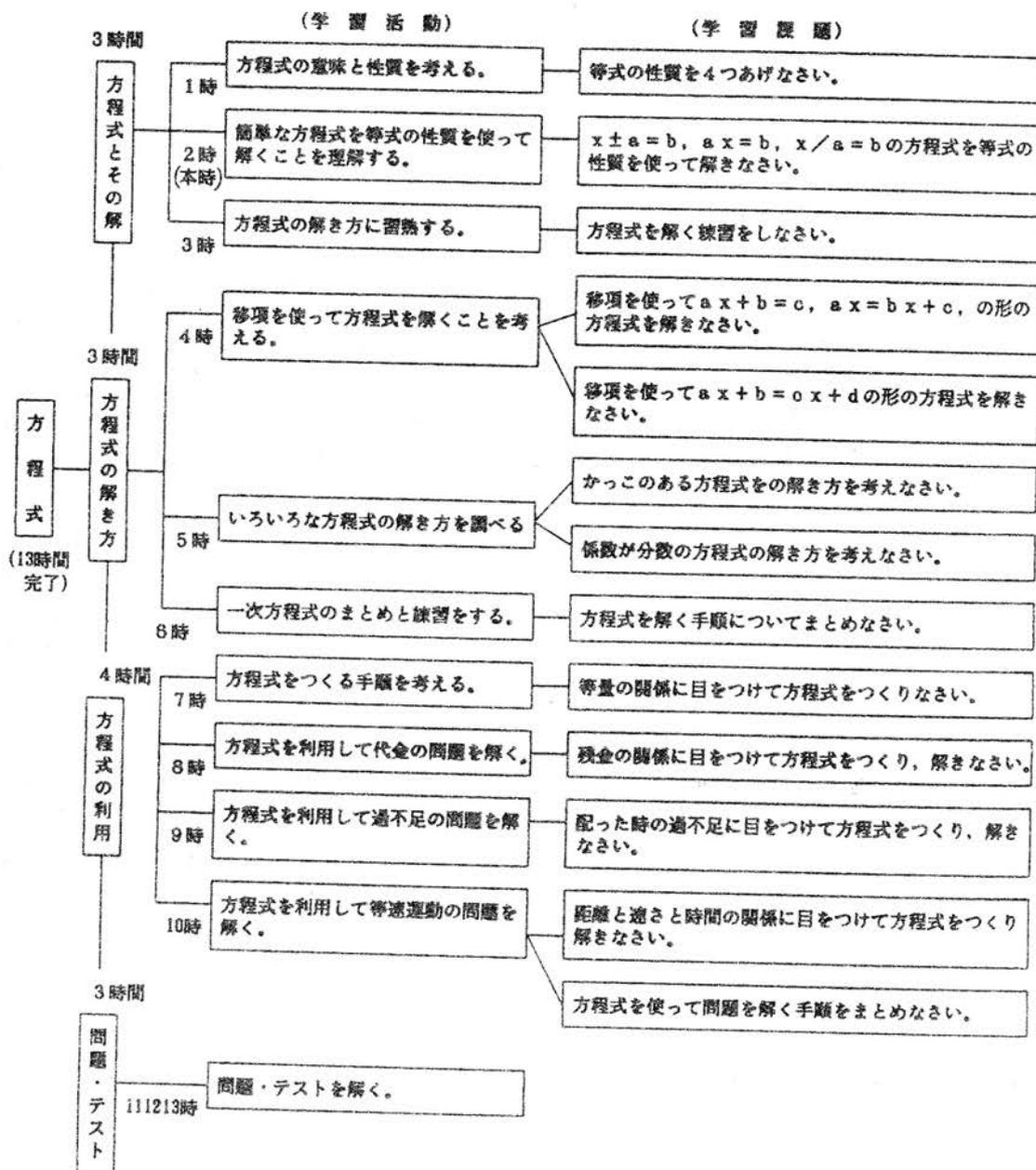
1. 題材 方程式
2. 本時の指導 (本時2/13)
 - (1) 目標
 - 一元一次方程式を等式の性質を使って解く方法を理解させる。
 - 自らの考えを持って、積極的に相互活動に参加させる。
 - (2) 準備 教師 プリント
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 計算練習をする。	○ チャイムと同時に開始させる。	○ 真剣に取り組めたか。 (観察)
	等式の性質を4つ書きなさい。		
中心過程	2. 前時の復習をする。 (1) 各自プリントに書く。 (2) 隣り同士で確認する。	○ 個人、班のルールを徹底させる。 15	○ 等式の性質が確認できたか。 (隣接法)
	3. 本時の目標を知る。	○ 態度目標についても指示する。	
	次の方程式を等式の性質を使って解きなさい。 (1) $x - 9 = 3$ (2) $x + 6 = 2$		
中心過程	4. 等式の性質1, 2を使って方程式を解く。 (1) 各自プリントに解く。 (2) 班で確認し、発表する。	○ 使った等式の性質を発表させる。 10	○ 正しく解けたか。 (ハンドサイン)
	次の方程式を等式の性質を使って解きなさい。 (1) $\frac{x}{4} = -5$ (2) $-8x = 48$		
中心過程	5. 等式の性質3, 4を使って方程式を解く。 (1) 各自プリントに解く。 (2) 班で確認する。 (3) 発表する。	○ (2)の方程式で約分に気をつ 10 けさせる。 ○ 指名して、板書させる。	○ 正しく解けたか。 (発表)
確認過程	教科書P81の練習1を解きなさい。		
	6. 本時のまとめをする。 (1) 各自プリントに解く。 (2) 班で確認する。 (3) 発表する。	○ 速く正確に解くことを心がけ 15 させる。	○ 速く正確に解くことができたか。 (机間巡視)
	7. 次時の予告を聞く。		

第1学年数学科学習課題構成図

10月	単元・題材名	方程式	13時間完了
-----	--------	-----	--------

目標	○方程式とその解の意味を明らかにし、一元一次方程式を等式の性質を使って解く方法を理解させる。 ○移行の意味を理解させ、解法を一般的な手順としてまとめ、一元一次方程式の解き方に習熟させる。 ○方程式を問題解決に利用できるようにさせる。
----	--



第1学年9組美術科学習指導案

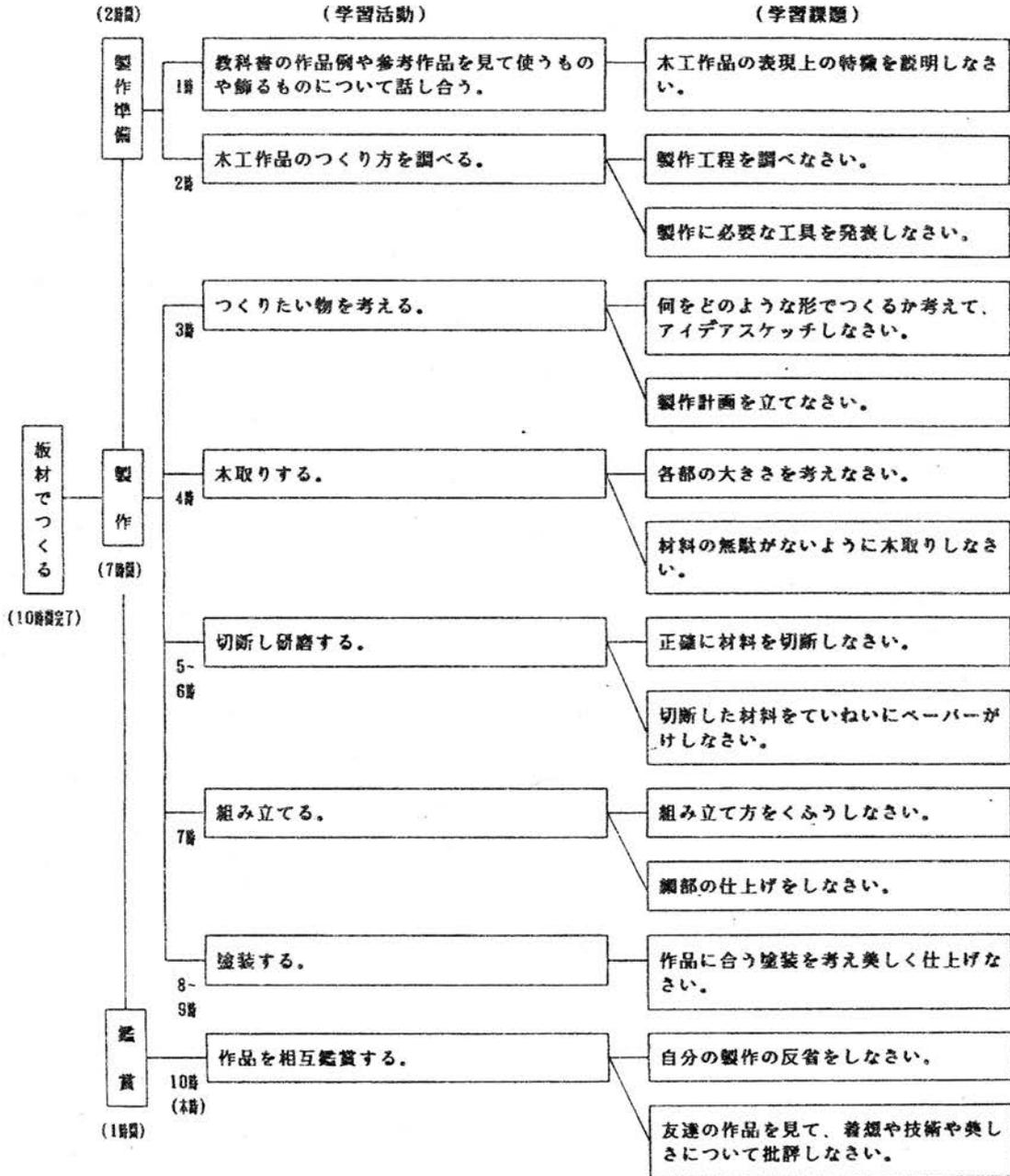
昭和63年10月7日(金)第2時限 第1美術室
指導者 藤城 吉雄

1. 単元 板材でつくる
 2. 本時の学習 (本時10/10)
 (1) 目標 ◦ 使いやすく美しい作品になるように全体のまとめをさせる。
 ◦ 鑑賞の要点や見方を理解させ、木工作品に対する関心と興味を高めさせる。
 (2) 準備 教師 工具・プリント
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	作業の進度を相互に確認しなさい。		
	1. 学習計画を見て本時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 製作に集中して作品のまとめができるような雰囲気にする。 <p style="text-align: center;">③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 進度の検討がされているか。(挙手)
中心過程	細部にも目をくばり作品の仕上げをしなさい。		
	2. 作品の仕上げをする。 (1) 作品のまとめをする。 (2) 身のまわりの整頓をする。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 個別指導で助言を与え、構想に近づくように励ます。 ◦ 製作の遅い生徒には、完成の見通しがつくように指導する。 ◦ 鑑賞がしやすい場づくりに留意する。 <p style="text-align: center;">22</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 集中して製作できているか。(机間巡視)
	完成した作品の反省と、友達作品の鑑賞をしなさい。		
	3. 作品の反省と鑑賞をする。 (1) 観点にそって、自己評価する。 (2) 班ごとに表現意図や技法の工夫などについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 自分の作品を見つめさせ、完成した喜びを味わわせる。 ◦ 気づいた事や工夫した点などもまとめさせ、創意を伸ばす。 ◦ 作品を通して作者の気持ちをくみ取らせる。 <p style="text-align: center;">20</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 正確に自己評価しているか。(机間巡視) ◦ 熱心に批評しているか。(プリント)(机間巡視)
確認過程	本時の学習のまとめをしなさい。		
	4. 本時の反省をする。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 美術作品に対する鑑賞の心がまえを理解させると同時に関心をも高めさせる。 ◦ 友達の批評を読み、新しい作品をつくろうとする意欲を盛り上げさせる。 <p style="text-align: center;">5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 本時の目標は達成されたか。(プリント)
	5. 次時の予告を聞く。		

第1学年美術科学習課題構成図

9～10月	単元名	板材でつくる	10時間完了
目 標	○ 材料の性質や用具の使い方、木工の初歩的な知識や技術を理解させる。 ○ 製作の順序や方法を考え、技法をくふうして表現させる。		



第1学年10組 道徳学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 教室

指導者 小林千益

1. 主 題 割れたガラス (5 寛容と謙虚)
2. ね ら い ◦ 他人の助言や忠告に謙虚に耳を傾け、これを自己の反省と向上に生かしていこうとする気持ちを高める。
◦ 自分の考えを持って、積極的に話し合いに参加する態度を養う。
3. 準 備 教師 ・フラッシュカード 生徒 ・読み物「割れたガラス」、明るい人生
4. 指導過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1 資料「割れたガラス」のあら筋を知る。	◦ フラッシュカードを使用し、あら筋を明確化させる。	◦ あら筋がつかめたか。(発表)
中心過程	主人公の行動をもとに、その気持ちを考えなさい。		
	2 主人公の言動をもとに、問題点を明らかにする。 (1) なぜ、ボールの受け合いを行ったり、注意を無視したのか考える。 (2) 主人公の行動についてどう思うか話し合う。	◦ 主人公の気持ちを考えさせることにより、行動を一面的ではなく、主人公の立場になって考えさせる。	◦ ガラスを割ってしまった本当の原因が理解できたか(机間巡視)(発表)
	3 主人公の日頃の生活態度について考える。 (1) クラスの仲間が注意をしなかった原因について話し合う。	◦ 級友の態度から、主人公の日頃の姿勢を明らかにし、失敗の原因に気づかせる。	
確認過程	なぜ、学級の力で注意をして止められなかったのか話し合いなさい。		
	4 学級集団のあり方に問題がなかったか話し合う。 (1) 大橋さんの発言にはどんな気持ちが込められているか話し合い、考えを深める。	◦ 大橋さんの意見について考えさせ、だまっていることが人間として、よくないことだという点をしっかりつかませる。	◦ 問題を個人ではなく集団として、高めることができたか。(観察)
確認過程	自分たちの生活をふり返って考えなさい。		
	5 自分たちの生活を反省し、他から学ぶ広い心を持つようとする意欲を高める。 (1) 自分たちの生活の中で、同じ様な問題を発表する。 (2) 今日の学習を今後の生活にどの様に生かしたいかまとめる。	◦ 他人の助言や忠告を素直に聞き入れる広い心を持つことが人として大切であることをまとめさせる。	◦ これからの自分を考えることができたか。(点検)

第1学年12組英語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 教室

指導者 稲垣 淳代

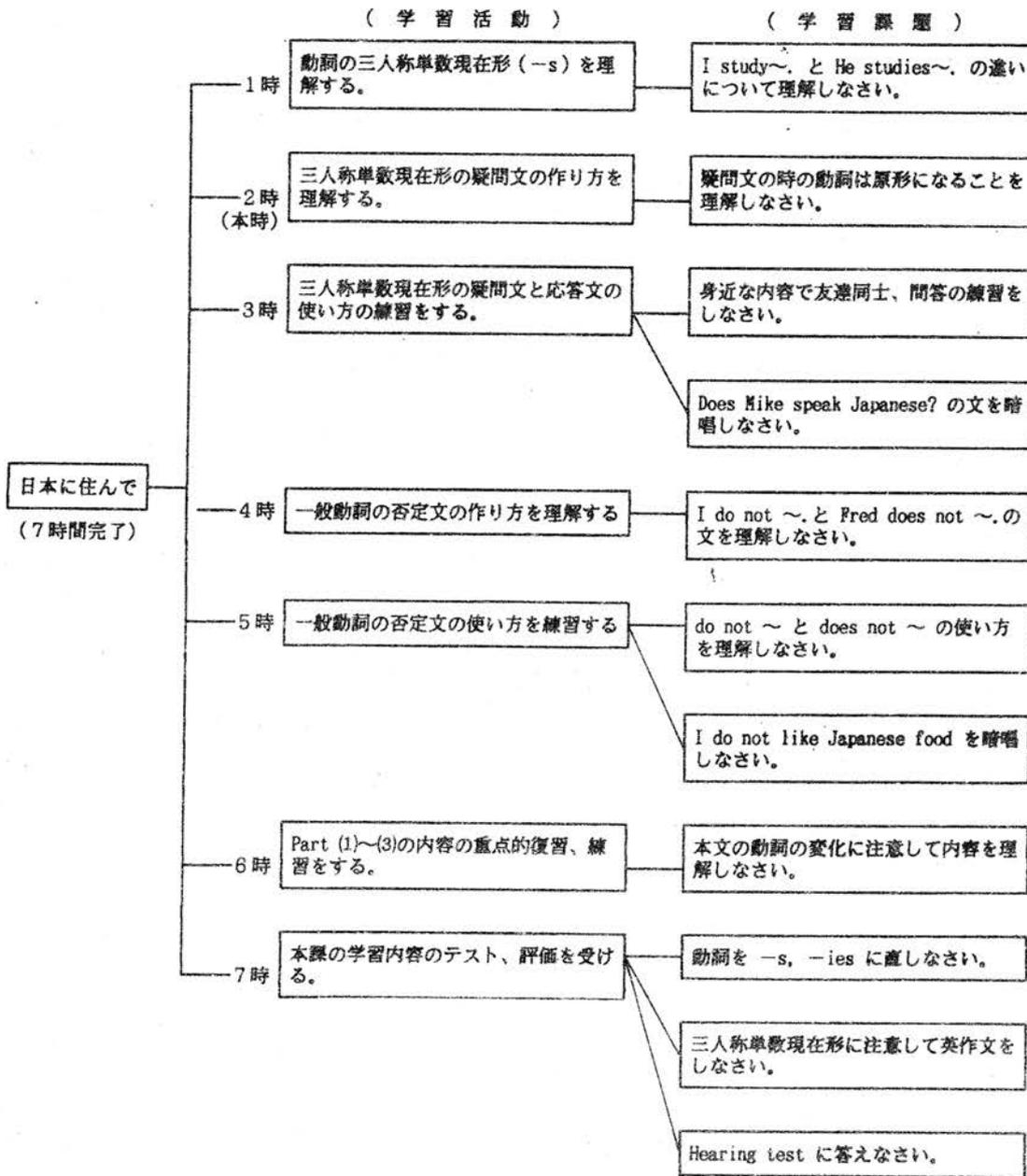
1. 題材 日本に住んで
2. 本時の指導 (本時 2/7)
 - (1) 目標
 - ・ 三人称・単数・現在形の疑問文を理解させる。
 - ・ 班の話し合いや練習を活発に行わせる。
 - (2) 準備 教師 Flash cards, Picture cards, Tape,
 - (3) 学習過程

	学習活動	留意点	評価
準備過程	新出語句の発音・意味を確認しなさい。		
	1. 新出語句を発音する。 (1) 教師の後について発音する。 (2) 語句をノートに練習する。	⑧ Flash cardsを用いてSpeedyに練習させる。 ・ 2分間書かせる。	・ 発音、アクセントは正しいか。(観察)
中心過程	三人称・単数・現在形の疑問文について理解しなさい。		
	2. 新文型学習する。 (1) Doesを用いた文の動詞は原形がくることを理解する。 (2) 疑問文・応答文の練習をする。	・ Do, Doesの疑問文のちがいで示す。 ・ ⑩ 班内で順番に練習させ後で発表させる。	・ 集中して聞いているか。(観察) ・ 相互活動は活発か。(机間巡視)
過程	本文の概要を把握しなさい。		
	3. 本文を読み内容を理解する。 (1) 教師、テープの後について本文を音読する。 (2) 本文の意味を班で話し合う。 (3) 本文の意味を発表する。	・ イントネーションに注意させる。 ・ ⑪ 順番に指名する。	・ 相互活動は活発か。(机間巡視) ・ 本文の内容が理解できたか。(指名)
確認過程	本時の学習内容をまとめなさい。		
	4. 本時のまとめをする。 (1) 板書をノートにまとめる。 (2) 練習問題に取り組む。 (3) 次時の予告を聞く。	・ ポイントを明示する。 ・ ⑦ 机間巡視し、個人指導する。	・ Do, Doesの文がよくわかったか。(机間巡視)

1 学年英語科学習課題構成図

10月	単元・題材名	日本に住んで	7時間完了
-----	--------	--------	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> マイクの日本での生活、マイクや両親の日本語の話しぶり、そして、日本食の好みなどを理解させる。 次の語法を理解させ、表現させる。 <ul style="list-style-type: none"> 動詞の三人称単数現在形（肯定平叙文） 動詞の三人称単数現在形（疑問文と応答文） 一般動詞を用いた否定文
----	---



公開授業 (1) 学習指導案

第2学年

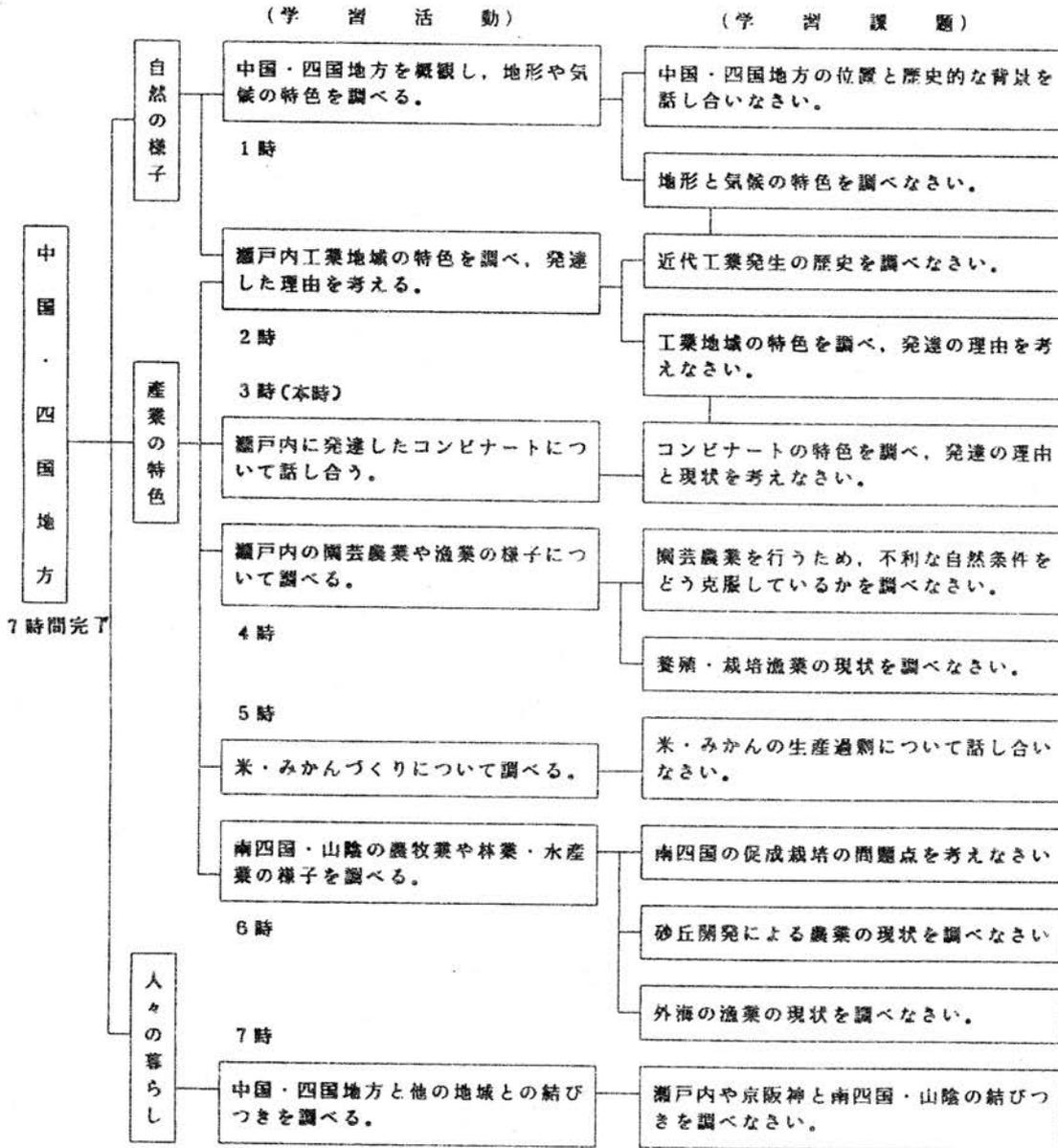
1. 単元 中国・四国地方
 2. 本時の学習 (本時 3 / 7)
 (1) 目標 ○瀬戸内工業地域にコンビナートが発達した理由を考えさせる。
 ○自分の考えを班や全体の場で積極的に発表させる。
 (2) 準備 教師 瀬戸内工業地域の地図(コンビナートの分布)
 生徒 資料集, コンビナートについて調べた用紙
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	コンビナートについて調べてきたことを発表しなさい。		
	1. 本時の目標を知る。 2. コンビナートの特色・仕組みなどについて調べてきたことを発表する。	○態度目標についても指示する。 ⑩ ○1958年に岩国, 大竹コンビナートができたことを知らせコンビナートの特色についても補足する。	○コンビナートの特色・仕組みが理解できたか(挙手・発表)
中 心 過 程	コンビナートの分布を調べ, 発達した理由を考えなさい。		
	3. 中国・四国地方のコンビナートの分布を調べる 4. 瀬戸内沿岸にみられるコンビナートの立地条件を考える。	○分布の特徴に留意させる。 ⑮ ○資料を使って調べさせる。○埋立てと干拓の違いを補足する。	○立地条件が理解できたか。(発表)
	コンビナートによる影響を調べ, コンビナートの良い点と悪い点を話し合いなさい。		
	5. 瀬戸内海の汚染の状況を調べ, コンビナートについて話し合う。	○資料をもとに調べさせる。 ○コンビナートの重要性についても触れさせる。 ⑮	○汚染の状況が理解できたか。(観察・発表) ○自分の考えが発表できたか。(観察・発表)
確 認 過 程	班で本時の学習の感想を発表し合い, まとめなさい。		
	7. 本時の学習について班で話し合う。 8. 板書をまとめ, 次時の予告を聞く。	○一人一つは発表させる。 ⑩ ○瀬戸内の農業と漁業について学習することを伝える。	○ノートにまとめられたか。(観察)

2 学年社会科学習課題構成図

9月	単元・題材名	中国・四国地方	7時間完了
----	--------	---------	-------

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の自然の様子を理解させる。 瀬戸内工業地域の成り立ちと現状を理解させる。 コンビナートの特色とそれが発達した理由や問題点を理解させる。 集約的な農業経営をめざす瀬戸内の農業の特色と瀬戸内海の漁業の現状を理解させる。 南四国と山陰の農牧業や林業・水産業の特色を理解させる。 他地域との結び付きを理解させる。



第2学年2組 国語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 教室

指導者 本田 直樹

- 1、題材 副詞、連体詞、接続詞、感動詞
 2、本時の指導 (本時3/5)
 (1) 目標 ○ 接続詞の性質、働きや種類について理解させる。
 ○ 班での話し合いに積極的に参加させる。
 (2) 準備 教師 プリント
 生徒 新修解明国文法
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	接続詞のもつ性質や働きを確かめなさい。		
	1、接続詞の性質や働きをプリントに記入する。 (1) 各自で取り組む。 (2) 発表する。 2、例文中の中から、接続詞を選ぶ。 (1) 練習問題に取り組む。 (2) 班で話し合い発表する。	○ 日常の言語生活の中で使われている接続詞をもとに考えさせる。 ⑩ ○ まぎらわしい他の品詞に注意させる。	○ 接続詞の性質や働きが確認できたか。 (机間巡視) ○ 正しく選べたか。(挙手)
中 心 過 程	例文中の接続詞を働きによって六つに分類しなさい。		
	3、例文中の接続詞を、働きの上から六つの種類に分ける。 (1) 各自で分類する。 (2) 班で話し合い発表する。 4、接続詞の種類と名称について知る。 5、プリントの整理をする。	○ どんな意味関係があるのかも話し合わせる。 ⑩ ○ 掲示された接続詞の働きと名称を確認する。	○ 全員が積極的に班活動に参加しているか。 (机間巡視) ○ 正しく分類できたか。(挙手)
確 認 過 程	練習問題を解きなさい。		
	6、問題に取り組む。 (1) 問題を各自解く。 (2) 班で確認し発表する。 7、次時の予告を聞く。	○ 机間巡視によって遅進生徒の指導をする。 ○ 挙手によって、定着度を把握する。 ⑩ ○ 感動詞の働きと種類を学習することを知らせる。	○ 接続詞の種類が、理解できたか。(机間巡視)

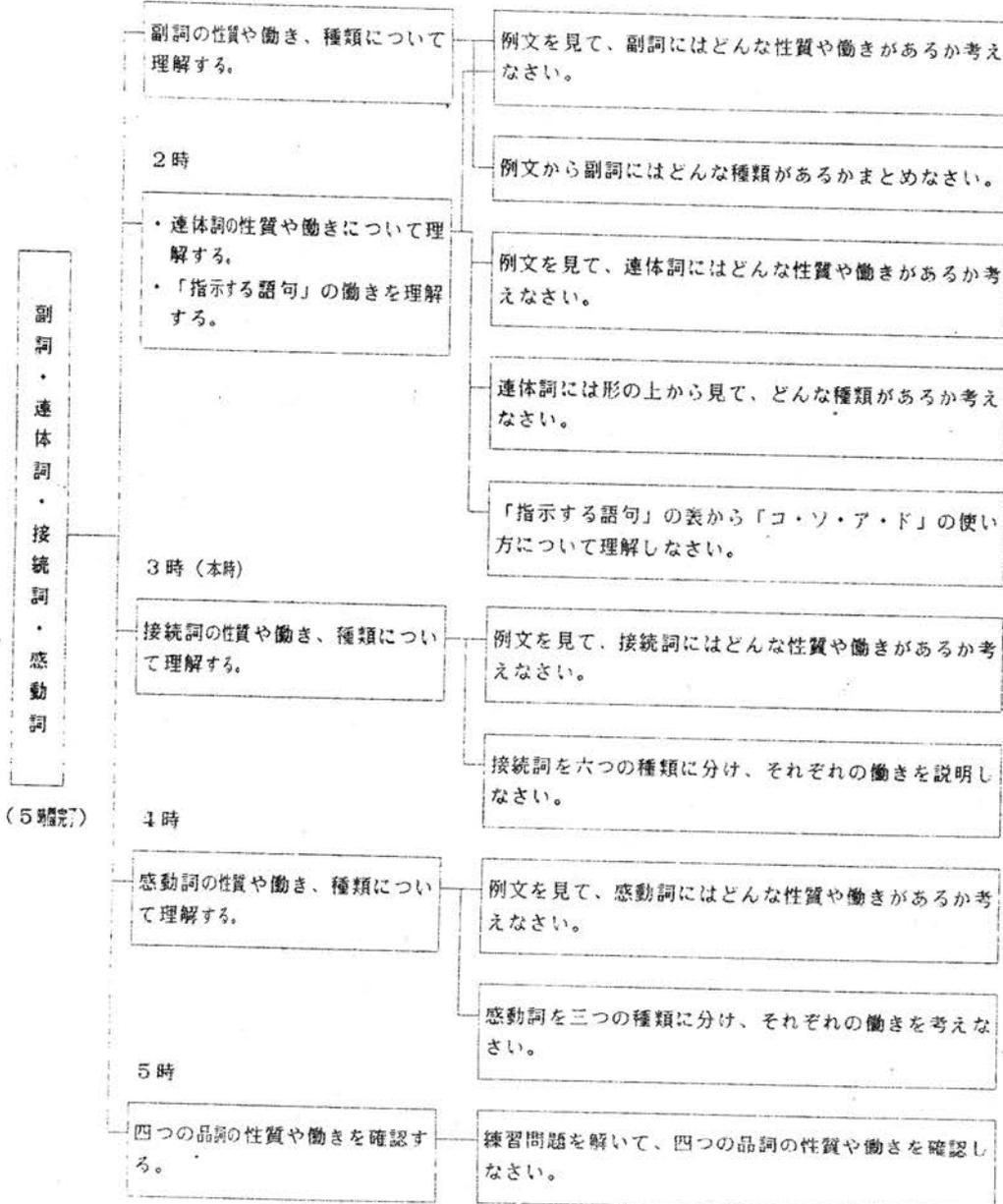
2 学年国語科学習課題構成図

10月	単元・題材名	副詞・連体詞・接続詞・感動詞	5時間完了
-----	--------	----------------	-------

目標	〇四品詞の性質や働きを理解させる。
----	-------------------

1時 (学習内容)

(課 題)



第2学年3組数学科学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第2時限 教室

指導者 松本幸子

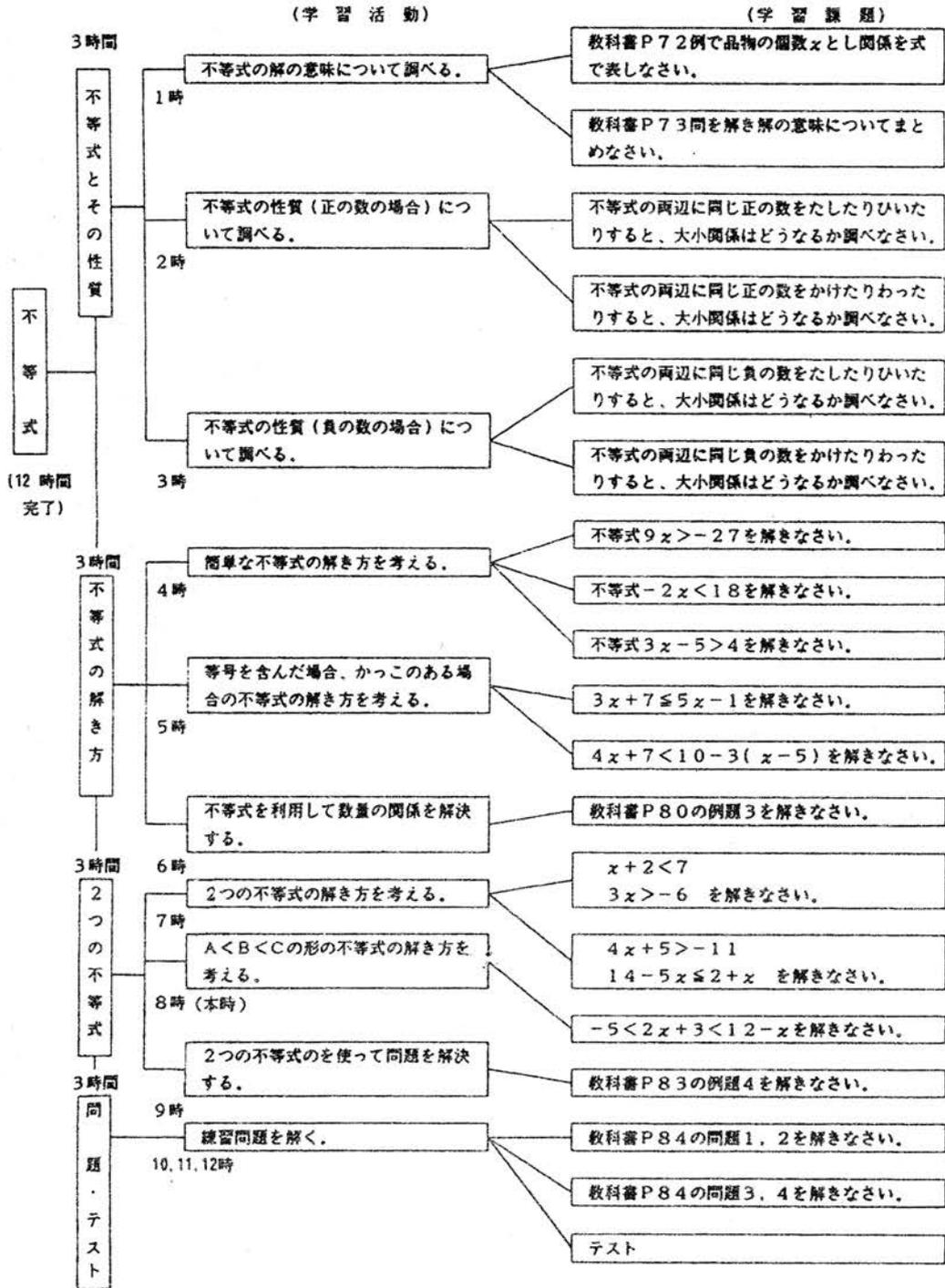
1. 題材 不等式
2. 本時の指導 (本時 8/12)
 - (1) 目標
 - $A < B < C$ の形の不等式が解けるようにさせる。
 - 積極的に班活動に参加させる。
 - (2) 準備 教師 プリント
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 計算練習をする。	⑤ ○ 自己採点させる。	
	不等式 $\begin{cases} x-3 < 1 \\ 12-3x < 2x-3 \end{cases}$ を解きなさい。		
中心過程	2. 上の問題を解く。 (1) 各自解き、発表する。	○ 机間巡視し、個人指導する。 ○ めんどくでも数直線を利用するようにさせる。	○ 正しく解けたか。 (挙手)
	3. 本時の目標を知る。	⑩	
確認過程	不等式 $-5 < 2x+3 < 12-x$ を解きなさい。		
	4. 上の問題を解く。 (1) 2つの不等式に直す。 (2) 各自解き、発表する。	○ $A < B < C$ は $A < B$ と $B < C$ の2つをまとめたものであることに気づかせる。 ○ わからない生徒に教えるように指示する。	○ わけることが理解できたか。(観察)
確認過程	教科書P82 ③ を解きなさい。		
	5. 本時のまとめをする。 (1) 各自解く。 (2) 発表する。 (3) 班で話し合いにより疑問を解決する。	○ 机間巡視し、個人指導する。 ○ 疑問点を班全体で解決するよう指示する。 ○ 余裕のある班は、プリントをやらせる。 ○ 文章題を解くことを知らせる。	○ 正しく解けたか。 (挙手) ○ 積極的に取りくんだか。 (観察)
	6. 次時の予告を聞く。		

2 学年数学科学習課題構成図

9月	題材名	不 等 式	12時間完了
----	-----	-------	--------

目標 ○数量の大小関係を不等式に表せるようにし、不等式とその解の意味、不等式の性質を理解させる。
 ○不等式の性質を使って一元一次不等式を解くことができるようにし、これを問題解決に利用できるようにさせる。
 ○簡単な一元一次不等式を連立させること、および、その解の意味について理解させ、これを解くことができるようにさせる。



第2学年4組英語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 教室
指導者 桑原 進一

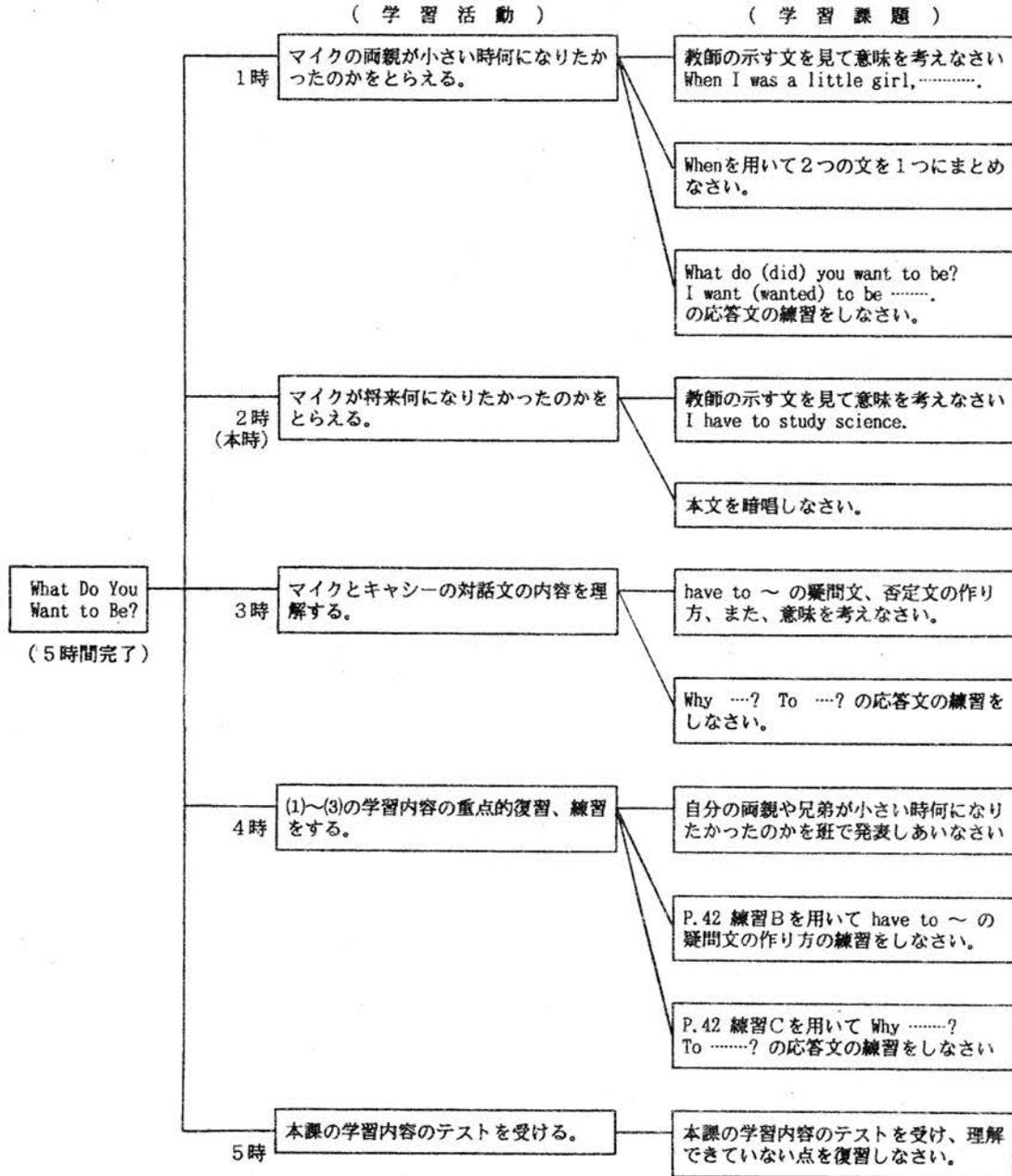
1. 題材 What Do You Want to Be?
2. 本時の指導 (本時 2/5)
 - (1) 目標
 - ・ have(has) to～の文を理解させ、本文を暗唱させる。
 - ・ 班内で協力し合い、疑問を解決しようとする態度を育てる。
 - (2) 準備 教師 TP, OHP, Tape, Print
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	1. 小テストを受ける。 ⑤		・ 新出単語がし っかり書けたか。 (プリント)
	have(has) to ～ の用法を理解しなさい。		
中 心 過 程	2. have(has) to～を学習する。 (1) 教師の示す文を見て意味 を考える。 ⑩ (2) 意味を発表する。 (3) have(has) to～を使った 英文を作る。	・ have(has) toの発音に 注意させる。 ・ have, has の使い分け を確認する。	・ have(has) to がわかったか。 (観察)
	本文の内容を理解しなさい。		
中 心 過 程	3. 本文の内容を理解する。 (1) 教師・テープの後につい て本文を音読する。 (2) 本文の意味を班で話し合 う。 ⑩ (3) 本文の意味を発表する。	・ 短いフレーズで音読さ せる。 ・ 机間巡視し指導する。 ・ 指名する。	・ 相互活動は活 発か。 (机間巡視) ・ 本文の内容が 理解できたか。 (指名)
	本文を暗唱しなさい。		
中 心 過 程	4. 本文を暗唱する。 (1) 各自で暗唱する。 (2) ペアーを決めて会話をす る。 ⑩ (3) 発表する。	・ 各自のペースで暗唱さ せる。 ・ 班内で、役割を決めて 会話させる。 ・ 指名する。	・ 本文の暗唱が できたか。 (指名)
	本時の学習内容をまとめなさい。		
確 認 過 程	5. 本時のまとめをする。 (1) 重要文を確認する。 ⑤ (2) 次時の予告を聞く。	・ ポイントを明示する。	・ ポイントが確 認できたか。 (観察)

2 学年英語科学習課題構成図

10月	単元・題材名	What Do You Want to Be?	5時間完了
-----	--------	-------------------------	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の両親や兄弟について、小さい時何になりたかったのかまた、自分は将来何になりたいと思っているかについての簡単な問答ができるようにさせる。 ○ 次の語法を理解させ、表現できるようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Whenの導く副詞節 ・ have (has) to ~ とその疑問文、否定文 ・ Why? To
----	--



第2学年 7組学級の時間 (学級指導) 指導案

昭和63年10月7日(金) 第2時限 教室

指導者 川本芳久

1. 単元 安全な自転車の乗り方を考えよう
 2. 目標 〇 自転車に関係のある交通法規について理解させ、交通法規を守って安全に乗車する心構えを持たせる。
 〇 自分の意見をもって積極的に話し合いに参加させる。
 3. 準拠 備開 教師 OHP TP プリント

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	<p>これまで経験したり、見たりした交通事故について話し合いなさい。</p> <p>1. 本時の学習内容を知る。 2. 交通事故の経験について話し合い、現場の様子などを発表する。 (1) 自転車事故に限らず、さまざまなケースの交通事故について発表する。 (2) 中学生になるにつれ、自転車の事故が増えることを知る。 (3) 自転車事故の傾向を知る。</p>	<p>〇 態度目標についても指示する。</p> <p>〇 班長を司会者に指名し、輪番法で発表させる。</p> <p>〇 中学生の交通事故のうち約60%が自転車によるものであることを知らせる。</p>	<p>〇 積極的な班活動ができているか。 (机間巡視) 〇 交通事故の実態を理解できたか。 (観察)</p>
中心過程	<p>自転車の危険な乗り方と安全な乗り方のルールについて話し合いなさい。</p> <p>3. 自転車の危険な乗り方について話し合う。 (1) 安全運転義務違反とは具体的にどんな乗り方のことか話し合う。 ・ 運転操作違反 ・ 安全未確認 (2) TPを見て、どんな危険が予想されるか考える。 4. 自転車の安全な乗り方について話し合う。 (1) 自転車に関係の深い交通法規について知る。 ・ 左側通行 ・ 信号や標識 (2) 自転車で交通違反をするとどうなるか話し合う。</p>	<p>〇 班長以外の者を司会者として選ばせる。</p> <p>〇 交通法規違反が事故につながることに気づかせる。</p> <p>〇 交通法規を守っていても事故に遭うこともあるので万用に備えてヘルメットの着用を指導をする。</p> <p>〇 今までどのようなきまりを守ってきたか、どのようなきまりが守られなかったか考え話し合わせる。</p> <p>〇 罰則について知らせる。</p>	<p>〇 意見が活発に出ているか。 (机間巡視)</p> <p>〇 交通法規違反の危険性が理解できたか (挙手・発表)</p> <p>〇 交通法規を守り、安全な自転車の乗り方を理解できたか。 (観察)</p>
確認過程	<p>安全な自転車の乗り方についてまとめなさい。</p> <p>5. 安全な自転車の乗り方をプリントに書く。</p>	<p>〇 ブレーキやライトなどの整備の必要性についても気づかせる。</p> <p>〇 自転車に乗ったときは、プリントを利用して乗り方をチェックするよう指示する。</p>	<p>〇 自転車の安全な乗り方の心構えを持てたか。 (机間巡視)</p>

第2学年8組数学科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 教室

指導者 伊藤 富男

1. 題材 不等式
2. 本時の指導 (本時9/12)
 - (1) 目標
 - 2つの不等式を利用して数量の関係の問題を解くことができるようにさせる。
 - 相互活動の場面で、積極的に発言できるようにさせる。
 - (2) 準備
 - 教師 TP・定木
 - 生徒 計算練習帳
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 計算練習をする。 不等式 $\begin{cases} 4x-1 < 6x+5 \\ 7-8x \geq 9x-10 \end{cases}$ を解きなさい。	⑤ ○ 自己採点させる。	
中	2. 前時の復習をする。 (1) 各自で解く。 (2) 隣接で確認する。 (3) 全体の中で発表する。	○ 課題の不等式を板書する。 ○ 2分間で解かせる。 ⑤ ○ 態度目標についても明示する。	○ 不等式が解けたか。(挙手)
心	3. 本時の目標を知る。 教科書P83例題4を解きなさい。		
過	4. 不等式を用いて文章題を解く。 (1) 問題を把握する。 (2) 隣接で問題を確認する。 (3) 数量の関係を言葉の式に表す。 (4) 不等式を立てる。 (5) 不等式を解く。	○ 問題を把握させたら教科書を閉じさせる。 ○ 指名し問題を発表させながら問題の要点は板書する。 ②⑤ ○ TP上でまとめる。 ○ 「少なくともならない」の表現に注意させる。 ○ まず不等式の解を求めさせる。 ○ 机間巡視をし個別指導する。 ○ 生徒に計算の過程を板書させる。 ○ なしの個数がx個だから解は自然数であることに注意させる。	○ 積極的に取り組めたか。(観察) ○ 不等式を立てれたか。(挙手) ○ 不等式が解けたか。(発表)
程	(6) 不等式の解を発表する。 (7) 解の吟味をする。 (8) 補足説明を聞く。		○ 解を正しく表すことができたか。(観察)
確	教科書P83問4を解きなさい。		
認	5. 本時の復習をする。 (1) 各自で解く。 (2) 班で解を確認する。 (3) 全体の中で発表する。 (4) 補足説明を聞く。	○ 5分間で解かせる。 ○ 生徒に板書させる。	○ 積極的に発言できたか。(観察) ○ 不等式を用いて問題を解くことができたか。(発表)
過	6. 次時の予告を聞く。	⑬ ○ 次時は練習問題を解くことを知らせる。	

1. 単元 電流回路

2. 本時の学習 (本時1/11)

(1) 目標 ○ 豆電球2個と乾電池2個を使った回路における豆電球の明るさについて調べさせる。

○ 協力して実験や話し合いに参加させる。

(2) 準備 教師 豆電球(ソケットつき)、乾電池、導線、乾電池ホルダー
プリント

(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 単元についての概観をする 2. 本時の目標を知る。	○ 課題構成図の説明をする。 ⑤ ○ 態度目標も示す。	
中 心 過 程	豆電球2個と乾電池2個を使った回路をすべて書きなさい。		
	3. 電気用図記号を知る。 4. 回路をできるだけ多く書く。 (1) 個人でノートに書く。 (2) 班で確認する。 (3) 黒板に書いて発表する。	○ 最も簡単な回路を示す。 ○ 豆電球、乾電池の各々に直列・並列つなぎがあることを教える。 ○ 9通り書けているか確認させる。	○ 正確に書けているか。(観察) ○ 他の人と比較しているか。 (相互批評)
通 程	各回路における豆電球の明るさを比較しなさい。		
	5. 豆電球の明るさを比較する。 (1) 明るい順に番号をつける。 (2) 記録をもとに班ごとに発表する。 (3) つなぎ方と明るさとの関係を考察する。	○ 豆電球の明暗は並べてみないと区別が困難なので、同じ回路を何回も組んで比べさせる。 ○ 同じぐらいの明るさには、同じ番号をつけさせる。 ○ 豆電球・乾電池の各々に分けて考えさせる。	○ 協力して実験に参加しているか。 (机間巡視)
確認過程	豆電球の明るさについてまとめなさい。		
	6. 本時のまとめをする。 (1) プリントを解く。 (2) 班で答え合わせをして提出する。 7. 次時の予告を聞く。	○ 応用問題も加える。 ⑤ ○ 電流・電圧について学習することを知らせる。	○ 基礎力・応用力が身についたか。 (プリント)

第2学年3学期科学電流回路教材構成図

10月	単元・題材名	電流回路	11時履完了
-----	--------	------	--------

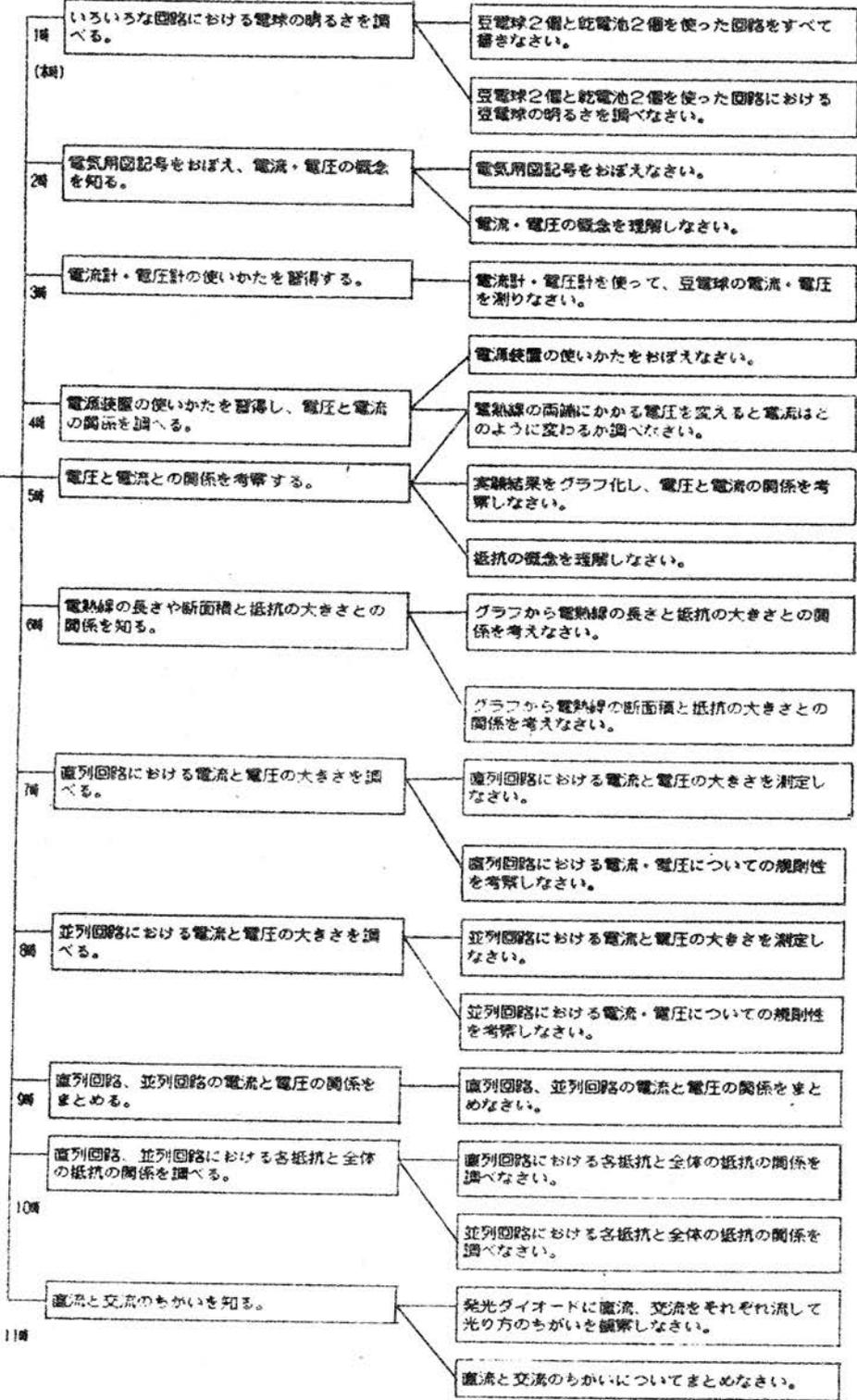
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察を通し、電流回路の基礎的な性質を理解させる。 ○電流・電圧・抵抗の関係を理解させる。
----	---

(学 習 活 動)

(学 習 課 題)

電流回路

(11時間 27)



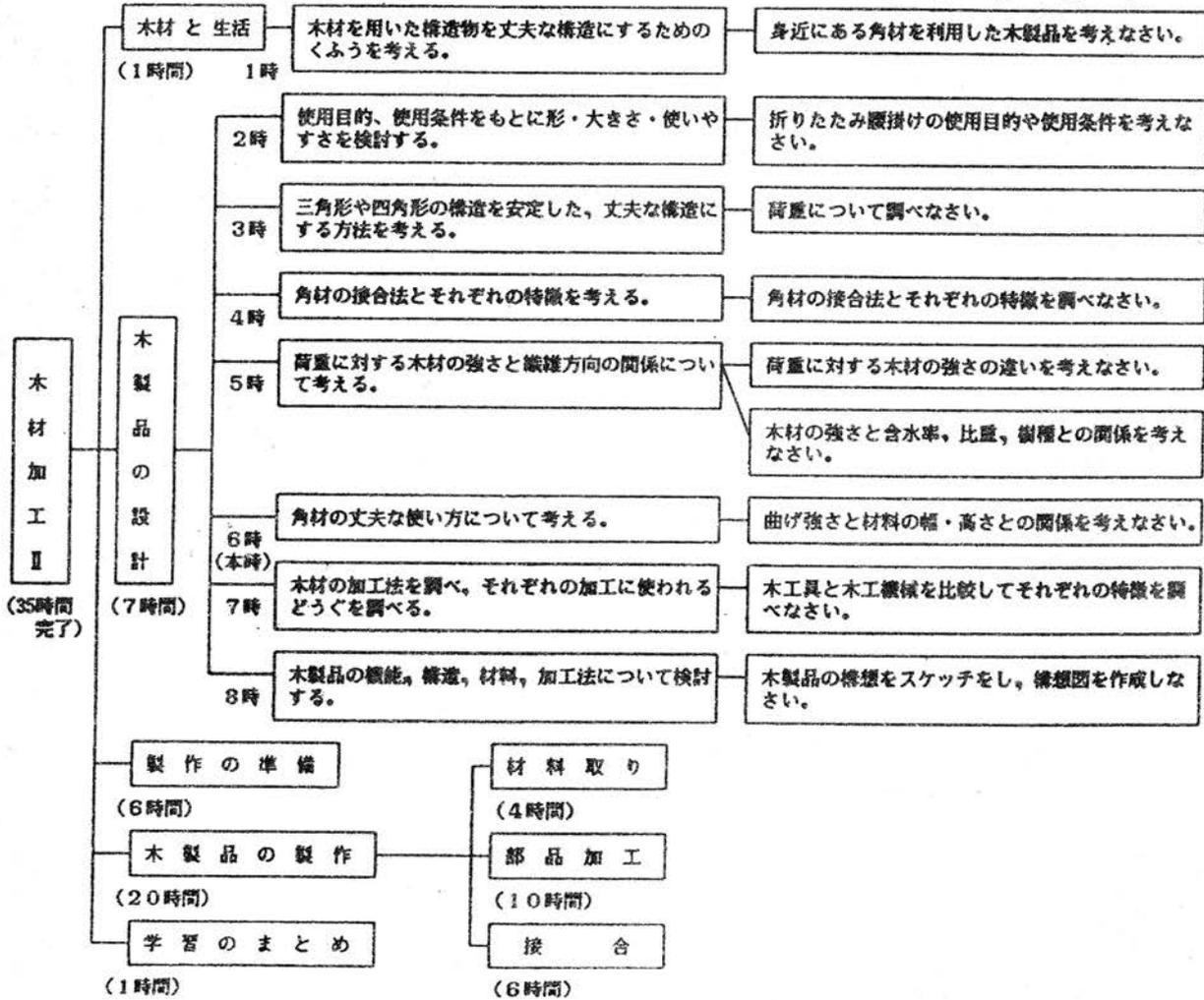
第2学年 技術・家庭科 学習課題構成図

9~12月	単元名	木材加工Ⅱ	35時間完了
-------	-----	-------	--------

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 木製品の設計と製作を通して、荷重と材料及び構造との関係について理解させる。 ○ 部材や構造の強さを増す木材の使用法について理解させる。 ○ 製作を合理的に進めるための準備のしかたを理解させる。 ○ 木工具と木工機械の使用法及びそれらによる加工法について理解させる。 ○ 日常生活や産業の中で果たしている木材の役割を理解させる。
-----	---

(学 習 活 動)

(学 習 課 題)



公開授業 (I) 学習指導案

第3学年

第3学年1・2組保健体育科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 武道場

指導者 吉田 英雄

1. 題材 剣道

2. 本時の指導 (本時4/12)

- (1) 目標 ○ 二段わざ・出ばなわざの技能を修得させる。
 ○ 自他の健康安全に留意させ、練習や試合を通して、自主的に、礼儀正しく互いに協力する態度を養う。

(2) 準備 生徒 竹刀, 評価表

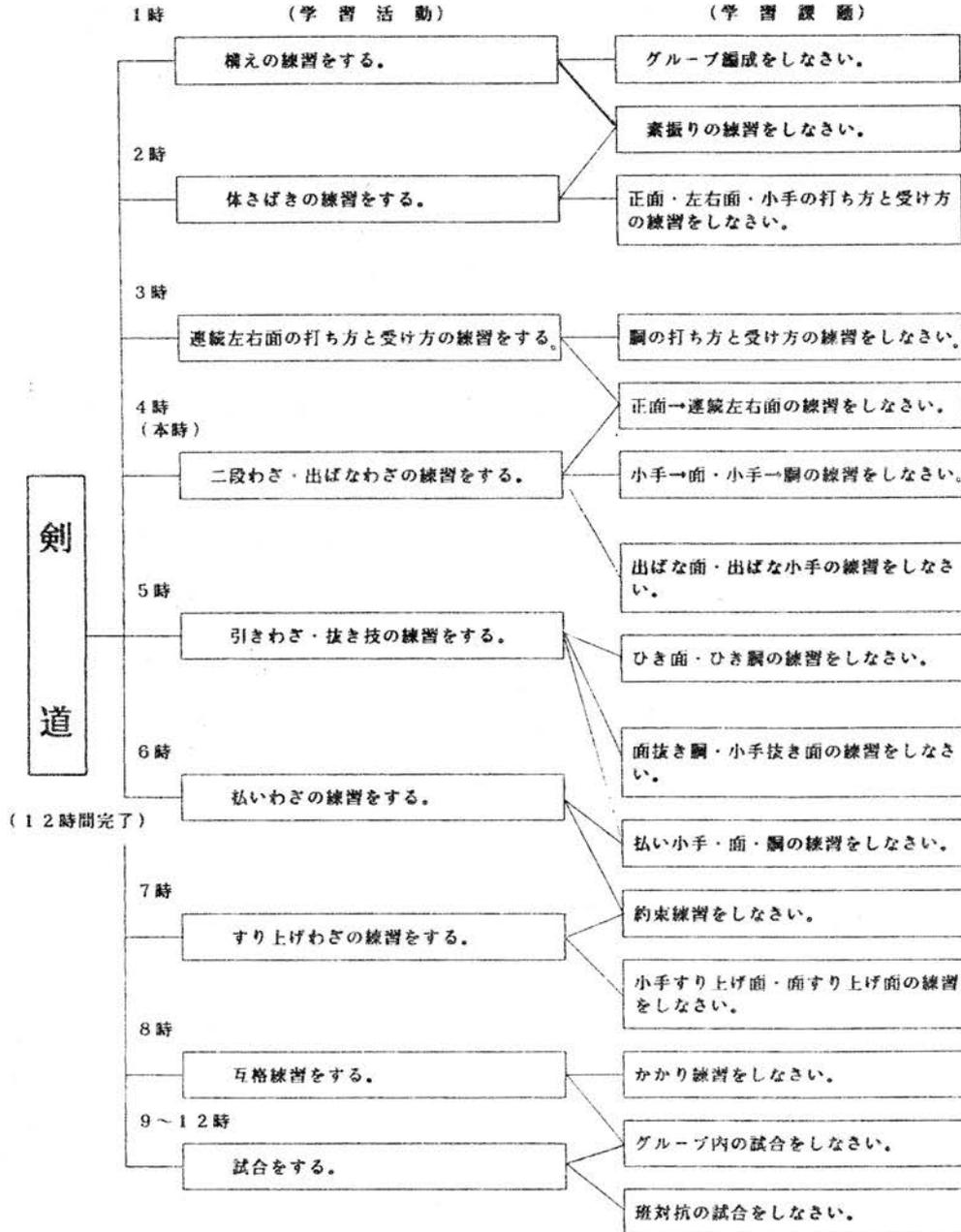
(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	1. 準備運動を行う。 2. 集合・整列し班長は欠席者を報告する。 3. 本時の学習内容を把握し、学習目標を設定する。	○ 健康・安全を確認する。 ○ 見学者への指示をする。 ○ 技能目標と態度目標について指示する。	○ 準備運動が自主的に取り組まれているか。 (観察)
	正面一連続左右面の練習をこなさい。		
中 心 過 程	4. 2人1組になり、正面→連続左右面の打ち方と受け方の練習をする。 (1) 前進・後退しながらの左右面の練習をする。	○ 1本1本を正確に打たせる。 ○ 気合いをこめて練習させる。	○ 互いに協力しながら練習しているか。 (観察)
	二段わざ・出ばなわざの練習をこなさい。		
確 認 過 程	5. 班ごとに、二段わざの練習をする。 (1) 小手→面 (2) 小手→胴 6. 出ばなわざの練習をする。 (1) 出ばな面 (2) 出ばな小手 7. 互格練習をする。 (1) 互いに練習してきたものを試してみる。	○ 正確に速く、連続して打突できるようにさせる。 ○ 受ける者は1歩後退して受けさせる。 ○ 手先のわざにならないように身体全体で、出て打たせる。	○ 正しい姿勢で正確な打突ができているか。 (相互評価)
	本時の反省をこなさい。		
	8. 整理運動をする。 9. 反省し、評価表に記入する。 10. 黙想・座礼。 11. 防具をかたずける。	○ 技能目標と態度目標についての反省点を明確にさせる。	○ 適確な評価ができているか。 (評価表)

第3学年保健体育科学習課題構成図

10月	題材名	剣道	12時間完了
-----	-----	----	--------

目標	○剣道の基本動作や対人的技能を正しく身につけさせる。 ○練習や試合を通して、自主的に、礼儀正しく、互いに協力する態度を養う。 ○用具や練習場の安全を確かめ、禁じ技に留意し、健康・安全に留意して練習を行う態度を養う。
----	---



第3学年1・2組保健体育科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 運動場

指導者 藤田 二 三代

1, 単 元 バレーボール(6人制)

2, 本時の学習 (本時3/14)

- (1) 目 標
- オーバーハンドサーブの技能を習得させる。
 - 自他の健康・安全に留意させ、互いに協力して計画的に練習ができるようにさせる。

(2) 準 備 教師 バレーボール 21個 笛 評価表

(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 集合・整列・準備体操を行う。 2. 班長は欠席者、見学者を調べ報告する。 3. 本時の学習目標を知る。	○健康・安全を確認する。 ○見学者に指示をする。 ○本時のねらいや学習内容を知らせる。	○自主的に活動が行われているか(観察)
	オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの練習をしなさい。		
中心過程	4. 2人1組になり、オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習をする。	○ボールの下に素早く入り、膝を使い、からだ全体でボールを押しだすように練習をさせる。	○既習の技能が身についているか(観察)
	オーバーハンドサーブの練習をしなさい。		
過程	5. オーバーハンドサーブの練習をする。 (1) 2人1組で、ネットより6M離れ、オーバーハンドサーブの練習をする。 (2) エンドラインよりサーブの練習をする。	○ネットに対し、直角に向き、腰をひねりながら体重を前足にかけて打つようにさせる。 ○ボールから目を離さないようにさせる。 ○能力に応じて、距離を伸ばしたり、レシーブを入れたりするようにさせる。	○お互いに注意しながら練習をしていたか(相互批評)
	本時の学習目標を反省しなさい。		
確認過程	6. 反省、整理運動をする。 (1) 班ごとに集合する。 ○各自で反省をする。 ○班ごとに話し合い発表する。 7. 次時の予告と課題を聞く。	○肩、指、腰を中心にしっかりと行わせる。 ○班内で相互評価をさせ、自分では分からない点に気づかせる。 ○次時の課題を告げ、意欲を持たせる。	○本時の目標が達成できたか(発表・評価表)

3 学年保健体育科学習課題構成図

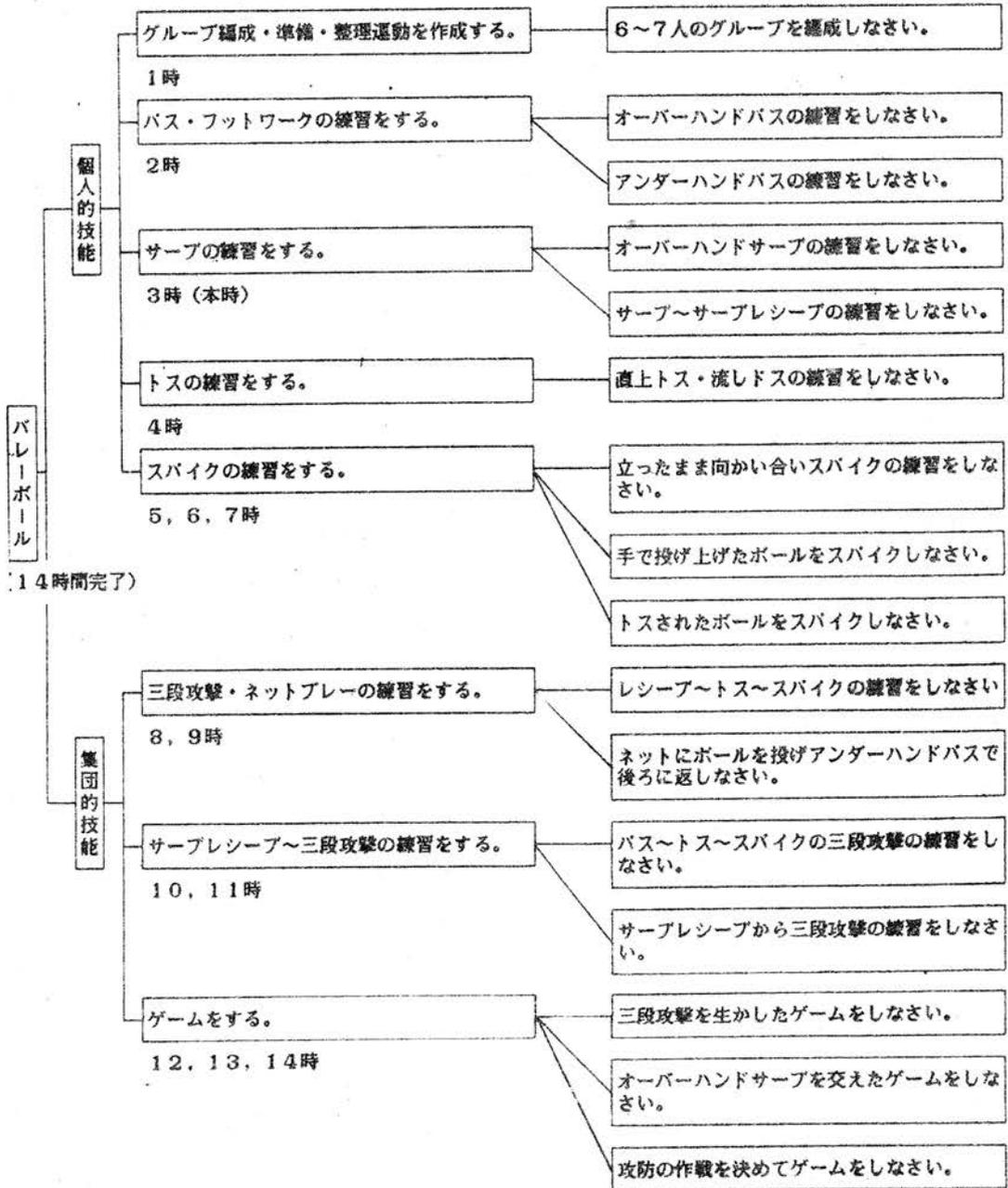
9月	単元名	バレーボール	14時間完了
----	-----	--------	--------

目標

- バレーボールの技能を習得し、集団技能を生かした攻防の仕方を考えてゲームができるようにさせる。
- チームにおける自己の役割を理解して、その責任を果たし、互いに協力して計画的に練習やゲームができるようにさせる。
- ルールを守り、公正な態度でゲームをするとともに、その結果を反省して練習方法などを工夫し、ゲームに活用できるようにさせる。
- コートや用具の安全を確かめ、自他の健康・安全に留意し練習やゲームができるようにさせる。

(学 習 活 動)

(学 習 課 題)



第3学年3組国語科学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第2時限 教室
指導者 竹田 幸代

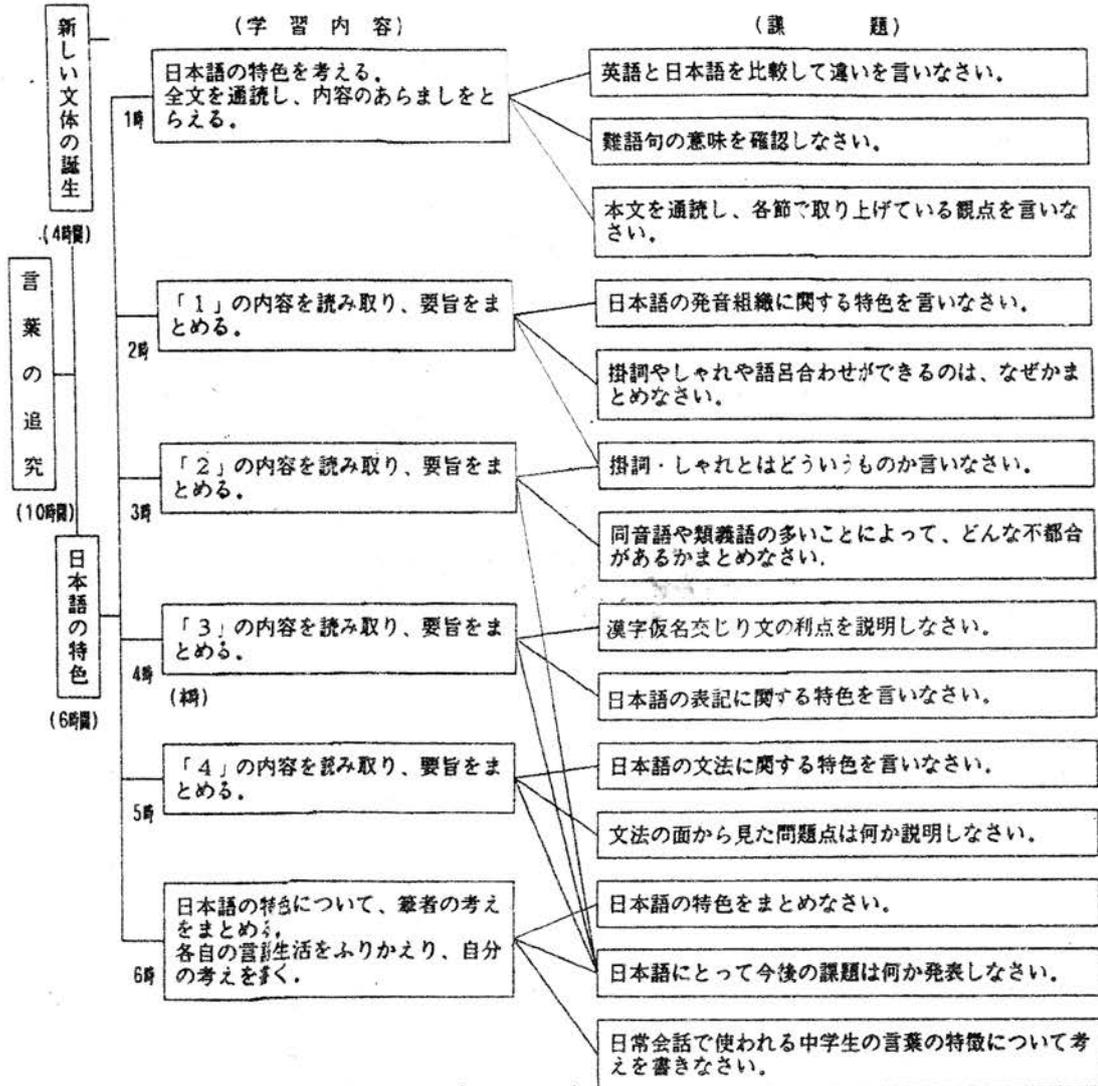
1. 題材 日本語の特色
2. 本時の指導 (本時4/6)
(1) 目標 ○日本語の表記上の特色について読みとり、要旨をまとめさせる。
○読みとったことを班内で積極的に説明、補足させる。
(2) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 予備課題に取り組む。 2. 本時の目標を知る。⑦		
	漢字仮名交じり文の利点を説明しなさい。		
中 心	3. 漢字仮名交じり文の利点を考える。 (1)第三節の1. 2段落を読む。 (2)仮名だけの場合の欠点を考える。⑮ (3)仮名の欠点を補う漢字仮名交じり文の利点を読み取り、班内で説明する。	○班内で形式段落ごとに読ませる。 ○それぞれの例文がどんな欠点を示しているのか考えさせる。 ○仮名だけの場合の不便さに気づかせる。	○読めない所を教えあっているか。 (机間巡視) ○漢字仮名交じり文の利点を説明できたか。 (机間巡視)
	漢字仮名交じり文の特色をまとめなさい。		
過 程	4. 漢字・仮名の日本語への取り入れられ方を知る。 (1)第三節3.4.5 段落を読む。 (2)歴史的に、漢字はどのようにして日本語に取り入れられていったのか読み取り、班内で説明する。⑳ (3)仮名の成立の仕方を読み取る。 5. 漢字仮名交じり文の特色をまとめる。	○2種類の取り入れられ方に気づかせる。 ○漢字・仮名の成立状況から、「表意文字」「表音文字」を確認する。 ○漢字・仮名の性質の違いに注意してまとめさせる。	○順序立てて説明できたか。 (机間巡視) ○特色を読み取れたか。 (観察)
	本時の学習内容を整理しなさい。		
確認過程	6. 本時の学習内容をノートにまとめる。⑤ 7. 次時の予告を聞く。	○第四節の読解を行うことを知らせる。	○ノートにまとめられたか。 (観察)

3 学年国語科学習課題構成図

10月	単元・題材名	言葉の追究	10時間完了
-----	--------	-------	--------

目標	○文章の展開に即して筆者の考えの進め方をとらえさせる。 ○文章の展開に即して内容を的確にとらえさせる。 ○日本語についての理解を深め、言語生活への関心を高めさせる。
----	--



第3学年4組数学科学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第2時限 教室

指導者 桜井 雅弘

1, 題材 円

2, 本時の指導 (本時2/9)

- (1)目標 ○ 三角形の外接円の作図の方法について理解させる。
 ○ 自らの考えをもって、積極的に話し合いに参加させる。
- (2)準備 教師 コンパス・定規・プリント
 生徒 コンパス・定規

(3)学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	2/9 △ABCの3つの頂点のうち、2点B, Cを通る円の中心はどのような線上にあるか考えなさい。		
	1, 円の中心がどのような線上にあるのか考える。 (1)班内で確認しあい発表する。 (2)作図する。 2, 本時の目標を知る。	○ 図にフリーハンドで円をかかせて、中心がどのような線上にあるのかを考えさせる。 ○ 垂直二等分線の作図の方法を確認させる。 ⑩ ○ 態度目標についても指示する。	○ どのような線上にあるのかわかったか。 (机間巡視)
中心過程	3, 三角形の3つの頂点を通る円の存在について考える。 4, 三角形の3つの頂点を通る円の中心の求め方について考える。 (1)班内で話し合う。 (2)発表する。 (3)作図する。 (4)作図の方法をまとめる。	○ 2点を通る円は無数にあるが一直線上にない3点を通る円は1つであることに気づかせる。 ○ 円をかくためには、中心の位置と半径がわからなければいけないことに気づかせる。 ○ 理由についても述べさせる。 ○ 用語「外接円」を知らせる。 ○ 作図の手順をノートにまとめさせる。 ⑫	○ 積極的に話し合いに参加しているか。 (観察) ○ 作図の方法がわかったか。 (挙手)
	確認過程	プリントの作図問題を解きなさい。 5, 本時のまとめをする。 (1)各自で解き、班内で確認する。 6, 次時予告を聞く。	○ 鋭角三角形、直角三角形、鈍角三角形それぞれの外接円の中心の位置に注目させる。 ⑬

正解者なし

評定

△ABCの外接円の中心はBCの垂直二等分線上にある。
 例: 2点B, Cを通る円の中心はBCの垂直二等分線上にある。

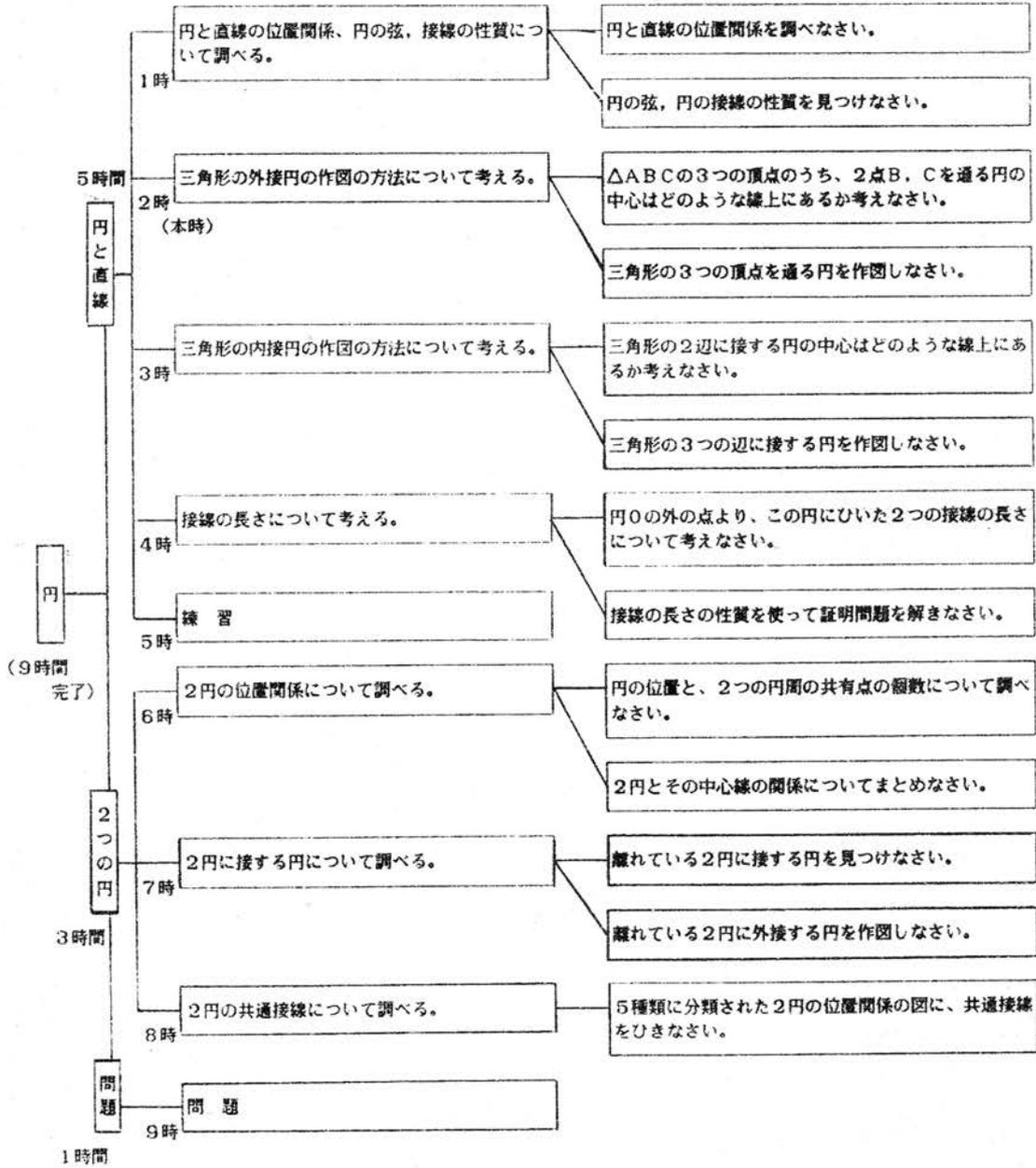
第3学年数学科学習課題構成図

10月	題材名	円	9時間完了
-----	-----	---	-------

目標	○ 円と直線の位置関係を調べ、円の弦、接線の性質を理解させる。 ○ 2つの円の位置関係を調べ、2円の共通弦や接線の性質、共通接線などを理解させる。
----	--

(学習活動)

(学習課題)



第3学年6組音楽科学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第2時限 第1音楽室
指導者 久田 律子

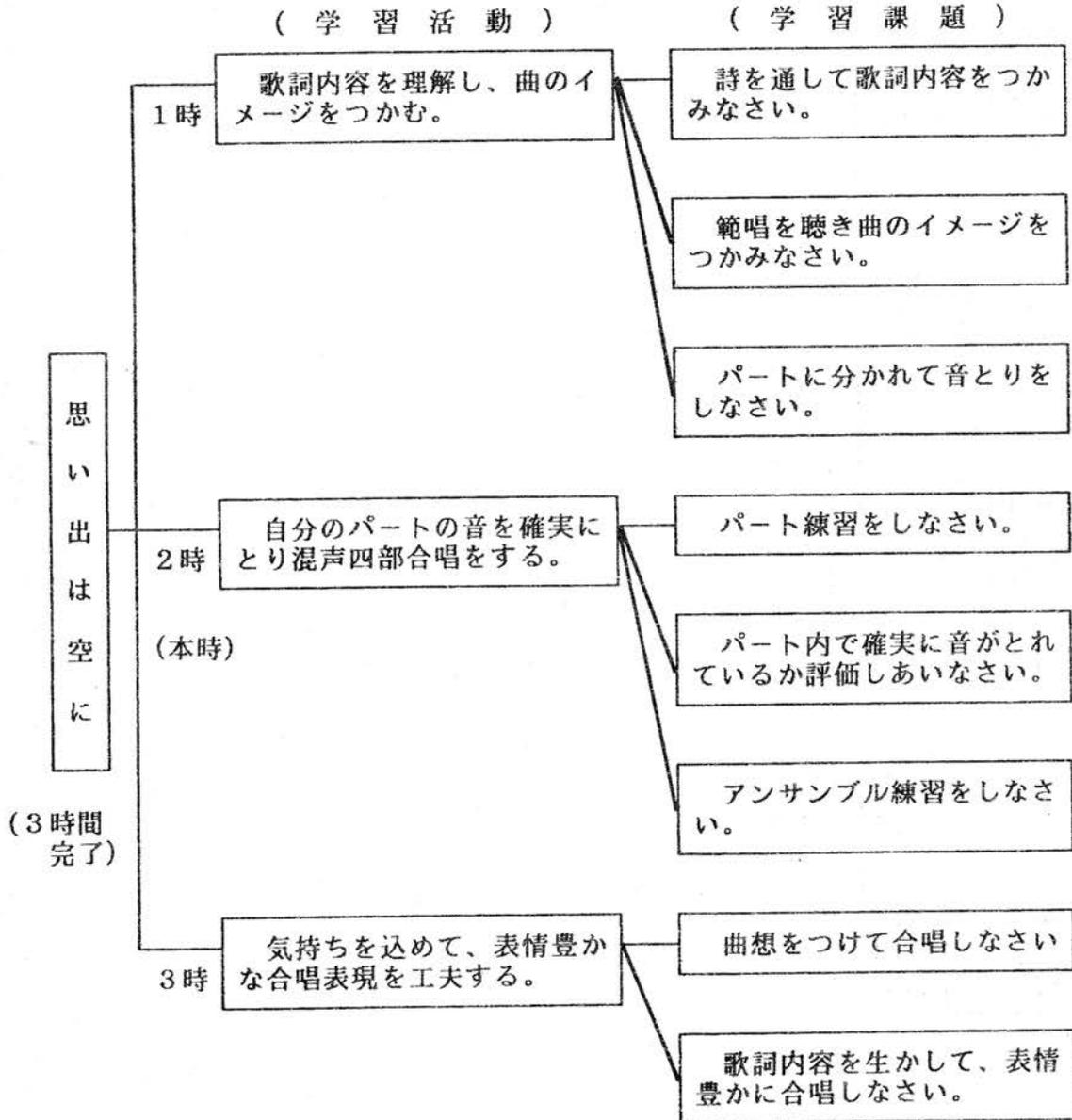
1. 題材 思い出は空に
2. 本時の指導 (本時2/3)
(1) 目標 ○ 自分のパートを確実に歌えるようにさせる。
○ 練習に積極的に参加する態度を養う。
(2) 準備 教師 パート別評価表 自己評価表
(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	既習曲を歌いなさい。		
準備過程	1. 「モルダウの流れ」と「大地讃頌」を合唱する。 (1) 指揮、伴奏に合わせて歌う。	○ ハーモニーを感じとりながら歌わせる	○ 響きを感じながら歌えたか (挙手)
中心過程	自分のパートの旋律が確実に歌えるようにしなさい。		
中心過程	2. 「思い出は空に」の自分のパートの旋律を覚える。 (1) 全体で通して歌う。 (2) 音程のとりにくい部分を中心に、パート練習をする。 (3) パート別評価表に記入する。	○ 音程のとりにくい部分を確認しながら歌わせる。 ○ パートリーダーを中心に部分練習をさせる。 ○ パート内で、2人ずつ歌わせて、評価させる。	○ 相互活動は活発か。 (机間巡視)
中心過程	混声四部合唱をしなさい。		
中心過程	3. 後半の四部合唱の練習をする。 (1) セクションに分かれてアサンブルの練習をする。	○ 他のパートを聴きながら歌わせる。	○ つられずに歌えたか。 (発表)
確認過程	本時の反省をしなさい。		
確認過程	4. 本時の反省をする。 (1) 自己評価表に記入する。 5. 次時予告を聞く。	○ 評価の基準を明示する。 ○ 卒業生のテープを聴き、次時の課題を把握させる。	○ 本時の目標が達成できたか (挙手)

第3学年音楽科学習課題構成図

10月	題材名	思い出は空に	3時間完了
-----	-----	--------	-------

目標	歌詞内容を生かした合唱表現を工夫させる。
----	----------------------



第3学年7組数学科学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第2時限 教室
指導者 山内良仁

1. 題材 円
2. 本時の指導 (本時 1/9)
- (1) 目標 ◦円と直線の位置関係と、円の弦・接線の性質を理解させる。
◦自らの考えを持って、話し合いに参加させる。
- (2) 準備 教師 コンパス, 定規, プリント
生徒 コンパス, 定規
- (3) 学習過程

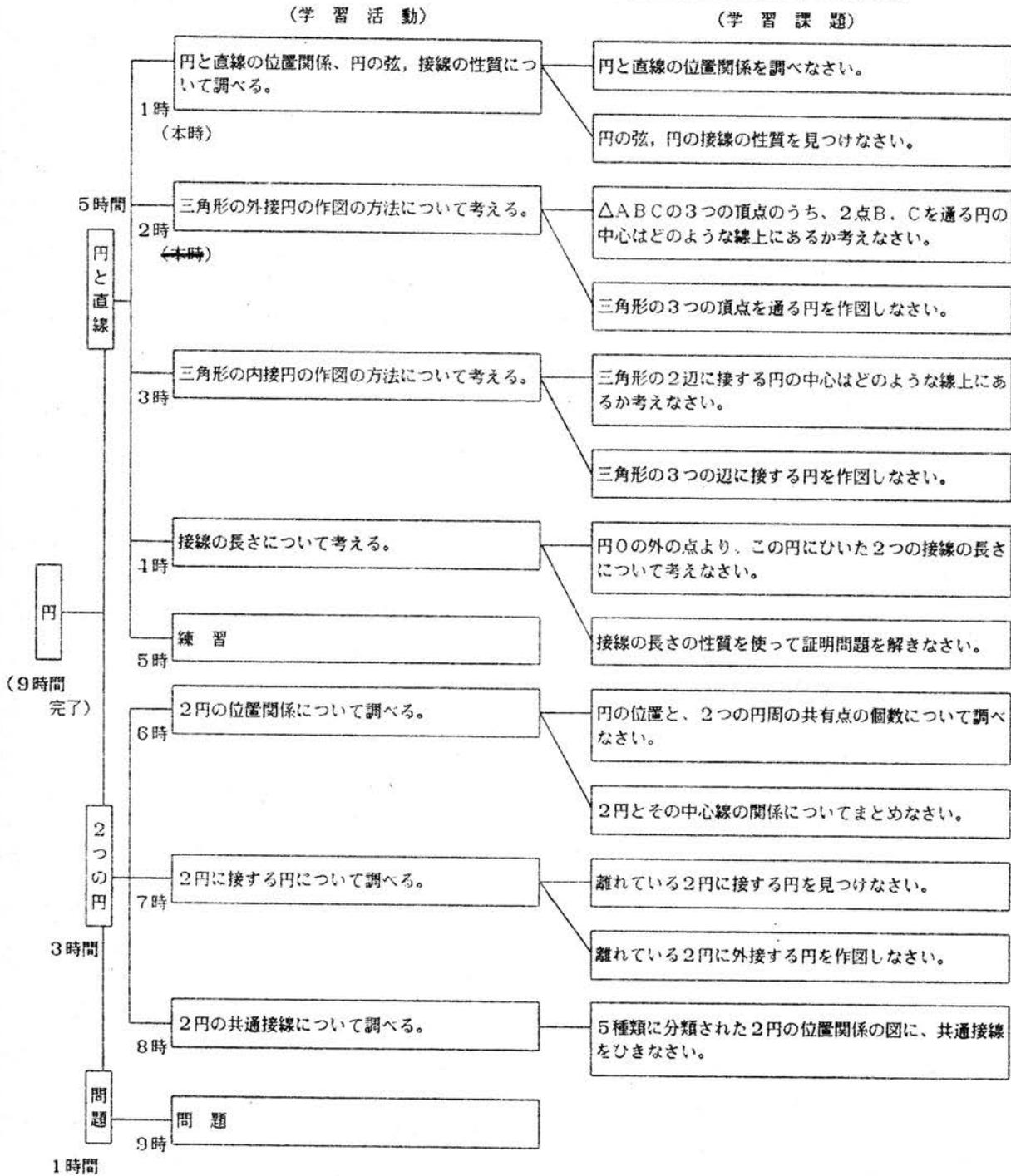
	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	円について知っていることを発表しなさい。		
	1. 円についての既習事項を復習する。 (1)各自ノートに書く。 (2)班で話し合い、発表する。 2. 本時の目標を知る。	◦円の定義と円の対称性をおさえる。 ⑩ 課題構成図を配布し、題材を概観させる。 ◦態度目標にもふれる。	◦話し合いは活発か。 (観察)
中心過程	円と直線の位置関係を調べなさい。		
	3. 共有点の個数で、円と直線の位置関係を分類する。 (1)各自分類してノートに書く。 (2)班で確認し発表する。 (3)まとめを聞く。	◦板書した図で考えかたを示しフリーハンドでノートに書かせる。 ⑩ 半径に垂直な直線を平行移動することで、3つの位置を分類しまとめる。	◦3つに分類できたか。 (挙手)
過	円の弦、円の接線の性質をみつけなさい。		
	4. 2点で交わる場合、接する場合について、その性質をまとめる。 (1)各自2つの図から気づいたことを図に記入する。 (2)班で確認し発表する。	◦長さや角度に着目させる。 ⑮ 新出用語をおさえ、補足説明をする。	◦性質がみつけられたか。 (発表)
確認過程	プリントの円の中心を作図で求めなさい。		
	5. 円の中心を作図で求める。 (1)各自作図の方法を考える。 (2)発表する。 (3)班で確認しながら作図する。 6. 次時の予告を聞く。	◦円の弦の性質を使って作図することに気づかせる。 ⑮ 垂直二等分線の作図方法を思い出させる。	◦円の中心は求められたか。 (机間巡視)

課題構成図を配布し、題材を概観させる。
 半径に垂直な直線を平行移動することで、3つの位置を分類しまとめる。
 円の弦、円の接線の性質をみつけなさい。
 各自2つの図から気づいたことを図に記入する。

第3学年数学科学習課題構成図

10月	題材名	円	9時間完了
-----	-----	---	-------

目標	○ 円と直線の位置関係を調べ、円の弦、接線の性質を理解させる。 ○ 2つの円の位置関係を調べ、2円の共通弦や接線の性質、共通接線などを理解させる。
----	--



第3学年8組理科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 教室

指導者 吉田真

1. 単元 大地もゆれ動く
2. 本時の学習 (本時5/6)
 - (1) 目標
 - 日本列島付近の震源分布の特徴を説明できるようにさせる。
 - 自分の考えを持って話し合いに参加させる。
 - (2) 準備 教師 震源分布模型, TP, プリント
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 予備課題に取り組む。 (1) プリントを行う。 (2) 班で確認しあう。	⑧ 地震のゆれかたのちがいや、初期微動と震源までの関係を確認させる。	○ 正しく解けたか。 (プリント)
中 心 過 程	⑨ どんな場所に震源が集中しているか調べなさい。		
	3 地震のおきる場所はどのようなところか調べる。 (1) 震源が集中している場所の予想を立て、話し合う。 (2) 震源分布模型の説明を聞く。 (3) 地震のおきる場所を調べる。 (4) 地震のおきる場所の特徴を話し合う。	⑮ ○ 予想を立てた根拠を明らかにさせる。 ○ 震源分布の特徴が理解しやすい模型を提示する。 ○ 平面的だけでなく立体的にもとらえさせる。	○ 経験をもとに予想を立てれたか。 (机間巡視・発表) ○ 自分の考えをもって話し合いに参加しているか。 (机間巡視)
確 認 過 程	⑯ 日本付近でおきる地震の原因を考えなさい。		
	4. 地震の原因を考える。 (1) 震源分布模型や震源の分布断面図を使って考える。 (2) 地震の原因とプレートの動きの説明を聞く。	⑰ ○ 火山、断層など多面的に考えさせる。 ○ 震源の分布断面図とプレート図を重ね合わせて説明する。	○ 課題に沿った話し合いが行われているか。 (机間巡視)
確 認 過 程	⑳ 日本付近の震源分布の特徴をまとめなさい。		
	5. 本時の学習内容をまとめる (1) ノートにまとめる。 (2) 自己評価表に記入する。 6. 次時の予告を聞く。	⑩ ○ 震源分布とプレートの動きとの関係を確認させる。 ○ 次時の課題を構成図で確認させる。	○ 日本付近の震源の分布の特徴が理解できたか。 (自己評価表)

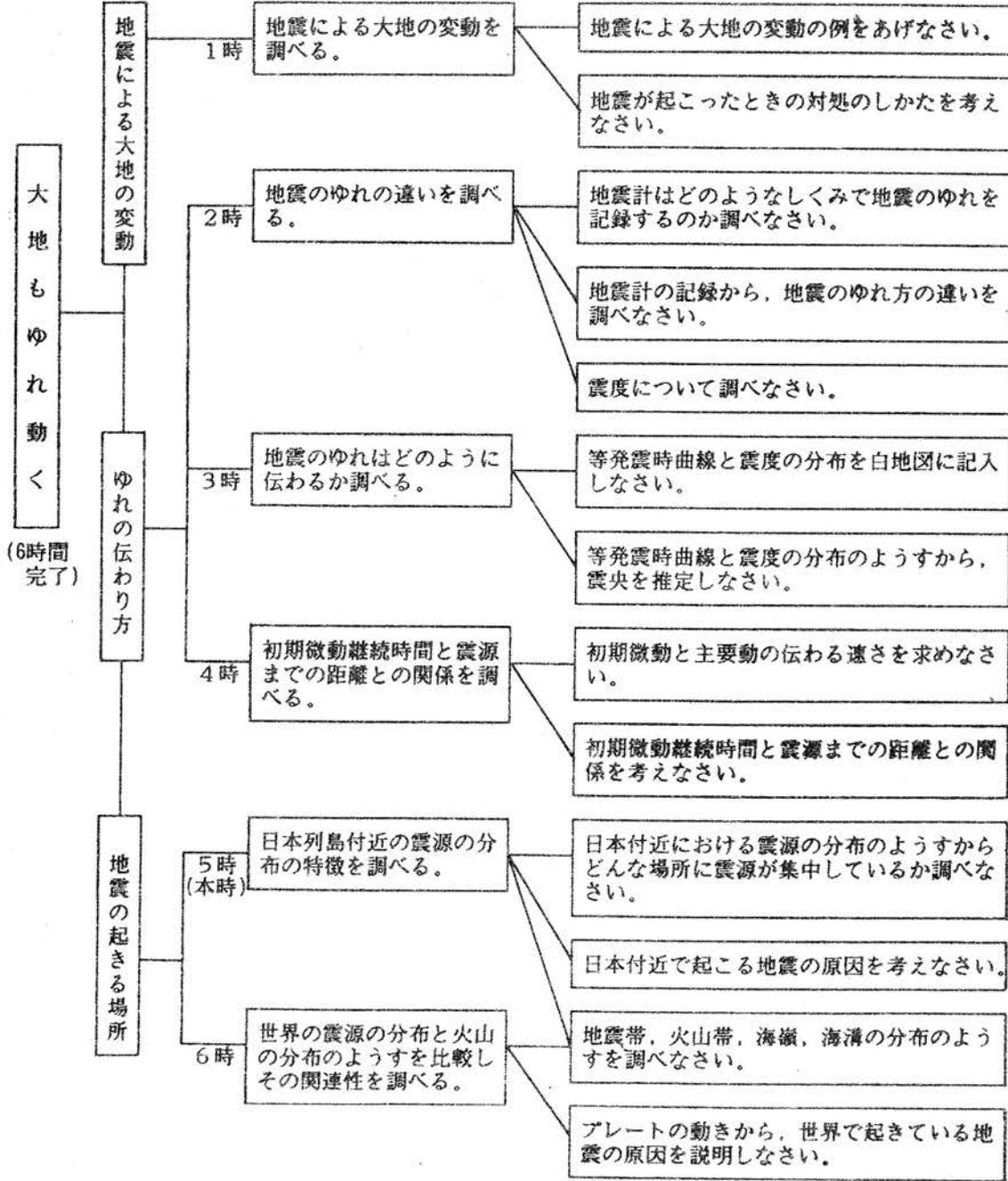
第3学年理科学習課題構成図

10月	单元名	大地もゆれ動く	6時間完了
-----	-----	---------	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> 地震による大地の変動や災害について理解させる。 地震のゆれ方の解析から、震源の分布やエネルギーの大きさを理解させる。
----	---

(学 習 活 動)

(学 習 課 題)



第3学年10組理科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2時限 第2理科室

指導者 石黒照人

1. 単元 酸・アルカリ・塩
 2. 本時の学習 (本時6/10)
 (1) 目標
 ○ 酸性の水溶液とアルカリ性水溶液をまぜ合わせたとき、どのような変化が起こるか実験によって調べ、このときの変化を、 H^+ と OH^- との反応で説明できるようにさせる。
 ○ 実験を、協力しながら慎重に行わせる。
 (2) 準備 教師 うすい塩酸水溶液、うすい水酸化ナトリウム水溶液、BTB溶液、スプーン、ガラス棒、ビーカー、プリント
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	酸性・アルカリ性の原因となるイオンを答えなさい。		
	1. 予備課題に取り組む。 (1) プリントに取り組む。 (2) 班で確認し合う。 2. 本時の目標を知る。	○ 隣接バズを使う。 ③ ○ 板書する。	○ 各イオンを思い出すことができたか。 (発表)
中 心	酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液をまぜ合わせるとどうなるか、イオンをもとに考えなさい。		
	3. 酸性とアルカリ性の水溶液が混ざるとどうなるか、今までの経験とイオンの考えをもとに話し合う。	○ H^+ と OH^- がくっいたらどうなるかに注目させる。 ○ 中和したときのイオンの状態を考えさせる。	○ イオンをもとに考えられたか。 (机間巡視)
過 程	酸性の水溶液とアルカリの水溶液を混ぜるとどうなるか実験しなさい。		
	4. 中和の実験を行う。 (1) 塩酸と水酸化ナトリウム水溶液で実験を行う。 (2) 中和した液を加熱し何が残るか確かめる。	○ BTB溶液を使用する。 ○ 酸性の液体にアルカリ性の液を注入させる。 ○ 中和点付近ではガラス棒につけて加えさせる。	○ 慎重に実験を行い、中和点を見つけられたか。 (机間巡視)
確 認 過 程	酸性とアルカリ性の水溶液を混ぜるとどうなるかまとめなさい。		
	5. イオンをもとに、中和反応に関する変化について確認・まとめをする。 6. 次時予告を聞く。	○ 「中和」「塩」という用語を確実におさえる。 ⑩ ○ プリントに記入させる。 ○ 次時の課題を構造図を用い確認させる。	○ 酸とアルカリを混ぜた時の反応を理解することができたか。 (プリント)

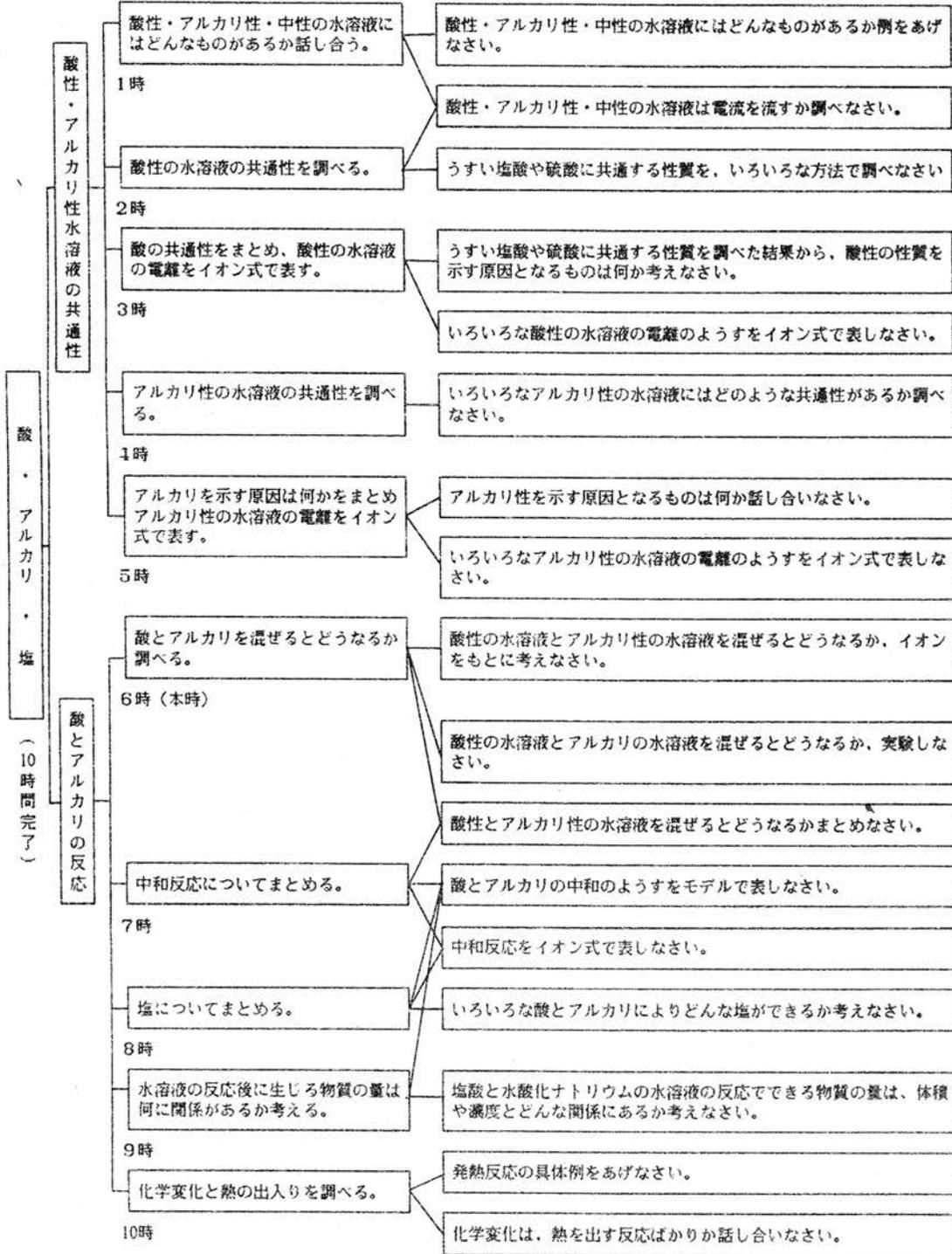
第3学年理科学習課題構成図

9月	単元名	酸・アルカリ・塩	10時間完了
----	-----	----------	--------

目標	<ul style="list-style-type: none"> 酸性・アルカリ性の原因は何か理解させる。 中和反応と塩の生成をイオン式を用いて表させる。 発熱反応と吸熱反応を理解させる。
----	---

(学 習 活 動)

(学 習 課 題)



第3学年 1組 道徳学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第2時限 教室
 指導者 立島雅代

1. 主 題 ぼくの悩み (11. 健全な異性観)
 2. ね ら い ○ 正しい異性観を身につけ、お互いの人格を大事にした明朗な交際を通して、お互いの向上を図る意欲を高める。
 ○ 班で積極的に話し合う態度を養う。
 3. 準 備 教師 明るい人生, P20~P24抜粋プリント①②
 4. 指導過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	男女間のうわさ話について話し合いなさい。		
	1. プリント①を読み、川田のたてたうわさ話に似た経験がないか話し合う。	○ プリント①を指名読みさせる。 ○ 日頃の生活でよく似た場面がないか想起させる。	○自分の経験が発表できたか。(発表)
中 心 過 程	川田と対決しようとした「ぼく」の気持ちを理解しなさい。		
	2. 2人の会話を聞いた「ぼく」の気持ちを想像する。	○ 自分が「ぼく」の立場だったらどうするか考えさせる。	○自分の考えが発表できたか。(発表)
中 心 過 程	3. 明るい人生P24L14~P22L9までのあらすじを聞き「ぼく」の気持ちを知る。	○ 男女間の陰口が相手をどのように傷つけるかを知らせる。	○「ぼく」の気持ちが理解できたか。(観察)
	Kさんを避けてしまう「ぼく」の態度について考えなさい。		
中 心 過 程	4. プリント②を読み、「ぼく」の態度について話し合う。	○ プリント②を指名読みさせる。 ○ Kさんに対する好意とは反対の態度をとってしまう「ぼく」について批判・弁護の意見を出させる。	○自分の意見が発表できたか。(発表)
	明朗な交際のあり方への自覚を深めなさい。		
確認過程	5. 「明るい人生」P24L3~終わりまでの朗読を聞き、明朗な交際のあり方について考える。	○ 印象的に読み聞かせる。 ○ Kさんの言葉に着目させる。	○資料から学んだ点もふくめ、自分の考えを書けたか。(作文発表)

第3学年 1 2組 数学科 学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第2時限 教室

指導者 澤田 由道

1. 題材 円

2. 本時の指導 (本時 1/9)

- (1) 目標 ○ 円と直線の位置関係と、円の弦・接線の性質を理解させる。
○ 自分の考えをもち、班内で話し合うことができるようにさせる。

- (2) 準備 教師 コンパス、定規、プリント
生徒 コンパス、定規

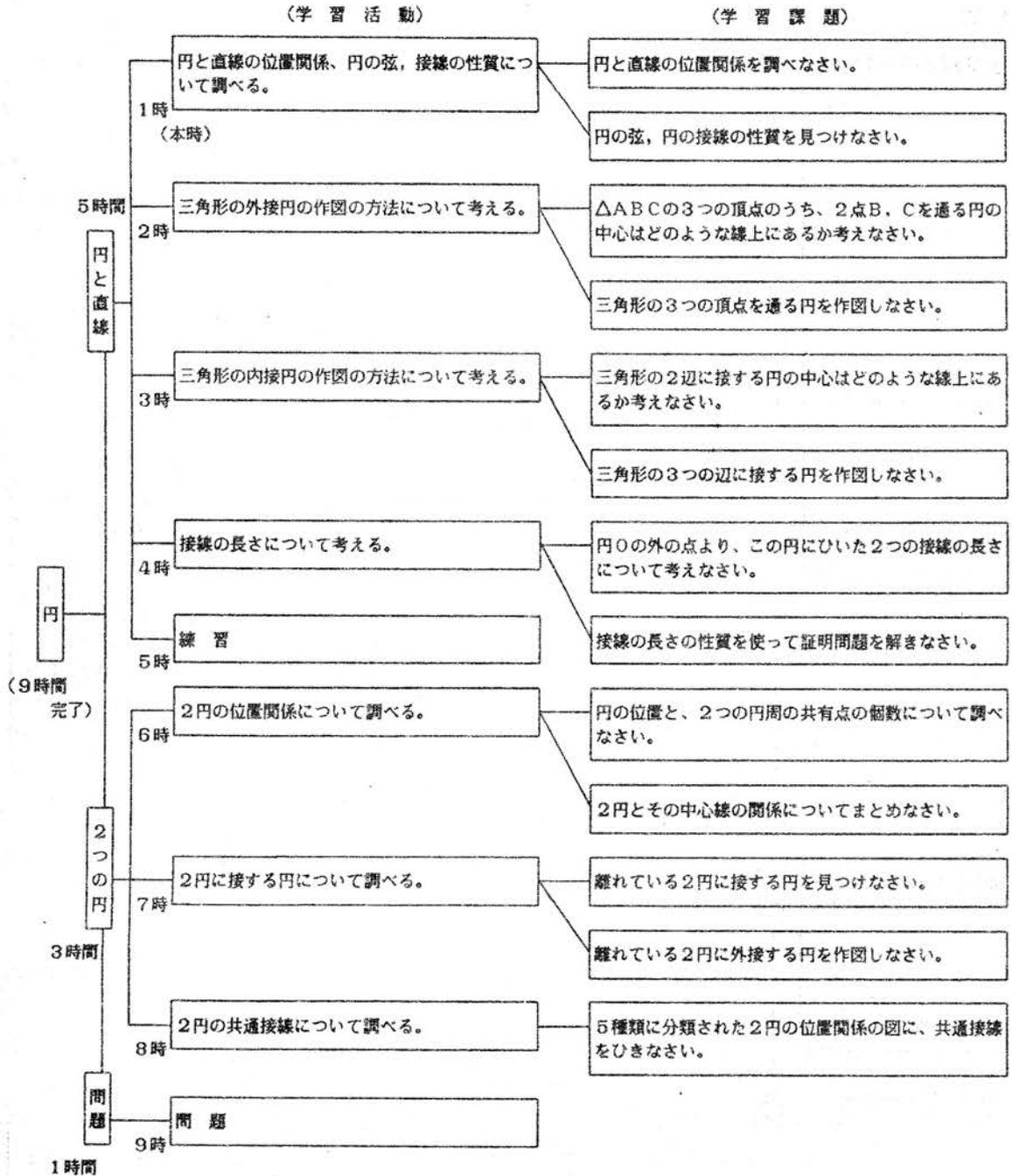
(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備 過 程	円について知っていることをすべて書きなさい。		
	1. 既習事項の復習をする。 (1) 各自プリントに記入する。 (2) 班で話し合う。 (3) 発表し確認する。	○ 今までに学習した、円に関する内容をできる限り思い出させる。 ⑮ ○ 円の対称性をおさえておく。 ○ 課題構成図を配布し、説明する。	○話し合いが活発に行われているか。 (観察)
	2. 題材についての概観を聞く。		
中 心 過 程	円と直線の位置関係を調べなさい。		
	4. 円と直線の位置関係についてまとめる。 (1) 各自プリントに作図して考える。 (2) 班で確認する。 (3) 発表し、まとめる。	○ 円と直線の共有点の個数に注目させる。 ⑮ ○ 中心から直線までの距離を使って考えさせる。	○自分で考えているか。 (机間巡視) ○位置関係が理解できたか。 (観察)
	5. 円の弦、接線の性質を見つけないさい。		
確 認 過 程	円の弦、接線の性質をまとめる。 (1) 図を見て気がつくことを書く。 (2) 発表しまとめる。		
	○ 直感でよいので答えさせる。 ○ 角度、長さに注目して考えさせる。	○性質が見つけられたか。 (発表)	
確 認 過 程	本時の学習内容をまとめなさい。		
	6. 本時のまとめをする。 (1) 教師のまとめを聞く。 (2) 班で確認する。	○ 用語の指導をする。 ⑩	○本時の学習内容が理解できたか。 (相互評価)
	7. 次時の予告を聞く。	○ 外接円について学習することを告げる。	

第3学年数学科学習課題構成図

10月	題材名	円	9時間完了
-----	-----	---	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 円と直線の位置関係を調べ、円の弦、接線の性質を理解させる。 ○ 2つの円の位置関係を調べ、2円の共通弦や接線の性質、共通接線などを理解させる。
----	--



実務学級 1 組・2 組作業学習指導案

昭和63年10月7日(金)第2.3時限実務作業室

指導者 渡辺敦子

高島 顯

小森好治

1. 題材 進んで仕事に参加しよう(化粧箱作り)

2. 題材観 本校は、年間を通して、紙器製造を作業学習の柱として、カリキュラムに取り入れ、授業を2時限単位で行っている。作業実習の中で紙器製造の目的は、社会へ出て、自立するための条件として、働くということを生徒自身に意識を持たせ、なるべく職場に近い環境や状況をつくり、職場の厳しさを体験させ、就職の訓練として行っている。

3. 本時の指導 (本時1/6. 2/6)

- (1) 目標
- ・ 箱を正確に早くつくることができるようにさせる。
 - ・ 周りの状況や能率を考えて、協力し合って作業を進めることができるようにさせる。
 - ・ 作業に集中して、最後まで持続することができるようにさせる。
 - ・ 自分の意見や考えをはっきり言って、話し合いに参加させる。

(2) 準備 教師：化粧箱材料、 生徒：ハンカチ、はながみ

(3) 学習過程

学習活動	個人別到達目標									
	E. O (3年女)	N. T (3年男)	H. M (2年男)	K. i (2年男)	M. K (2年男)	M. M (1年女)	K. Y (3年男)	R. Y (3年女)	H. H (1年男)	A. Y (1年男)
1. 本時の学習を知る。	・説明を聞いて学習内容を理解し、意欲的に取り組もうという気持ちを持つことができる。						・教師の説明に注目することができる。			
2. 紙器組み立て作業の準備をする。	・要領よく、早くきれいに折ることができる。				・作業に集中して正確に折ることができる。			・不良品をなるべく少くして、5分間手を休めることなく折り続けることができる。		
② ・1回目(5分間)の紙器折り作業を行い折った数を報告する。	・折った数を早く正確に教え報告することができる。					・数量を大きな声で報告することができる。		・教師の助けを得ながら折った数を教え、正しい言葉ではっきりと報告することができる。		
・2回目の折り作業を行い折った数を報告する。	・1回目の折り作業をもとにさらに要領よく、より多く折ることができる。 ・個人の能力に応じて数を報告することができる。									

学習活動	個人別到達目標									
	E. O (3年女)	N. T (3年男)	H. M (2年男)	K. I (2年男)	M. K (2年男)	M. M (1年女)	K. Y (3年男)	R. Y (3年女)	H. H (1年男)	A. Y (1年男)
3. 本時の作業学習の目標を決める。 ・各自考え⑩ 班で話し合う。 ・目標を発表する。	・前時の作業を省みて、その反省を生かした目標を考えることができる。			・能率よく作るために、また不良品をださないためにはどうすればいいかを具体的に考えることができる。			・他の生徒の発言に注目し、内容を聞きとることができる。 ・教示によって自分の目標が理解できる。			
	・積極的に班の話し合いを進め、具体的に目標を発表することができる。		・班長の指示に従い、目標をはっきりと大きな声で発表することができる。				・教師の助言を得ながら目標を発表できる。			
4. 作業行程を考え、分担を決め、組み立て作業の準備をする。 5. 組み立て作業を行う。 ※作業中にトイレや作業以外のことで動く場合、自分から教師に報告し、教師の指示に従う。	・前時までの経験から、自分に適した分担を複数考え、発表することができる。組み立て作業の準備体制がとれる。				・前時までの分担を発表し、組み立て作業の準備をすることができる。			・教示に従って自分の分担に着き、組み立て作業の準備をし、作業をする心構えができる。		
	・作業のスピードアップをはかり、能率よく作業を行うことができる。				・自分の仕事に集中して作業を続けることができる。			・全体の作業の流れを見て、能率の悪い生徒に助言したり、手伝うことができる。		・まわりの状況をみながら、二つ以上の箇所の作業を適時、行うことができる。
6. 作業室の整理をする⑩ 7. 本時の作業学習の反省をする。 ・目標が達成できたか⑮ 班で話し合う。 ・反省を発表する。	・それぞれの分担箇所の箱を整理することができ、自らすすんで清掃を行うことができる。							・教示に従って箱の整理をし、清掃を行うことができる。		
	・本時の作業を反省し、具体的に話し合うことができる。				・所の生徒の反省を聞き、自分から少しでも反省を話すことができる。			・所の生徒の発表に注目でき、教師の助けを得ながら、反省を言うことができる。		
	・反省を次時の学習に生かそうという気持ちを持つことができる。					・本時の学習がしっかりできたかどうかを確認することができる。				

公開授業（Ⅱ） 学習指導案

第 1 学年

第 1 学年 1 組 数 学 科 学 習 指 導 案

昭和 6 3 年 10 月 7 日 (金) 第 3 時 限 教 室
指 導 者 林 薫

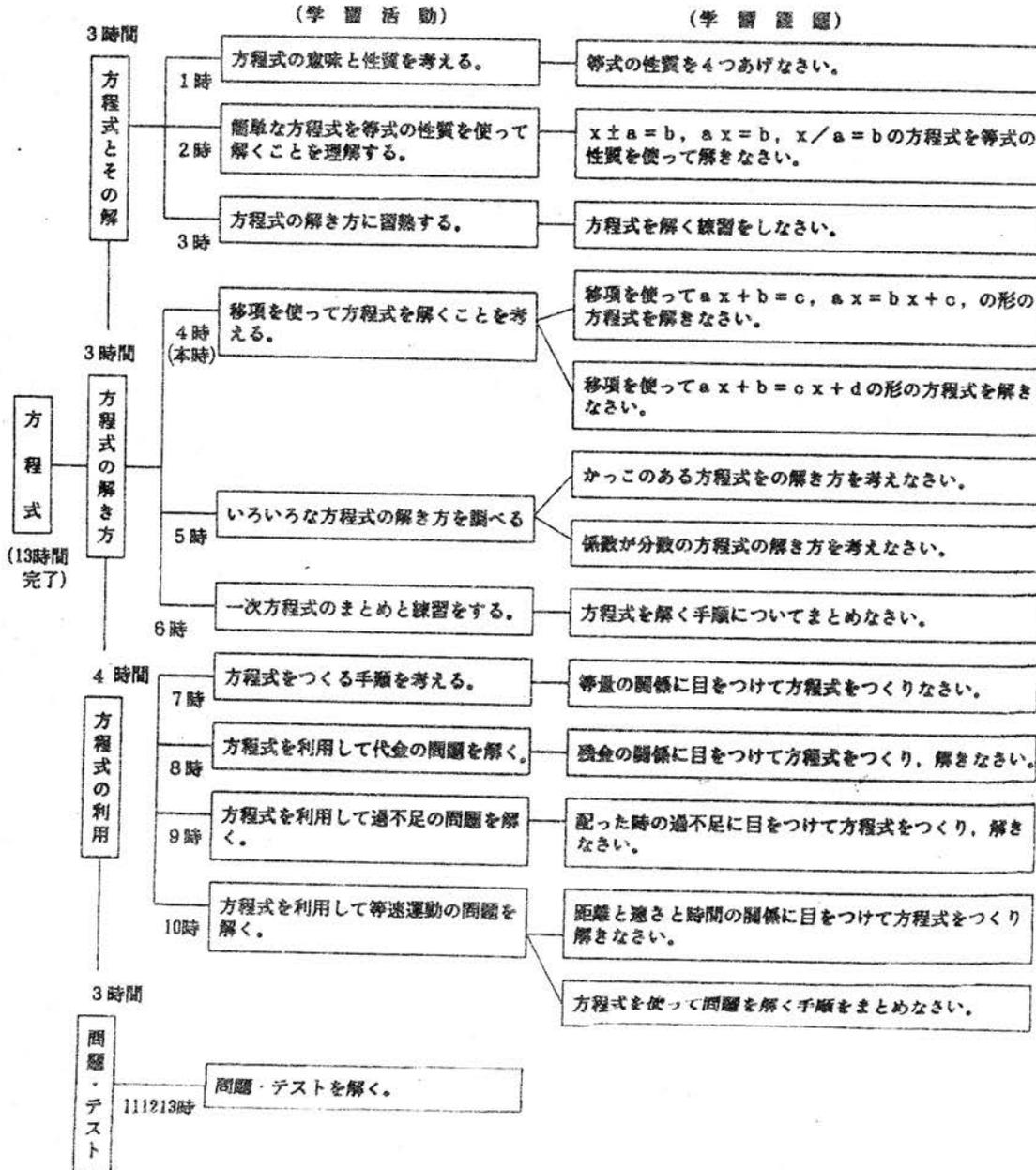
1. 題 材 方 程 式
2. 本 時 の 指 導 標 準 (本 時 4 / 13)
(1) 目 的
○ 移 項 の 意 味 を 理 解 さ せ , 移 項 を 使 っ て 簡 単 な 方 程 式 が 解 け る よ う に さ せ る 。
○ 積 極 的 に 話 し 合 い に 参 加 し , 楽 し さ の 中 に も , け じ め あ る 学 習 態 度 を 養 っ て 行 っ て 欲 し い 。
- (2) 準 備
(3) 学 習 過 程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	1. 前 時 の 復 習 を す る 。 (1) 例 題 を 各 自 解 く 。 (2) 班 で 確 認 し 合 う 。	○ 前 時 は 等 式 の 性 質 を 利 用 し て 方 程 式 を 解 く 練 習 を し た こ と を 確 認 。	○ 正 し い 答 え が だ せ た か 。 (指 名 挙 手)
中 心 過 程	$3x - 7 = 5$ と $3x = 5 + 7$ で ど ん な こ と が い え る か 考 え よ う 。		
	2. 本 時 の 目 標 を 知 る 。 (1) 各 自 ノ ー ト に 自 分 の 考 え を 書 く 。 (2) 各 班 で 話 し 合 う 。 3. 移 項 に つ い て 知 る 。	○ 移 項 を 使 っ て 方 程 式 を 解 く こ と を 学 習 し たい 。 ○ 前 式 の 一 項 を 後 式 に 移 し 変 え て き づ か せ 。	○ 話 し 合 い は 活 発 か 。 (観 察)
	移 項 を 使 っ て $4x - 5 = 19$ を 解 き な さ い 。		
過 程	(1) 各 自 ノ ー ト に 解 く 。 (2) 各 班 で 答 え 合 わ せ 。 4. 類 題 を 解 く 。 (1) 各 自 ノ ー ト に 解 く 。 (2) 各 班 で 教 え 合 う 。	○ 移 項 を 使 う と 速 く 正 確 に 解 け る こ と に き づ か せ る 。 ○ 文 字 の 項 と 数 の 項 を 各 自 の 辺 に 集 め る こ と を 確 認 。	○ 正 し く 解 け た か 。 (挙 手) ○ 教 え 合 い が で き た か 。 (相 互 評 価)
確 認 過 程	教 科 書 p 83 の 練 習 を や り な さ い 。		
	5. 本 時 の ま と め を す る 。 (1) 各 自 ノ ー ト に 解 く 。 (2) 班 で 確 認 す る 。 6. 次 時 予 告 を 聞 く 。	○ 具 体 的 な 問 題 を 通 し て ま と め の 補 助 と す る 。 ○ 班 で 教 え 合 う 時 間 も と る 。 ○ 次 時 い ろ い ろ な 方 程 式 の 解 き 方 に つ い て 学 習 す る こ と を 指 示 。	○ 問 題 は 解 け て い る か 。 (机 間 巡 視)

第1学年数学科学習課題構成図

10月	単元・題材名	方程式	13時間完了
-----	--------	-----	--------

目標	○方程式とその解の意味を明らかにし、一元一次方程式を等式の性質を使って解く方法を理解させる。 ○移行の意味を理解させ、解法を一般的な手順としてまとめ、一元一次方程式の解き方に習熟させる。 ○方程式を問題解決に利用できるようにさせる。
----	--



第1学年2組音楽科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 第1音楽室

指導者 蛭名幹史

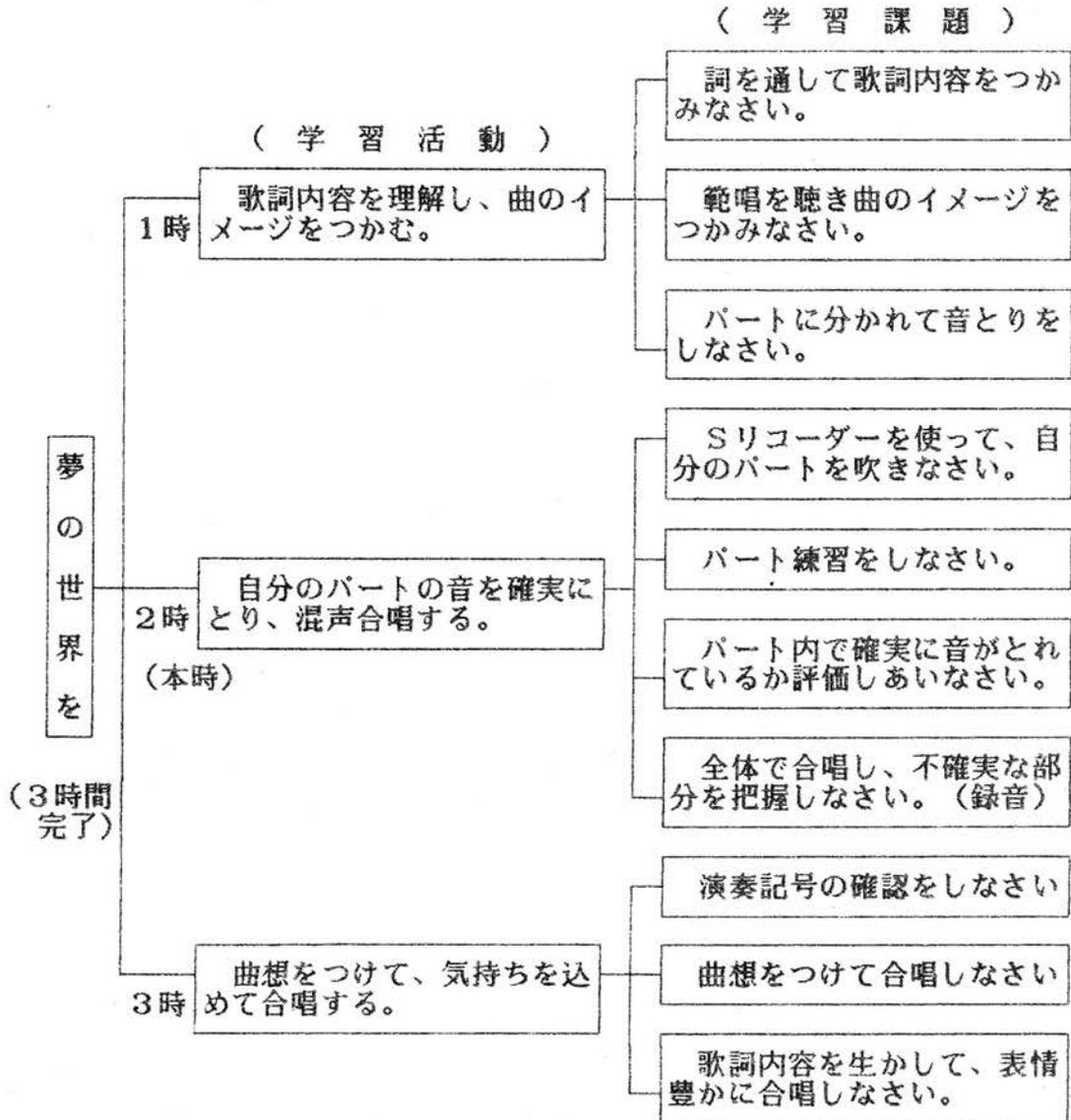
- 1 題材 夢の世界を
 2 本時の指導 (本時2/3)
 (1) 目標 ○ 6/8拍子のリズムにのって、主旋律を美しく歌わせる。
 ○ 積極的に参加する態度を養う。
 (2) 準備 教師 カセット(録音用)、Sリコーダー
 生徒 Sリコーダー、リコーダー進度表
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	発声練習をしなさい。		
	1. 発声練習をする。 (1) 腹式呼吸の練習をする。 ○ 母音で歌う。 (2) 既習曲を歌う。 2. 本時の目標を知る。	○ 正しい姿勢で行わせる。 ⑦ 発音をはっきりさせる。 ○ のびのびと歌わせる。	○ 声を充分出しているか。 (観察・聴取)
中心過程	リコーダーの練習をしなさい。		
	3. 「夢の世界を」をリコーダーで吹く。 (1) アンサンブル練習をする。 ○ 個人練習をする。 ○ グループであわせる。 ○ グループで評価する。 (2) 全体合奏をする。	○ ファ#の運指法を板書して注意させる。 ○ 2つのパートに分けさせる。 ○ リコーダー進度表に記入させる。 ○ バランスに留意させる。	○ 積極的に練習に参加しているか。(観察) ○ 協力しているか。(観察) ○ バランスを考えながら演奏できたか。(挙手)
確認過程	6/8拍子の特徴を感じて歌いなさい。		
	4. 合唱練習する。 (1) 拍子の特徴を生かして歌う。 (2) ピアノ伴奏により合唱する。	○ 種々の動作により6/8拍子を体得させる。 ⑨ 旋律の流れにも気をつけさせる。	○ リズムにのって歌えたか。(聴取)
確認過程	自分たちの演奏を聴いて感想を話し合いなさい。		
	5. 本時のまとめをする。 (1) 感想を話し合う。	⑩ 次時への意欲づけを行う。	○ 話し合いは活発か。(観察)

第 1 学年音楽科学習課題構成図

10月	題材名	夢の世界を	3時間完了
-----	-----	-------	-------

目 標	歌詞内容を生かした合唱表現を工夫させる。
-----	----------------------



第1学年3組理科学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第3時限 教室
指導者 岸 宏行

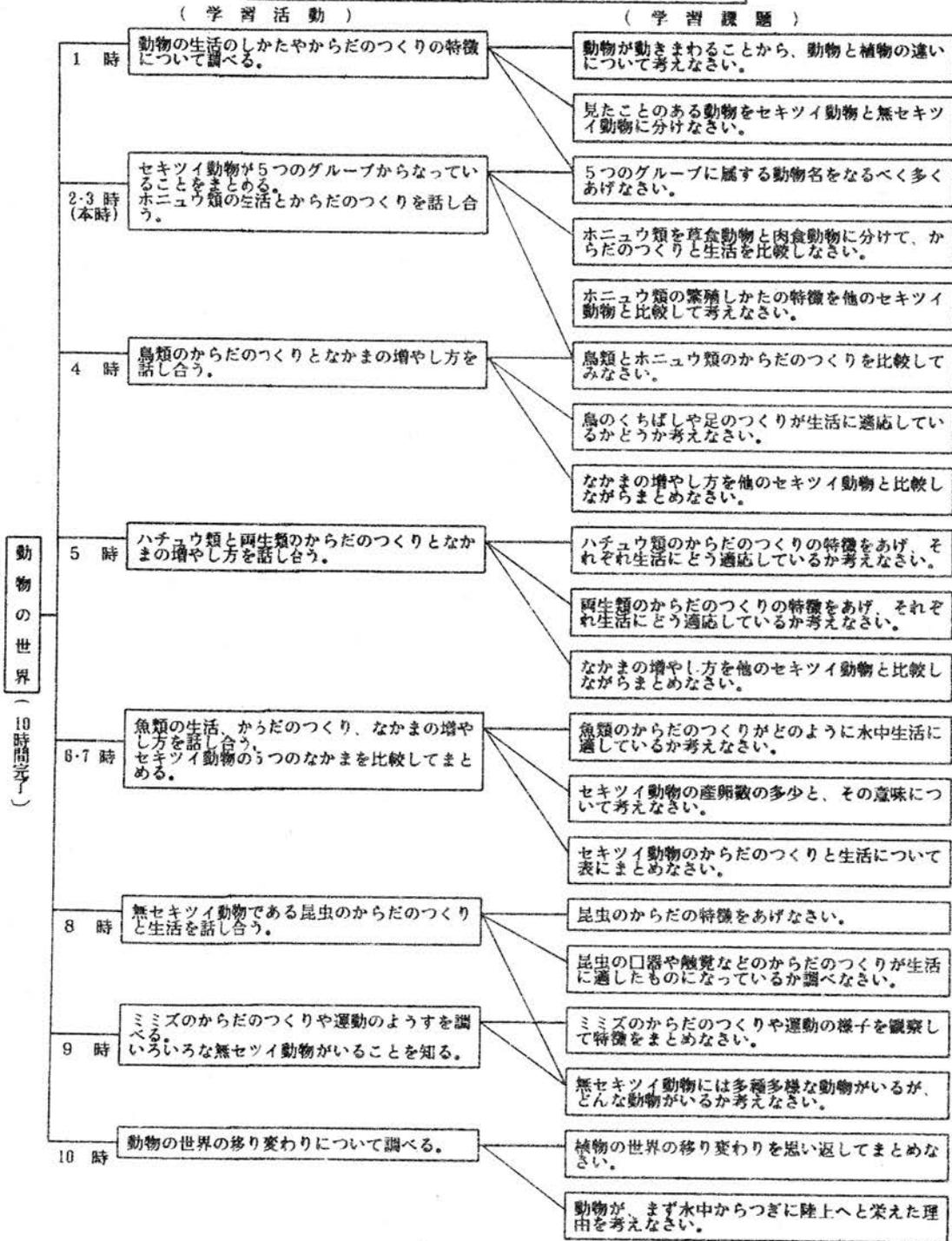
1. 単元 動物の世界
2. 本時の学習 (本時2/10)
(1) 目標
 ○ ホニュウ類には草食動物と肉食動物とがあり、それぞれのからだのつくりが生活に適応していることを理解させる。
 ○ 自分の考えを持って、積極的に話し合いに参加させる。
 (2) 準備 教師 プリント
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	動物の分類表を完成させなさい。		
	1. 予備課題をする。 (1) プリントをまとめる。 (2) 班で確認しあう。 2. 本時の目標を知る。	⑩ ○ 動物は、セキツイ動物と無セキツイ動物とに分けることができること、セキツイ動物は5つのなかまに分けることができることを確認させる。 ○ 態度目標も指示する。	○ 動物のおおまかな分類が理解できているか。 (プリント・机間巡視)
中 心 過 程	知っているホニュウ類を、肉食動物と草食動物とに分けなさい。		
	3. ホニュウ類を分類する。 4. からだのつくりの特徴と生活を考える。 (1) ライオンとウマの頭骨の特徴を話し合う。 (2) からだのつくりの特徴が生活にどう適しているか話し合う。 (3) 特徴のある歯の名称を調べる。	⑤ ○ 食物の種類によって、肉食動物と草食動物とに分けることができることを知らせる。 ②⑤ ○ 歯のつくり・目のつき方・あごの骨のようすに特に注目させる。 ○ ライオンとウマの生活を思い浮かばせて、それぞれのからだの特徴が生きていくうえでどのように都合がよいかを考えさせる。 ○ 教科書を参考にさせる。	○ 正しく分類できたか。 (発表) ○ 互いに協力して話し合えているか。 (机間巡視・発表)
確 認 過 程	肉食動物と草食動物のからだのつくりと生活との比較をまとめなさい。		
	5. 本時のまとめをする。 (1) 授業プリントをまとめ、整理する。 (2) 確認問題に取り組む。 6. 次時の予告を聞く。	⑩ ○ 板書をもとにからだのつくりと生活についてまとめさせる。 ○ ホニュウ類のからだのつくりと繁殖のしかたの特徴のまとめをすることを知らせる。	○ 正しく理解できたか。 (プリント)

第1学年理科学習課題構成図

10月 単元・題材名 動物の世界 10時間完了

目標 ○動物のからだのしくみや習性を知り、動物のからだや生活は環境に適応していることを理解させる。
○動物はその特徴によって分類することができることを理解させる。



第1学年4組国語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室

指導者 加藤美紀子

1 題材 無言化社会の中で

2 本時の指導 (本時2/4)

- (1) 目標
- 第二の部分の要旨をとらえさせる。
 - 班の話し合いで、自分の意見を積極的に発表させる。

(2) 準備 教師 プリント

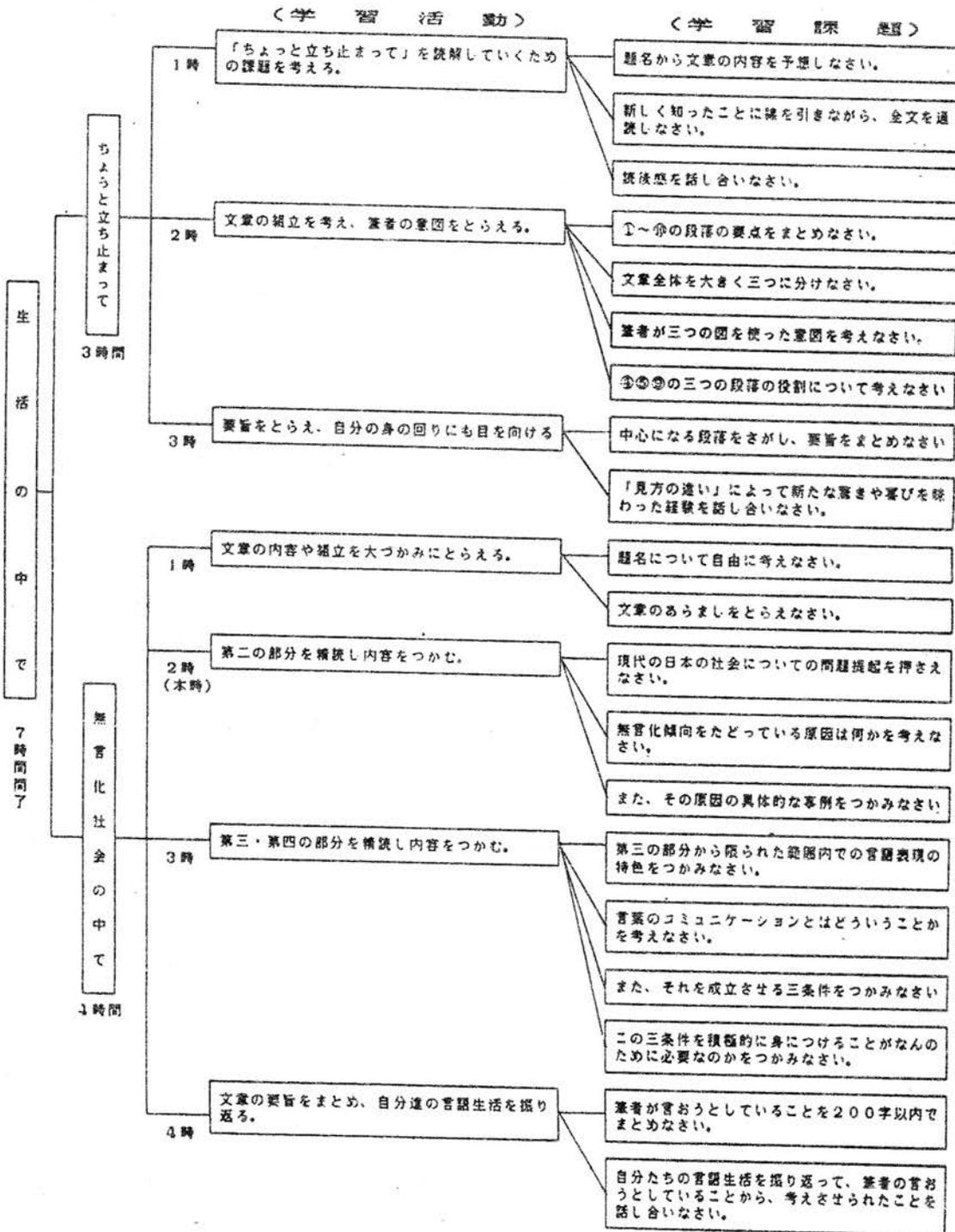
(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備	1. 本時の目標を知る。	○ 態度目標についても指示する。 ⑤。	○ 積極的に発表できたか。 (観察)
	2. 第一、第二の部分の難語句の意味を確認する。	○ 予習として調べてきたものを発表させる。	
過 程	第一の部分の結論となる部分をさがしなさい。		
	3. 第一の部分の結論をとらえる。 (1) 第一の部分を通読し、結論の⑧起をしていることに気づかせ部分に線を引く。	○ 筆者の経験を通し、問題提起する。	○ 結論を理解できたか。 (机間巡視)
中 心	第二の部分の内容をつかみなさい。		
	4. 第二の部分を通読し、内容をつかむ。 (1) 筆者は、現代の社会と言葉についてどのように考えているか読み取る。 (2) 無言化の方向をたどっている原因をつかむ。 (3) 無言化の原因の具体的な事例をつかむ。 ○ 班で話し合った後、発表する	○ プリントを用いて、効率的にまとめさせる。 ○ 書き出しの二文の表現に着目させ、第二の部分は頭括型であることをおさえる。 ○ 社会生活の機械化と都会化という、それぞれの原因ごとに分けて考えさせる。 ○ 接続語に注意して展開をとらえさせる。	○ 問題提起について理解できたか。(発表) ○ 積極的に話し合っているか。 (机間巡視)
確 認 過 程	本時の学習内容をまとめなさい。		
	5. 本時のまとめをする。 (1) プリントをもとに確認する。 (2) 学習態度を反省する。 6. 次時の予告を聞く。	○ つまづいているものは個別指導をする。 ⑦	○ 本時の目標は達成できたか。 (プリント)

第1学年国語科学習課題構成図

10月 単元名 生活の中で 7時間完了

目標
 ・文章全体の構成や筋道を押え、要旨をとらえさせる。
 ・文章の要旨をとらえ、自分のものの見方、考え方を広げさせる。



第1学年5組社会科学学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第3時限 教室
指導者 久保達哉

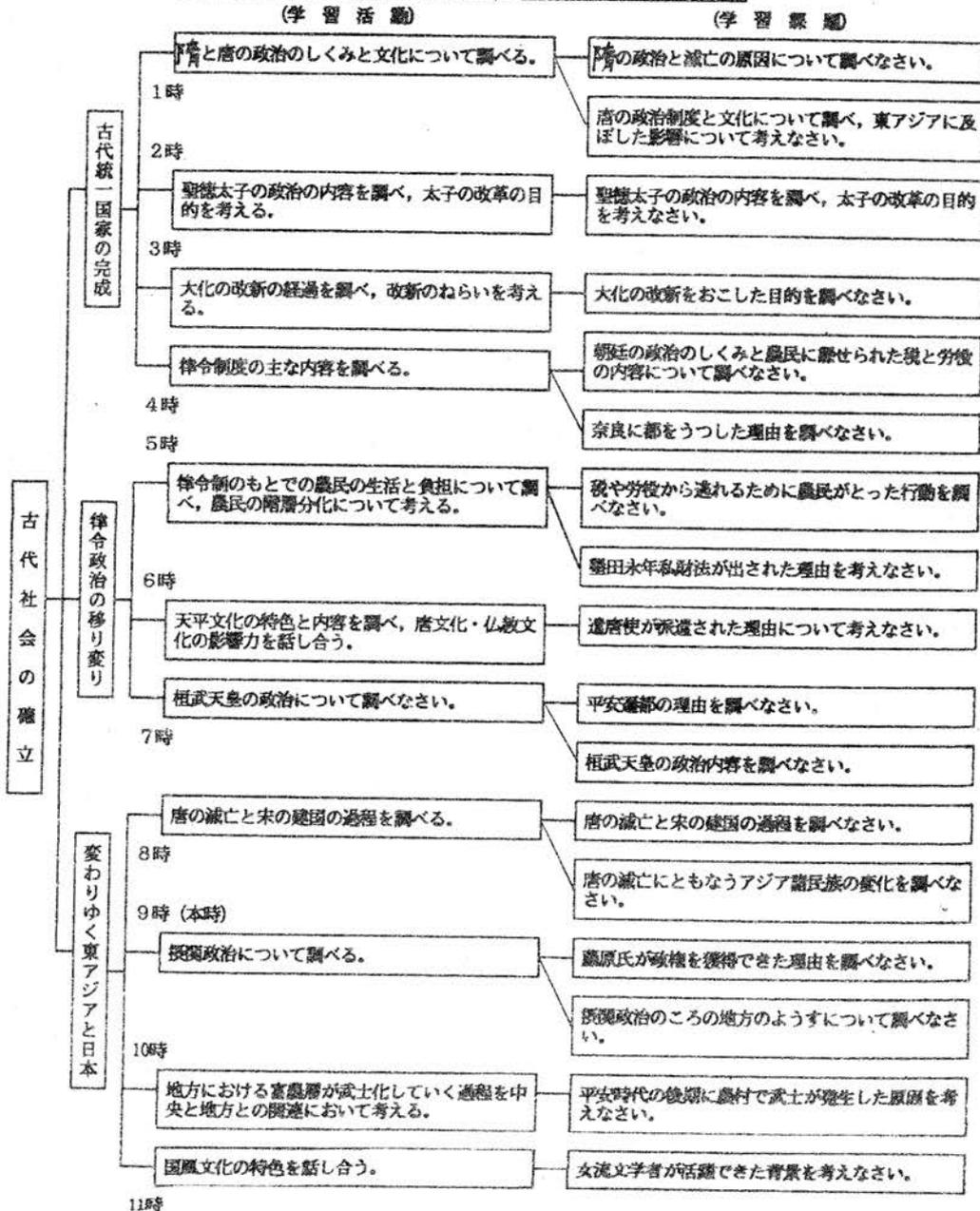
1. 単元 古代社会の確立
 2. 本時の学習 (本時9/11)
 (1) 目標 ○藤原氏による摂関政治について理解させる。
 ○有力農民の寄進で貴族や寺社の荘園がふえたことを理解させる。
 ○班の話し合いに積極的に参加させる。
 (2) 準備 教師 フラッシュカード 生徒 歴史資料集
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 本時の学習内容を聞く。 2. 平安時代のはじめの頃の様子を確認する。	○貴族が勢力を伸ばしつつあったことを確認させる。	
中 心 過 程	藤原氏が政権を獲得できた理由を調べなさい。		
	3. 藤原氏の栄華の様子を調べる (1) 藤原氏が政権を獲得できた理由を調べ、班で話し合う。 (2) 摂政、関白の意味について調べる。 (3) 藤原氏の最盛期のようすについて調べる。	○天皇の外戚となることによって政権を得たことと、菅原氏等にもみられる他氏排斥をおさえさせる。 ○教科書の該当箇所アンダーラインをひかせる。 ○中心人物と勢力の強さについて確認させる。 ○勢力の強さに関しては、道長の詠んだ歌を紹介する。	○話し合いは活発か。(観察) ○藤原氏の政権獲得の理由が理解できたか。(発表)
確 認 過 程	摂関政治のころの地方のようすについて調べなさい。		
	4. 地方政治の乱れについて調べる。 (1) 摂関政治がおこなわれていた頃の地方における国司の悪政と、班田収授のくずれについて教師の説明を聞く。 (2) 国司の悪政の一例として、教科書P55『尾張国の郡司・百姓らの訴え』を読み、確認する。 (3) 郡司や有力農民が不正な国司とどうやって対抗したか調べ、班で確認する。	○有力農民の成長についてもおさえしておく。 ○国司の不正な税のとりたての一部が藤原氏へのわいろとして使われたことにも触れる。 ○郡司や農民が土地を寄進したことにより、貴族や寺社の荘園がふえたことを理解させる。	○話し合いは活発か。(観察) ○農民が土地を貴族に寄進した理由がわかったか。(発表)
準備過程	本時の学習内容をノートにまとめなさい。		
確認過程	5. 黒板の内容をノートにまとめる。 6. 次時の予告を聞く。	○ノート整理をきちんとさせる。	○ノート整理ができたか。(机間巡視)

1 学年社会科学習課題構成図

9月	単元・題材名	古代社会の確立	11時間完了
----	--------	---------	--------

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○唐が律令にもとづく古代国家をつくりあげたことを理解させる。 ○古代天皇制と律令政治をめざして改革が進められたことを理解させる。 ○平城京と貴族の生活、遣唐使と天平文化について理解させる。 ○唐を中心とした東アジアの律令制がくずれ、各国が独自の発展過程をみせたことに着目させる。 ○摂関政治のしくみと農村の変化を理解させる。 ○武士の発生と成長および東北地方が発展したことを理解させる。
--------	--



第1学年6組学級の時間(学級指導)指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室
指導者 山本義則

- 1 単元 仕事について調べよう
2 目標 職業を分類する中で、職業や働くことへの関心、理解を深め、職業選択や職業観形成の基礎を養う。
3 展開

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1 本時の学習目標を確認する。		
	好きな職業につくには、今後どうすれば良いのか話し合いなさい。		
中心過程	(1) 班で話し合う。 (2) 疑問点を出し合う。	○ 隣接法で話し合わせる。 ⑤ ○ 疑問点を出し合うようにさせる。	○ 話し合いが円滑に行われていたか。 (机間巡視)
	2 自分で仕事を分類した表を発表する。	前時に発表された仕事の分類表を発表しなさい。	
中心過程	(1) 班で話し合う。 (2) 画用紙を掲示して発表する。 (3) 質疑応答をする。	○ よりの確な分類法を班で選ばせ、画用紙にまとめさせる。 ⑬	○ 発表は要領よく簡潔に出来たか。 (観 察)
	3 発表されなかった仕事の例を知る。	○ 事前に用意しておいたフラッシュカードを見せる。 ○ 将来の仕事についての作文を1~2名分読み、仕事を選ぶことの大切さ、仕事の尊さに注目させる。 ⑮	○ 今後の進路について真剣に考えようとしているか。 (観 察)
確認過程	4 今後の生活の中での心構えについて考え、学習のまとめとする。	自分の好きな職業に付くためには、どんな進路コースを進めば良いか、また、今後どのような心構えで過ごしたら良いかをプリントにまとめなさい。	
	(1) 心構えをプリントにまとめる。 (2) 発表する。 (3) 教師のまとめを聞く。	○ 今後の学校生活の中で、自分の進路のことを真剣に考えて行動していくことの大切さを認識させる。 ⑰	○ プリントに自分の意見がしっかり書けたか。 (机間巡視)
確認過程	5 次時予告を聞く。		

第1学年7組(共学)技術・家庭科学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第3時限 教室
指 導 者 小 林 真

1. 単 元 木材加工 I
2. 本時の学習目標 (本時8/20)
- (1) 目 標
- 木材組織の性質や特徴に気づかせ、それにあつた木材の有効的な使い方を考えさせる。
 - 自分の役割をしっかりと果たし、与えられた課題に対して積極的に活動できる態度を養う。
- (2) 準 備 ◦ 教師/プリント・繊維モデル・実験道具
- (3) 学習過程

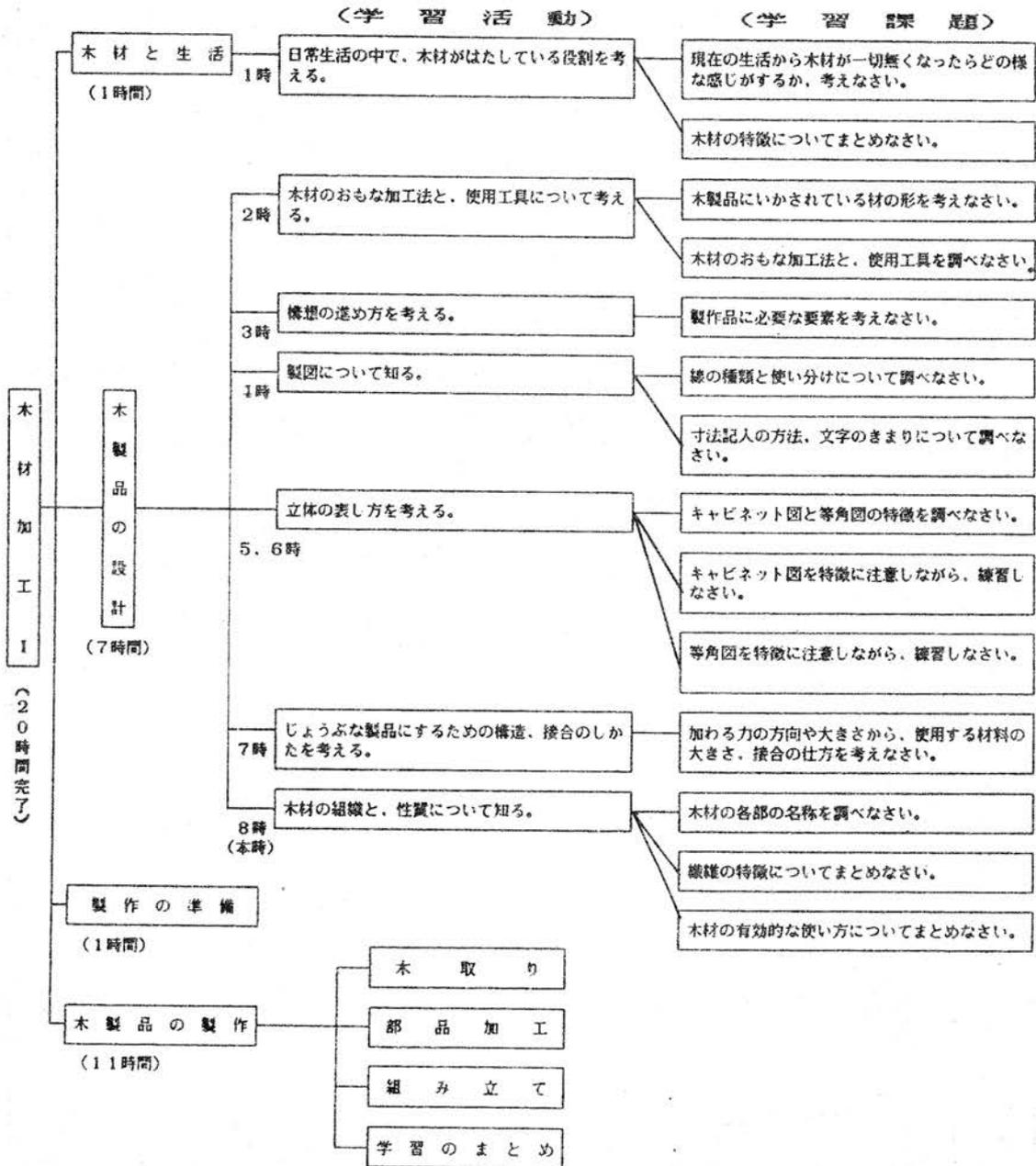
	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	木材の各部の名称を調べなさい。		
	1. 木材の各部の名称を調べプリントに記入する。 2. 調べた名称を発表する。 3. 本時の内容を知る。	◦ 教科書を参考に班で協力して調べさせる。 ◦ 個人を指名する。 ⑩ ◦ 年輪・繊維についてモデルを使って説明する。	◦ 協力して調べているか。 (机間巡視) ◦ 発表された意見に反応しているか。 (ハンドサイン)
	繊維方向と力の関係を調べなさい。		
中 心 過 程	4. 2つの繊維方向の異なる試験片を使い実験を行う。 ◦ 繊維に対し平行な力 ◦ 繊維に対し垂直な力 5. 実験結果をもとに、かかる力に対する繊維の強さについてまとめる。	◦ 実験する者・記録する者をしっかり決めさせる。 ⑪ (平行な力<垂直な力となるように指導していく。) ◦ どうしてそうなるのかも考えさせる。	◦ 自分の仕事をしっかり果たしているか。 (机間巡視) ◦ 班の中で教え合っているか。 (自由会話法)
	繊維の特徴についてまとめなさい。		
	6. 繊維方向が同じで、長さの異なる試験片を使い実験を行う。 ◦ 支点間の長いもの ◦ 支点間の短いもの 7. 繊維の特徴についてまとめる。	◦ 同じ材料では、力に対する強さは変わらないことをおさえておく。 ◦ 曲げ強さの計算式を参考に理論的に結果を説明する。 ⑫ ◦ プリントに沿ってまとめさせる。	◦ 協力して実験しているか。 (机間巡視) ◦ しっかりまとめられたか。 (プリント)
確 認 過 程	木材の有効的な使い方についてまとめなさい。		
	8. 実験・観察した結果より木材の効果的な使い方をまとめる。 9. 次時について聞く。	◦ プリントをもとに確認し合わせ、まとめさせる。 ◦ 次時について話す。	◦ 木材の有効的な使い方が理解できたか。 (隣接法・発表)

第1学年技術・家庭科（男女共学）学習課題構成図

9~11月 単元名 木材加工 I 20時間完了

目標

- ・木材の効率的な利用と生活との関係について考えさせる。
- ・構想図の進め方、まとめ方を理解させる。
- ・製作を合理的に進めるための基準のしかたを理解させる。
- ・木工具の使用法及びそれらによる加工法について理解させる。



第1学年9組国語科学習指導案

昭和63年10月7日 (金) 第3時限 教室
指 導 者 西 村 典 子

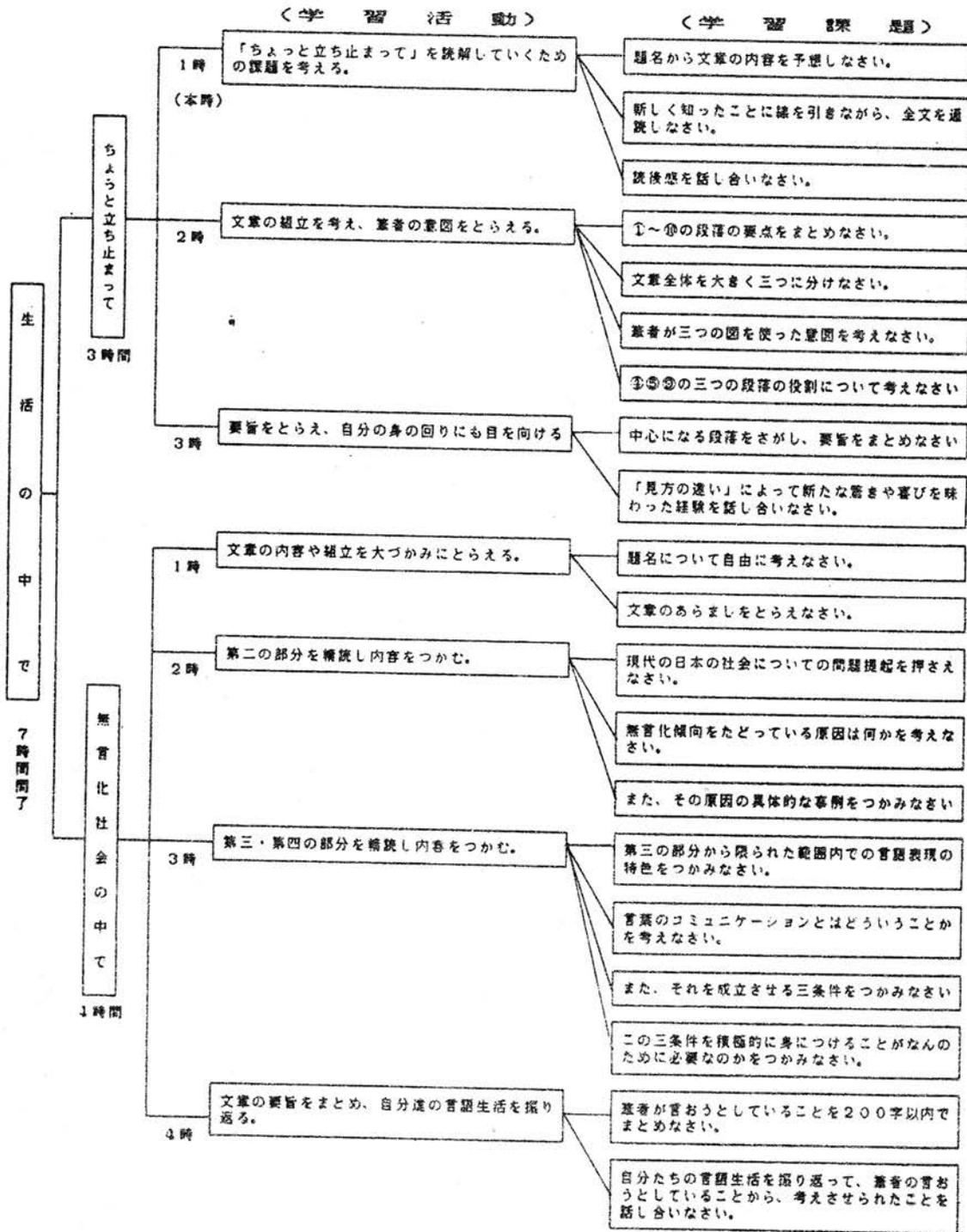
1. 題 材 「ちょっと立ち止まって」
 2. 本時の指導 (本時1/3)
 (1) 目 標 ◦ 題にこめられた筆者の意図をとらえさせる。
 ◦ 話し合いに積極的に参加させる。
 (2) 準 備 ◦ 教師/パネル
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備	1. 自主学习に取り組む	◦ 「ちょっと立ち止まって」という題にこめられた筆者の意図をとらえることを知らせる。	◦ 自主学习に積極的に取り組んでいるか。 (観 察)
	2. 本時の目標を知る。③		
過 程	3枚のパネルに何が描かれているかを考えなさい。		
	3. 各自の印象を班で話し合う。 4. 発表する。	◦ パネルを黒板に掲示する。 ⑦ ◦ 感じ方は各種多様であり、どれもまちがってはいないことを説明する。	◦ 意欲的に話し合いに参加しているか (机間巡視) (挙 手)
中 心 過 程	題名にこめられた筆者の意図を考えなさい。		
	5. 本文 P170~P174, 4行までを音読する。 6. 3枚のパネルを使っ ての例と、題名との つながりを考える。⑤ 7. 発表する。	◦ 形式段落1, 2を対人法で 読ませ、安心して挙手する 雰囲気を作らせる。 ◦ 教科書を閉じさせる。 ◦ 話し合いが進まない班には 「ちょっと立ち止まって、 どうすることが必要なのか 。」という視点で考えること を示唆する。	◦ 大きな声で正しく 読んでいるか。 (机間巡視) (挙手) ◦ 筆者の意図に迫り 得ているか。 (机間巡視) (挙 手)
確 認 過 程	筆者の主張をノートにまとめなさい。		
	8. 本文 P174, 4行~最 後までを読み、筆者 の主張をノートにま とめる。 9. 班内でノートを交換 して読み合う。⑬ 10. 次時の予定を知る	◦ 「~だから、ちょっと立ち 止まって~」という形でま とめるよう示唆する。 ◦ 相互に評価させる。 ◦ 一面のみをとらえてしまっ て失敗した例を思い出して くるように指示する。	◦ 筆者の意図を正確 にとらえているか (机間巡視) ◦ 相互評価を活発に 行っているか。 (机間巡視)

第1学年国語科学習課題構成図

10月	单元名	生活の中で	7時間完了
-----	-----	-------	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の構成や筋道を押え、要旨をとらえさせる。 文章の要旨をとらえ、自分のものの見方、考え方を広げさせる。
----	---



第1学年1組音楽科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 第2音楽室

指導者 伊藤直美

1 題材 大空賛歌

2 本時の指導 (本時2/3)

(1) 目標 ○ 各自のパートを正確にとらせ、合唱した時に自信をもって歌えるようにさせる。

○ パート練習に積極的に参加する態度を養う。

(2) 準備 教師 カセット(録音用)、Sリコーダー

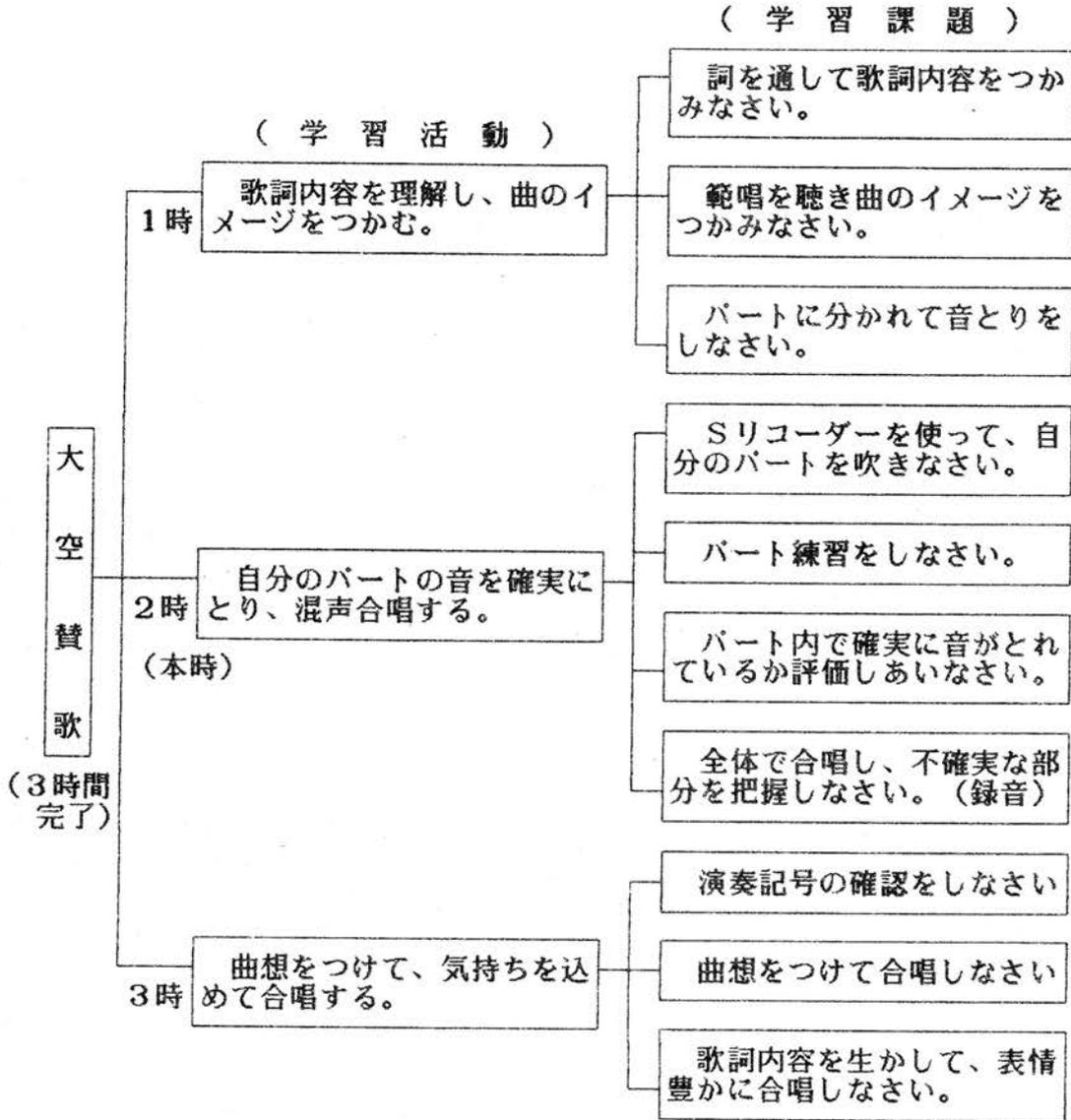
(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	腹筋を使って発声練習をきなさい。		
	1. 発声練習をする。 (1) 腹式呼吸でブレスの練習をする。 (2) カデンツを練習する。 (3) 既習曲を歌う。	○ 正しい姿勢で腹式呼吸させる。 ⑩る。 ○ 美しい響きをつくらせる。 ○ のびのびと歌わせる。	○ 正しい姿勢、大きな声でのびのびと歌えたか。 (観察・聴取)
	2. 本時の学習について聞く。		
中心過程	Sリコーダーを使って自分のパートを覚えなさい。		
	3. 「大空賛歌」をS笛で吹く。 (1) 自分のパートを練習する。 (2) 伴奏に合わせ三部合奏する。 (3) グループで評価しあう。	○ 井ソ、井ド、井レ、井ファ井ミの運指法を板書して注意 ⑮させる。 ○ リコーダー進捗表に記入させる。	○ 正しい運指で吹けたか。 (机間巡視) ○ 協力しているか。 (観察)
	混声三部合唱の練習をきなさい。		
確認過程	4. パート練習をする。 (1) パートリーダーの指示に従い練習する。 (2) 2人でベアーをつくり、評価しあう。	○ パートを巡回し、助言を与える。 ○ パートリーダーにABCで記入させる。	○ 積極的にパート練習に参加できているか。 (机間巡視)
	5. 全体練習をする。 (1) 1、2、3番を通して歌う。 (2) 指揮に合わせて歌う。	⑲ ○ 音の取れていないパートがあれば部分的に再確認させる。 ○ 録音する。	
	自分たちの演奏を聴いて感想を話し合いなさい。		
	6. 本時のまとめをする。 (1) 感想を話し合う。	⑳ 次時への意欲づけを行う。	○ 話し合いは活発か。(観察)

第 1 学年音楽科学習課題構成図

10月	題材名	大空賛歌	3時間完了
-----	-----	------	-------

目 標	歌詞内容を生かした合唱表現を工夫させる。
-----	----------------------



公開授業（Ⅱ） 学習指導案

第2学年

1. 単元 バスケットボール

2. 本時の学習 (本時5/14)

(1) 目標 ○ セットシュート、ジャンプシュートがスムーズにできるようにさせる。

○ グループ内での練習を、協力してできるようにさせる。

○ 用具や、コート of 安全を確かめ、自他の健康安全に留意させる。

(2) 準備 バスケットボール 25個

(3) 学習過程

	学習活動	留意点	評価
準備過程	1. 集合、整列をする。 (1) 準備運動をする。 ○ グループごとに行う ○ 補強運動を行う。⑦	○ 生徒の健康状態、服装を調べ指示をする。 ○ 膝、肘などの関節を重点的に行わせる。 ○ 目標を明確にさせる。	○ 本時の目標がわかったか。(挙手)
中心過程	セットシュートの練習をしなさい。		
	3. セットシュートの練習をグループごとに練習する。 (1) 両手でセットシュートの練習をする。⑧ (2) 片手でセットシュートの練習をする。	○ ボールの回転に注意させる。 ○ 腕を伸ばす方向に注意させる。	○ タイミングよくシュートしているか。(観察)
	ジャンプシュートの練習をしなさい。		
過程	4. ジャンプシュートをグループごとに練習する。 (1) 色々な場所から自由にシュートする。⑧ 5. 整理運動をする。	○ 両手、片手自由にジャンプシュートの練習をさせる。	○ タイミングよくシュートできているか。(観察)
確認過程	本時の学習について反省しなさい。		
	6. 本時の反省をする。 (1) グループごとに行う。 ○ セットシュート ○ ジャンプシュート ○ 練習の態度 (2) 次時の予告	○ 積極的に話し合いに参加させる。 ○ ランニングシュート、ドリブルシュートを行う。	○ 意欲的に練習できたか。(挙手)

第2学年5組理科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限

教室

指導者 片山 豊

1. 単元 電流回路

2. 本時の学習 (本時1/11)

(1) 目標 ○ 演示実験を見たり、回路を作ることを通して、回路によって電球の明るさがちがうことに気づかせ、電流回路の特徴に興味を持たせる。

○ 実験や確認に班で協力して取り組ませる。

(2) 準備 教師 プリント、白熱電球(40W, 100W用)、白熱電球用ボード、豆電球、ソケット、乾電池、電池ホルダー、導線、延長コード

(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 予備課題に取り組む。 (1) プリントをやり、班で確認しあう。 2. 単元について概観する。	○ 課題構成図で確認させる。 ⑧	○ わからなかったところを教えあえたか。 (机間巡視)
中心過程	3. 本時の目標を知る。	○ 態度目標も示す。	
	40Wと100Wの電球の明るさの順を予想しなさい。		
中心過程	4. 40Wと100Wの電球を直列と並列につないだ時のそれぞれの明るさの順を予想する。 (1) 1個ずつ点灯させた時の明るさを見て、班で予想を話しあう。 (2) 演示を見て、予想が正しかったか確認する。	○ 教科書はとじさせる。 ○ 家庭での体験などをもとに考えさせる。 ⑫ ○ 理由には触れない。	○ 協力して予想を話しあえたか。 (机間巡視) ○ 結果が確認できたか。(軒)
	豆電球と乾電池を使って回路をつくり、豆電球の明るさを調べなさい。		
中心過程	5. 回路をつくり、豆電球の明るさを調べる。 (1) 班で話し合っ分担任を決める。 (2) いろいろな回路をつくり豆電球の明るさを調べる。	○ プリントに記録させる。 ⑳ ○ できるだけいろいろな回路で調べるようにさせる。	○ 班で協力して実験が進められたか。 (机間巡視)
確認過程	実験結果をまとめなさい。		
	6. 本時のまとめをする。 (1) 班で結果を確認する。 (2) 実験結果を発表する。 7. 次時の予告を聞く。	○ 結果を確認させ、今後の学習でその理由を理解していく事をおさえる。 ⑩	○ 正しい結果がでたか。 (指名、挙手)

第2学年理科学習課題構成図

10月	単元・題材名	電 流 回 路	11時間完了
-----	--------	---------	--------

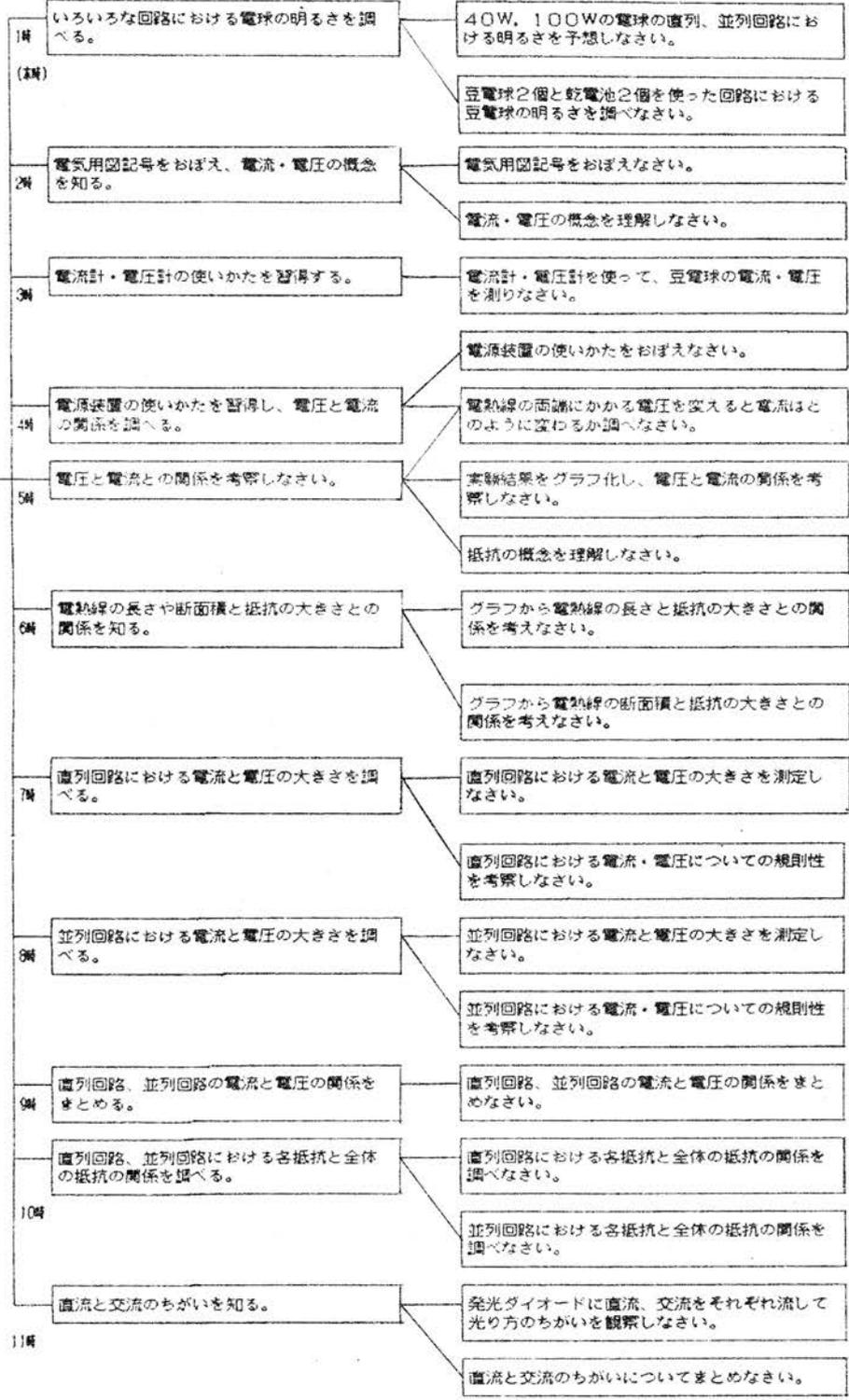
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察を通し、電流回路の基礎的な性質を理解させる。 ○電流・電圧・抵抗の関係を理解させる。
----	---

(学 習 活 動)

(学 習 課 題)

電
流
回
路

(11時間完了)



第2学年6組音楽科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 第3音楽室
指導者 児玉 誠

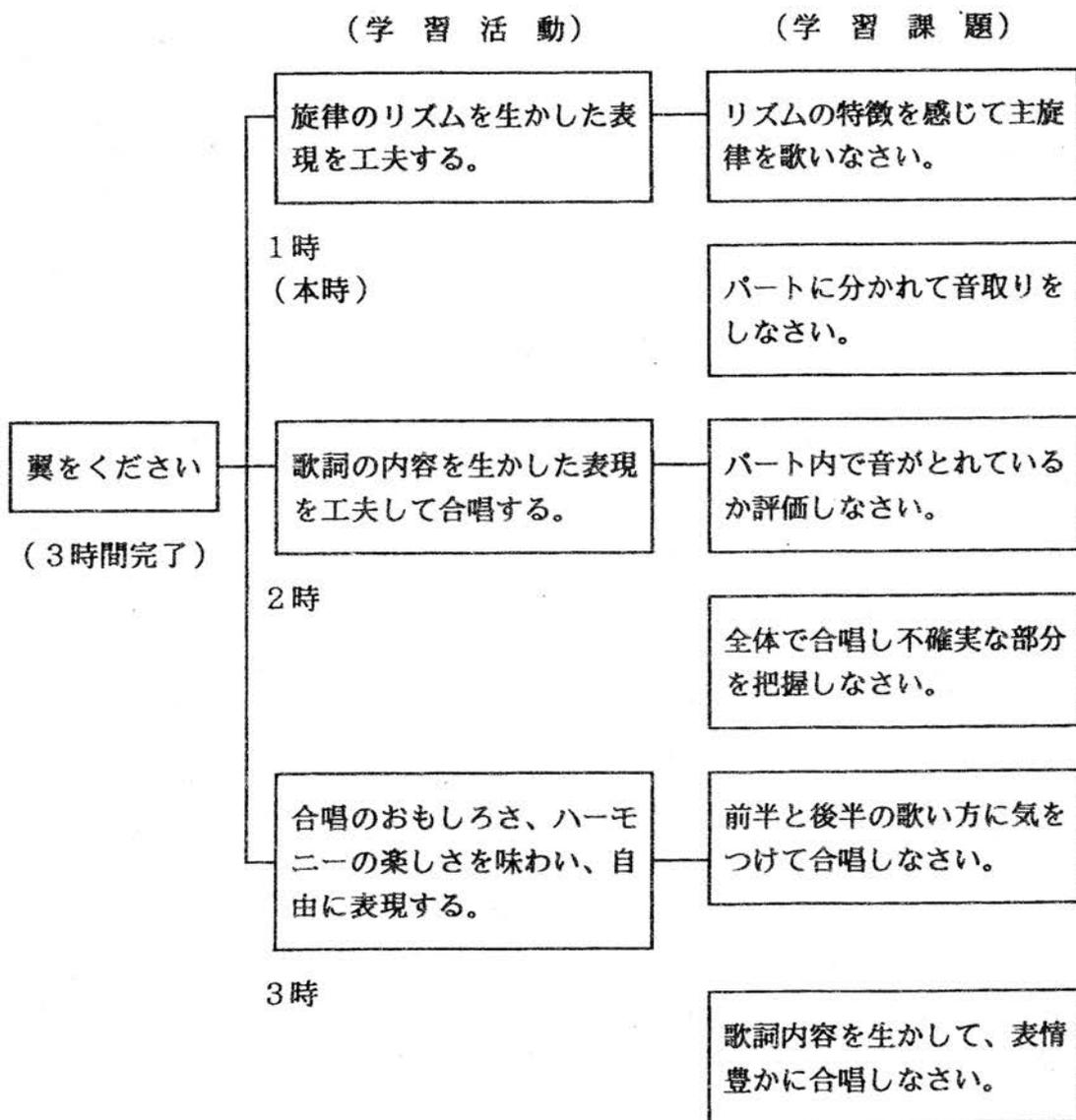
1. 題材 翼をください
2. 本時の指導 (本時 1/3)
 - (1) 目標
 - ・リズムを生かした合唱の表現を工夫させる。
 - ・合唱練習に積極的に参加する態度を養う。
 - (2) 準備 教師 範唱テープ、パート別評価表
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	既習曲を練習しなさい。		
	1. 既習曲を歌う。 2. 題材の概観をする。 3. 本時の目標を知る。	・のびのびと歌わせる。 ⑩ ・態度目標についても指示する。	・声を十分出しているか。 (聴取)
中 心 過 程	各パートの旋律を覚えて練習しなさい。		
	4. 各パートの旋律を覚える。 (1) 聴唱により旋律を覚える (2) パートリーダーを中心にパート練習をする。 (3) 二人組で互いに聴き合い評価する。	・リズムの特徴をつかませる。 ⑮ ・音のとりにくい部分は何度も練習させる。 ・パートリーダーに報告させる。	・リズムの特徴を感じて歌えたか。 (相互評価)
確 認 過 程	合唱練習をしなさい。		
	5. 他の声部を聴きながら、三部合唱をする。	・他の声部の響きを感じとらせる。 ⑮	・積極的に歌っているか。 (観察)
確 認 過 程	範唱を聴き、次時の課題をみつけなさい。		
	6. 次時への課題をみつける。 (1) 範唱テープを聴き、課題を話し合う。 7. 次時の予告を聞く。	・ハーモニーの響きを感じさせる。 ⑩ ・隣り同士で話し合わせる。	・話し合いは活発か。 (観察)

第2学年音楽科学習課題構成図

10月	題材名	翼をください	3時間完了
-----	-----	--------	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> リズムの特徴を生かし、若者らしいのびやかな声で合唱させる。
----	---



第2学年7組美術科学習指導案

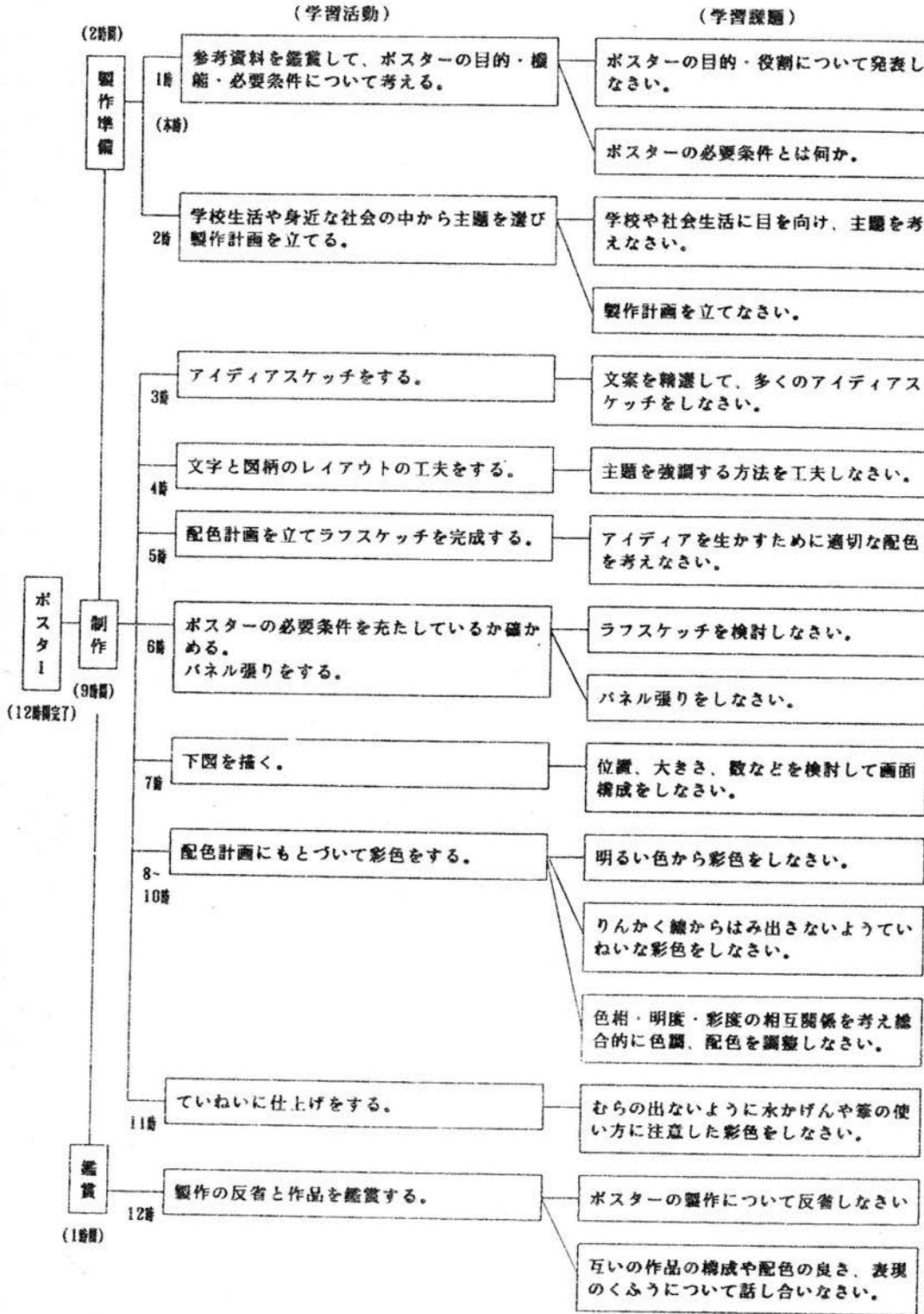
昭和63年10月7日(金) 第3時限 第3美術室
指導者 石黒 治子

1. 単元 ポスター
 2. 本時の学習 (本時1/12)
 (1) 目標
 ○ ポスターの鑑賞を通して、その役割や条件を正しく理解させる。
 ○ 作品例をみて話し合いに積極的に参加させる。
 (2) 準備 教師 参考作品・プリント
 生徒 教科書・鑑賞資料
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	身のまわりにはどんな種類のポスターがあるか考えなさい。		
	1. 本時の学習内容を知る。 2. 身のまわりにあるポスターの種類を考える。 ○ まとめをし発表する。	○ ポスターの役割、条件について考えることを知らせる。 ○ 教科書や鑑賞資料を見せ参考にさせる。 ○ プリントに記入させる。	○ 積極的に調べることができたか。 (観察・発表)
中 心 過 程	ポスターと絵画の相違点からポスターの特性、役割について考えなさい。		
	3. ポスターと絵画の相違点を考える。 ○ ポスターの特性からその役割を考える。	○ 作品例を掲示する。 ○ ポスターを中心にまとめていく。 ○ 視覚伝達の手段としてのポスターを意識させる。	○ 考えをまとめることができたか。 (発表)
確 認 過 程	ポスターを製作する上での必要条件を考えなさい。		
	4. ポスターの役割を充たすためのデザインの条件を考える。	○ 図柄、文案、書体、レイアウト、配色の観点からまとめさせる。	○ 積極的に話し合いに参加できたか。 (観察・発表)
確 認 過 程	ポスターの役割、必要条件を確認しなさい。		
	5. ポスターの役割、必要条件を確認する。 6. 次時の予告を聞く。	○ 参考作品をあげ観点ごとに欠点を見つけさせる。 ○ テーマを決め、アイデアスケッチを行うことを知らせる。	○ 欠点を見つけることができたか。 (発表)

第2学年美術科学習課題構成図

9～10月	単元名	ポスター	12時間完了
目 標	○ 構成の為の美的秩序や技法をいかし、伝えたいことや訴えたい内容を形・色で効果的に表現させる。		



第2学年9組英語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室

指導者 林 真 樹

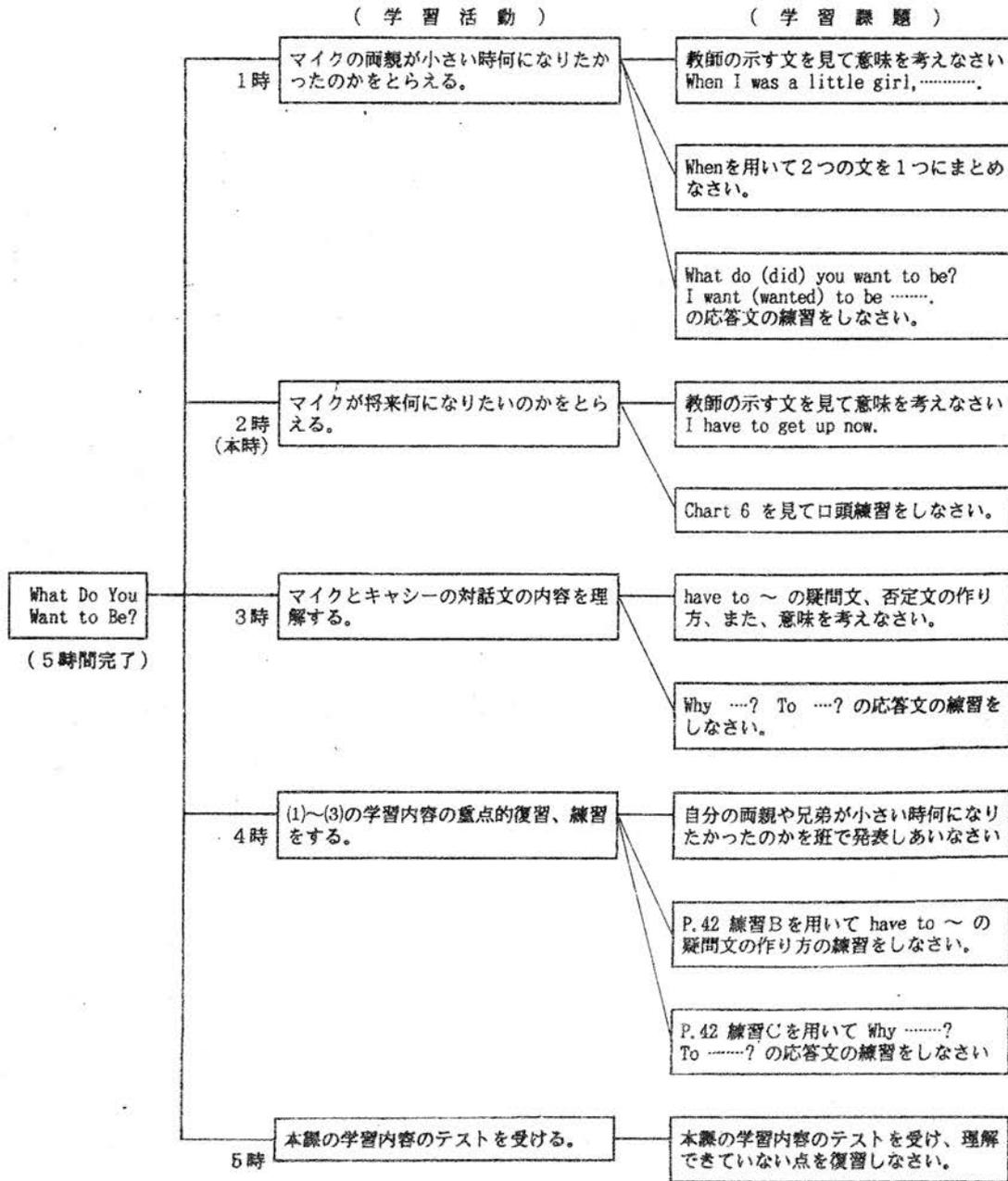
1. 題 材 What Do You Want to Be?
2. 本時の指導 (本時 2/5)
 - (1) 目 標
 - have to ~の語法を理解させ表現できるようにさせる。
 - 班内で口頭練習を積極的に行わせる。
 - (2) 準 備 教師 TP Flash cards Tape
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	<p>新出語句の発音・意味を確認しなさい。</p> <p>1. 新出語句を発音する。 (1) 教師の後について発音する。 (2) 意味を確認する。</p>	<p>○ Flash cardsを用いて speedyに言わせる。</p>	<p>○ 発音、アクセントは正しいか。(観察)</p>
	<p>have to ~ の語法を理解し表現しなさい。</p> <p>2. have to ~ を学習する。 (1) 教師の示す文を見て意味を考える。 (2) 隣同士で確認する。 (3) 教師の説明を聞く。 (4) Chart 6 を用いて口頭練習をする。 (5) 例文を暗唱しノートに書く。</p>	<p>○ OHPで提示する。 ○ have to, has to の発音に注意させる。 ○ 班内で練習させる。 ○ ポイントをノートにまとめさせる。</p>	<p>○ 正しく英文が言えるか。(輪番法・相互評価)</p>
中 心 過 程	<p>本文の内容を把握しなさい。</p> <p>3. 本文の内容を把握する。 (1) 教師、テープのあとについて本文を音読する。 (2) 班で本文の意味を確認する。</p>	<p>○ イントネーションに注意させる。 ○ 班内で順番に言わせる。</p>	<p>○ 相互活動は活発か。(机間巡視)</p>
	<p>本時の学習内容をまとめなさい。</p> <p>4. 本時のまとめをする。 (1) T or F テストを受ける。 (2) 重要文の説明を聞きノードにまとめる。 (3) 次時の予告を聞く。</p>	<p>○ テープを2回聞かせる。 ○ ポイントを明示する。</p>	<p>○ 本文の内容が確認できたか(挙手)</p>
確 認 過 程			

2 学年英語科学習課題構成図

10月	単元・題材名	What Do You Want to Be?	5時間完了
-----	--------	-------------------------	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の両親や兄弟について、小さい時何になりたかったのかまた、自分は将来何になりたいと思っているかについての簡単な問答ができるようにさせる。 ○ 次の語法を理解させ、表現できるようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Whenの導く副詞節 ・ have (has) to ~ とその疑問文、否定文 ・ Why? To
----	--



第2学年10組道徳学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室

指導者 鈴木 直子

1. 主題 忘れえぬ友(10. 友情)
2. ねらい
 - 相手を尊重し、忠告し合い励まし合いながら、互いを向上させるような真の友情を育てていこうとする態度を育てる。
 - 自分の考えを持って、積極的に話し合いに参加する態度を養う。
3. 準備 教師 TP1(アンケート結果『友だちについて』), TP2(読み物の内容図), 生徒作文, プリント
生徒 読み物「忘れえぬ友」明るい人生P116~121, 作文
4. 指導過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	自分たちの友人関係について話し合いなさい。		
	1. TP1を見て、自分たちの友人関係について話し合う。 (1) 問題点を話し合う。 (2) 友人関係に悩む原因を考える。 2. 本時のねらいを知る。	◦ 表面的なつきあいが多いことに気づかせる。 ◦ 相手の立場を思いやることのできない場合が多いことに気づかせる。	◦ 問題意識を持つことができたか。 (観察)
中 心 過 程	筆者が二人の友人との触れ合いで学んだことを考えなさい。		
	3. 資料を読み、筆者にとっての「忘れえぬ友」について考える。 (1) 回想部分のあらすじを聞く。 (2) 筆者の気持ちを想像し、話し合う。	◦ TP2を提示する。 ◦ 二人の友人との触れ合いを通して、筆者が真の友情を学んだことを分からせる。	◦ 筆者の気持ちが理解できたか。 (発表)
過 程	自分の「忘れえぬ友」について発表しなさい。		
	4. 相手の立場になって接することのできた友人関係についての事例を発表する。 (1) 作文をもとに発表する。 (2) 班で感想を話し合う。 5. 真の友情を感じていない生徒の作文を聞く。 (1) 班で感想を話し合う。	◦ 挙手がなければ、事前に書かせた作文をもとに指名し、発表させる。 ◦ 発表しにくいと思われるので、代読する。 ◦ 問題点は何か考えさせる。	◦ 積極的に話し合いに参加しているか。 (観察) ◦ 自分の考えを発表することができたか。 (観察・発表)
確 認 過 程	真の友情を育てるために大切だと思うことをまとめなさい。		
	6. これまでの自分を振り返り、望ましい友人関係のあり方をまとめる。 (1) 各自プリントにまとめる。 (2) 班で発表し合う。	◦ 互いの向上を願う気持ちが大切であることをおさえる。 ◦ 自分自身が「忘れえぬ友」になれるよう努めることも必要であることに気づかせたい。	◦ 自分の考えをまとめることができたか。 (プリント・発表)

1. 題材 不等式

2. 本時の指導 (本時 9/12)

(1) 目標 ○2つの不等式を使って、問題解決ができるようにさせる。
○相互活動を通して、疑問点を積極的に解決しようとする態度を養う。

(2) 準備 教師 TP 生徒 計算練習帳

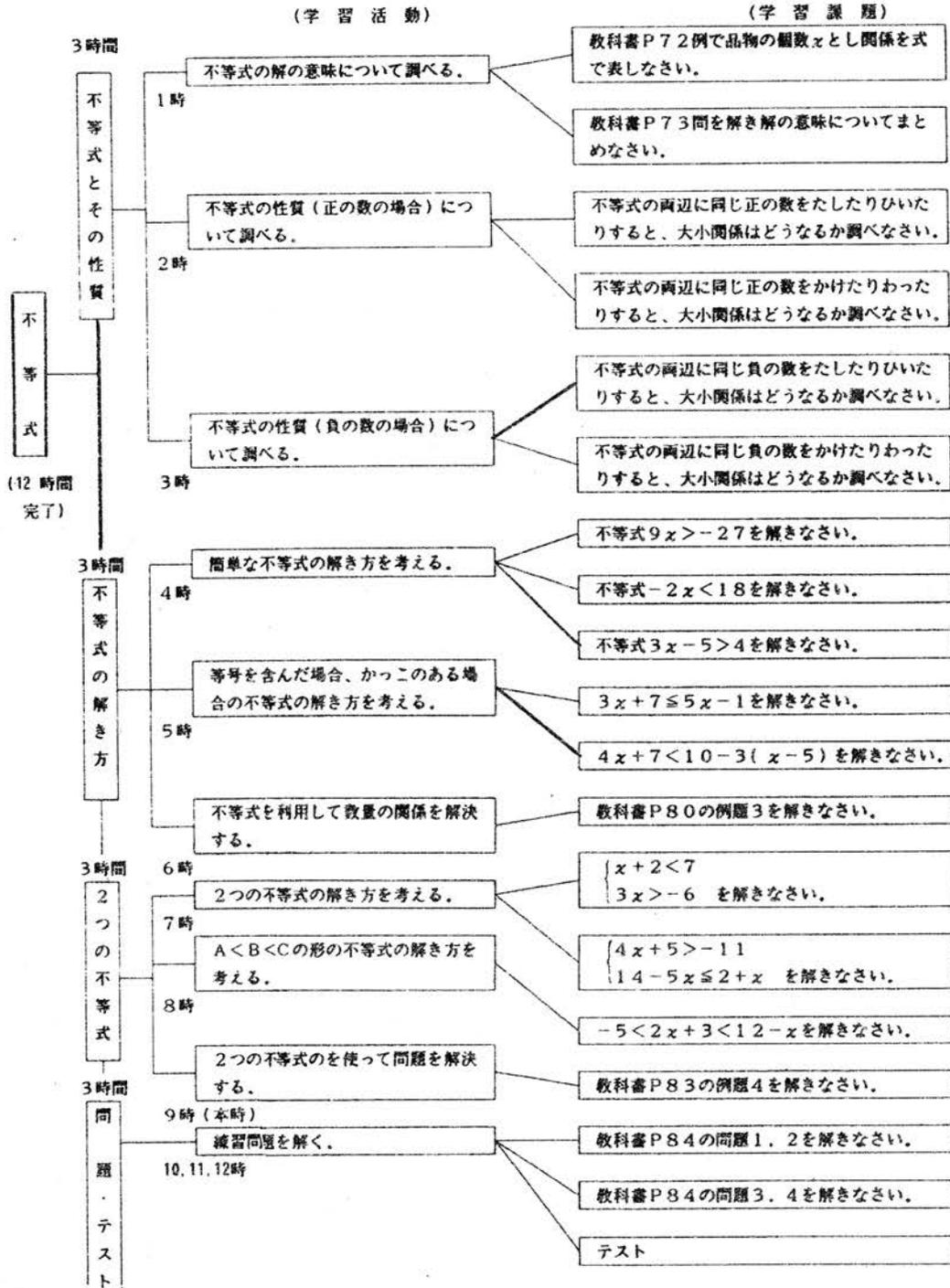
(3) 学習過程

	学習活動	留意点	評価
準備過程	1. 計算練習する。 ⑤ 1個60円のりんごと、1個40円のみかんを、100円のかごに、あわせて20個つめ、代金を1000円以上1100円以下にしたい。りんごを何個にすればよいか考えなさい。		
	2. 上の問題を解く。 (1)各自式を作る。 3. 本時の目標を知る。	⑤ ○机間巡視して、つまずきを把握する。 ○態度目標にも触れる。	○式がつくれたか。(挙手)
中心過程	100円のかごに、1個120円のなしと1個80円のを、あわせて10個つめ、全体の金額を1200円以下にしたい。なしを何個にすればよいか考えなさい。		
	4. 上の問題を解く。 (1)各自解く。 (2)発表する。	⑩ ○補足説明する。 ○なしの個数は、自然数であることに気付かせる。	○問題がとけたか。(挙手)
	上の問題で、「なしの個数がりんごの個数よりも少なくならない。」という条件をつけるどうなるか考えなさい。		
過程	5. 上の問題を解く。 (1)各自考えたことをノートにまとめる。 (2)班で話し合う。 (3)考え方を発表する。 (4)班で再度話し合う。	⑫ ○間違ってもよいから、自分の考えを発表するように励ます。 ○個数と金額の2つに目をつけさせる。 ○補足説明する。	○積極的に話し合いに参加しているか。(机間巡視) ○考え方が理解できたか。(観察)
確認過程	最初の問題を解きなさい。		
	6. 本時のまとめをする。 (1)各自解く。 (2)班で疑問点を解決する。 (3)発表する。	○机間巡視して、不振児の指導をする。 ⑬ ○時間に余裕があればP. 83の練習2を解かせる。	○問題が解けたか。(観察)
	7. 次時の予告を聞く。		

2 学年数学科学習課題構成図

9月	題材名	不 等 式	12時間完了
----	-----	-------	--------

目標	○数量の大小関係を不等式に表せるようにし、不等式とその解の意味、不等式の性質を理解させる。 ○不等式の性質を使って一元一次不等式を解くことができるようにし、これを問題解決に利用できるようにさせる。 ○簡単な一元一次不等式を連立させること、および、その解の意味について理解させ、これを解くことができるようにさせる。
----	--



第2学年 12組 国語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室
指導者 市原 みどり

- 1、題材 副詞、連体詞、接続詞、感動詞
 2、本時の指導 (本時3/5)
 (1)目標 ○ 接続詞の性質、働きや種類について理解させる。
 ○ 班での話し合いに積極的に参加させる。
 (2)準備 教師 プリント、フラッシュカード
 生徒 新修解明国文法
 (3)学習過程

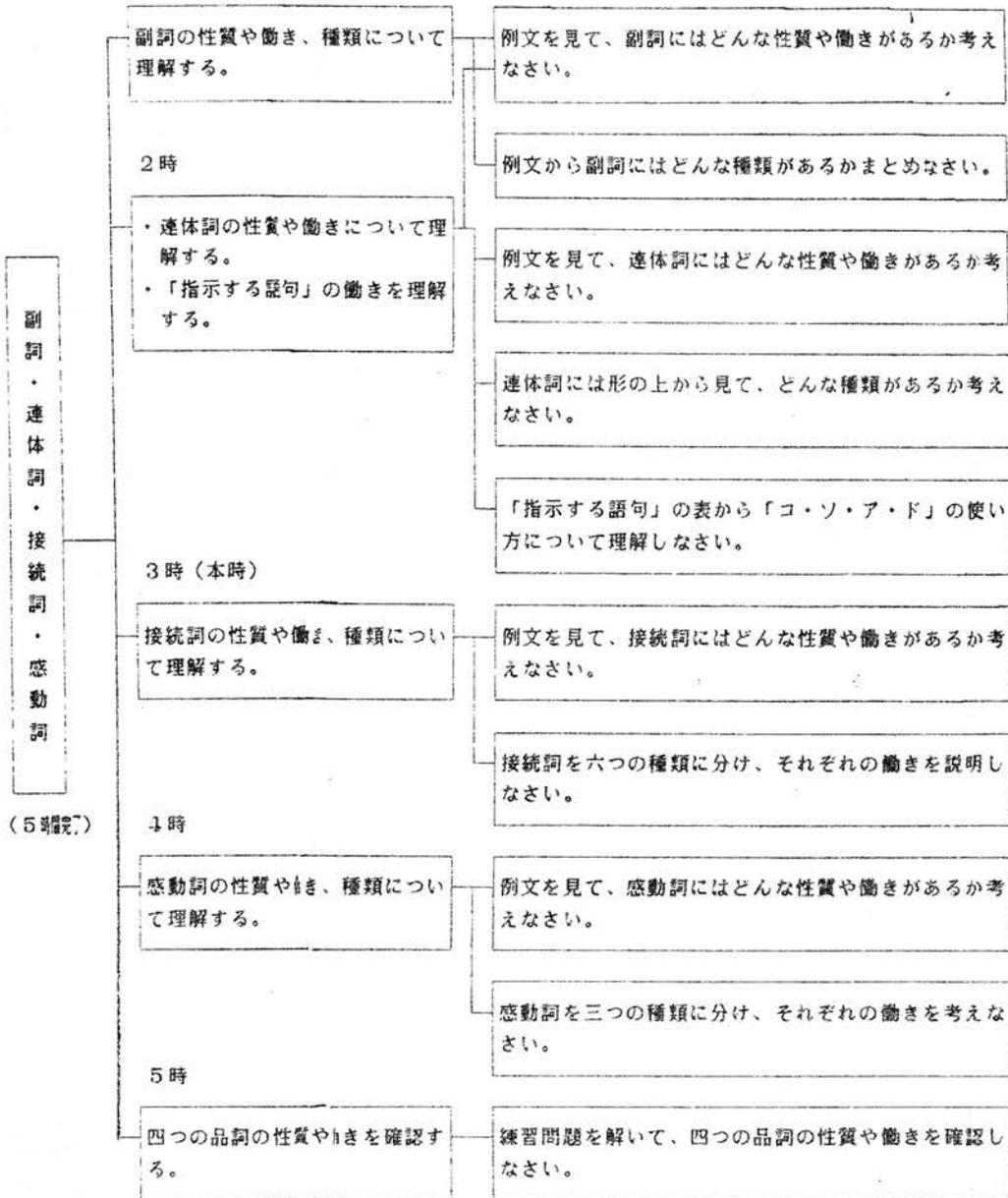
	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	接続詞の性質や働きを確かめなさい。		
	1、接続詞の性質や働きをプリントに記入する。 (1) 各自で取り組む。 (2) 発表する。 2、例文中の中から、接続詞を選ぶ。 (1) 練習問題に取り組む。 (2) 班で話し合い発表する。	○ 日常の言語生活の中で、使われている接続詞を取り上げて理解させる。 ○ まぎらわしい他の品詞との区別ができるようにさせる。	○ 接続詞の性質や働きが確認できたか。 (机間巡視) ○ 正しく選べたか。(挙手)
中 心 過 程	例文中の接続詞を六つに分類しなさい。		
	3、例文中の接続詞を、働きの上から六つの種類に分ける。 (1) 各自で分類する。 (2) 班で話し合う。 (3) 班の代表者が黒板に掲示する。 4、接続詞の種類と名称について知る。 5、プリントの整理をする。	○ 分け方の要領をつかませるために、別の単語を六つに分類したものを掲示する。 ○ どんな意味関係があるのかも話し合わせる。 ○ 掲示された接続詞の働きを確かめつつ名称を確認する。	○ 全員が積極的に班活動に参加しているか。 (机間巡視) ○ 正しく分類できたか。 (観察)
確 認 過 程	練習問題を解きなさい。		
	6、問題に取り組む。 (1) 問題を各自解く。 (2) 班で確認し発表する。 7、次時の予告を聞く。	○ 遅進生徒の指導をする。 ○ 正答数ごとに挙手させ、定着度を把握する。 ○ 感動詞の働きと種類を学習することを知らせる。	○ 接続詞の種類が、理解できたか。 (挙手)

2 学年国語科学習課題構成図

10月	単元・題材名	副詞・連体詞・接続詞・感動詞	5時間完了
-----	--------	----------------	-------

目 標	○四品詞の性質や働きを理解させる。
-----	-------------------

1時 (学習内容) (課 題)



公開授業（Ⅱ） 学習指導案

第3学年

第3学年1組英語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室

指導者 川越 慎一

1. 題材 Miss May Tells Us about Paris
2. 本時の指導 (本時 2/6)
 - (1) 目標
 - 関係代名詞 which の用法を理解させる。
 - Chart 4 の文を全員が言えるように、積極的に練習に参加させる。
 - (2) 準備 教師 Tape Flash cards TP
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	<p>新出語句の発音・意味を確認しなさい。</p> <p>1. 新出語句の発音練習をする。 (1) 教師の後について発音する。 (2) 意味を発表する。 (3) 語句をノートに練習する。 (4) 小テストを受ける。</p>	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 母音の発音に注意させる。 ◦ 2分間書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 発音・アクセントは正しいか。(観察)
中心過程	<p>関係代名詞 which の用法を理解しなさい。</p> <p>2. 関係代名詞 which の文を学習する。 (1) 教師の示す文を見て、意味を考える。 (2) 班で確認する。 (3) Chart 4 を用いて口頭練習をする。</p>	<p>⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ OHPで提示する。 ◦ 言えたならばチェック表に○をつけるさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ Chart 4 の絵をみて文が言えるか。(自由会話法)
中心過程	<p>本文の概要を把握しなさい。</p> <p>3. 本文の概要をつかむ。 (1) 内容理解のポイントを知る。 (2) 教師の後について本文を音読する。 (3) 個人読みの練習をする。 (4) 内容理解のポイントの疑問点を班で解決する。</p>	<p>⑮</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ OHPで提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 正しく読めているか。(机間巡視)
確認過程	<p>新出文型のまとめをしなさい。</p> <p>4. ポイントを確認しノートにまとめる。 5. 次時の予告を聞く。</p>	<p>⑰</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ OHPで提示する。 	

第3学年3組学級の時間(学級指導)指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室

指導者 藤田 滋

1. 単 元 違法と交通事故
2. 目 標
 - 歩行者による事故原因、運転者による事故原因を考え、安全な歩行、安全な走行に気をつけようとする態度を身につけさせる。
 - 自分の考えをしっかりとって参加し、班の中で意見を言うことができる。
3. 展 開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価
準備過程	1. 本時の学習内容を知る。	○ 認知目標・態度目標を明示する。 ○ 全国の交通事故による死者数(月別、曜日別)を予想させ関心をもたせるとともに、実情をつかませる。	○ 実情を把握することができたか。 (観察)
	2. 交通事故の状況について考える。		
中 心	歩行者による事故原因を考えなさい。		
	3. 歩行者が事故の主原因となるものを考える。	○ 自分の経験などをもとに3つはあげさせる。	○ 原因をあげることができたか。 (指名)
心 過	運転者による事故原因にはどんなものがあげられるかについて考えなさい。		
	4. 運転者に過失があると考えられる原因をあげる。	○ 個人・班で考え、原因となるものをできるだけあげさせる。	○ 積極的な班活動ができているか。 (机間巡視)
過 程	安全確認度テストを行いなさい。		
	5. 安全確認度テストを行う。	○ 一斉隊形に机を移動させ自分の判断で考えさせる。	○ 静かにとりくめたか。 (観察)
程	班の中で検討し合いなさい。		
	6. 安全確認度テストを班で検討する。	○ 個人の意見を班に反映させるように留意する。	○ 班で検討ができたか。 (自由会話法)
確認過程	7. 解説を聞き、チェックを行う。		
	交通事故の発生を防ぐために気をつけなければならないことをテストプリントに記入しなさい。		
	8. 交通事故を防ぐための心構えをまとめる。	○ 本時の学習から得たこと感じたことをまとめる。	○ プリントにまとめることができたか。 (観察)

第3学年4組理科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室
指導者 武山 春 雄

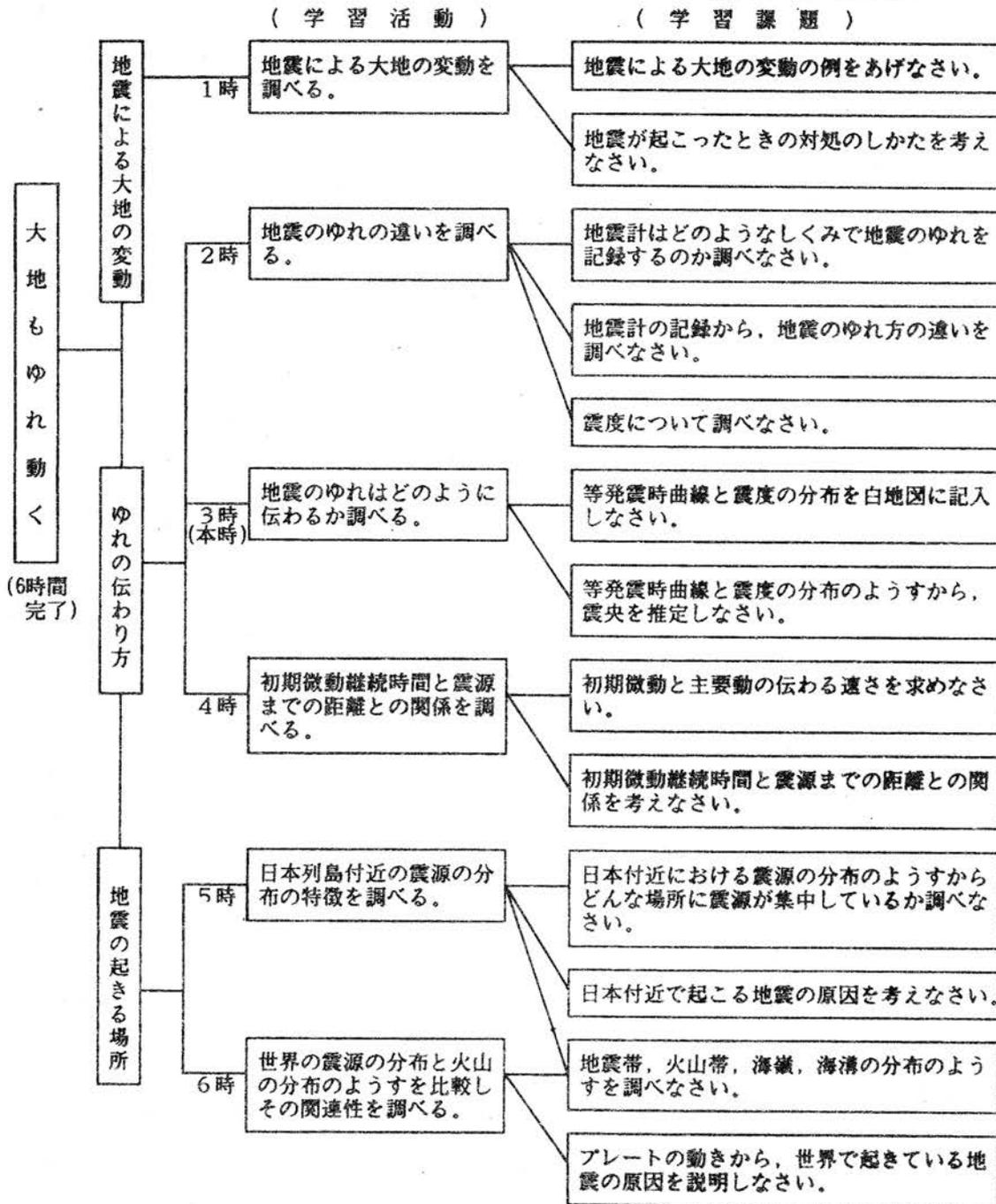
1. 単 元 大地もゆれ動く
 2. 本時の学習 (本時 3/6)
 (1) 目 標
 ○ 等発震時曲線から震央を推定することができるようにさせる。
 ○ 自分の考えをきちんと持って、話し合いに参加させる。
 (2) 準 備 教師 TP, プリント
 (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	1. 予備課題に取り組む。 (1) プリントを行う。 (2) 班で確認しあう。	⑧ ○ 地震計の記録から初期微動と主要動のちがいを確認させる。 ○ 態度目標も示す。	○ 正しく解けたか。(プリント)
中 心 過 程	等発震時曲線を白地図に記入しなさい。		
	3. 等発震時曲線を白地図に記入する。 (1) 各地のゆれはじめの時刻を白地図に写しとる。 (2) ゆれはじめの時刻の等しい地点を滑らかな曲線で結ぶ。 (3) 隣りどうしで確認しあう。	⑨ ○ 数字はていねいに書かせる。 ○ 等圧線の記入のしかたを想起させる。 ○ お互いに白地図を見せ合って確認させる。	○ 滑らかな曲線が描けているか。(机間巡視) ○ 相互に確認し合えたか。(隣接法)
	震度の分布を白地図に記入しなさい。		
	4. 震度の同じ地域を同じ色でぬって分けする。 (1) 色分けして、震度の分布を白地図に描く。 (2) 震度の分布が不規則なのはなぜか班で話し合う。	⑩ ○ 分けの境界線は滑らかに記入させる。 ○ 等発震時曲線と比較させて考えさせる。	○ 自分の考えを持って話し合っているか。(観察)
確 認 過 程	等発震時曲線と震度の分布から震央を推定しなさい。		
	5. 等発震時曲線と震度の分布をもとにして震央を推定する。 (1) 等発震時曲線を描いた白地図上に、震央を推定して記入する。	⑪ ○ 水面で波紋が広がるようすなどから推定させる。	○ 震央が推定できたか。(挙手)
確 認 過 程	震源と震央についてまとめなさい。		
	6. 本時の学習内容をまとめる。 (1) 板書をもとに震源、震央についてまとめる。 (2) 自己評価表に記入する。 7. 次時の予告を聞く。	⑫ ○ 次時の課題を課題構成図で確認させる。	○ 震源・震央を理解できたか。(自己評価表)

第3学年理科学習課題構成図

10月	单元名	大地もゆれ動く	6時間完了
-----	-----	---------	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> 地震による大地の変動や災害について理解させる。 地震のゆれ方の解析から、震源の分布やエネルギーの大きさを理解させる。
----	---



第3学年5組美術科学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第3時限 教室

指導者 森 真一郎

1. 単元 東西の美術(模写)

2. 本時の学習 (本時3/12)

(1) 目標

- 作者の制作姿勢や美術のとらえ方、個性の違いによって独自の作品が生まれることを気づかせる。
- 鑑賞資料をもとに自分の考えを持って話し合いに参加させ模写のねらいを明確にさせる。

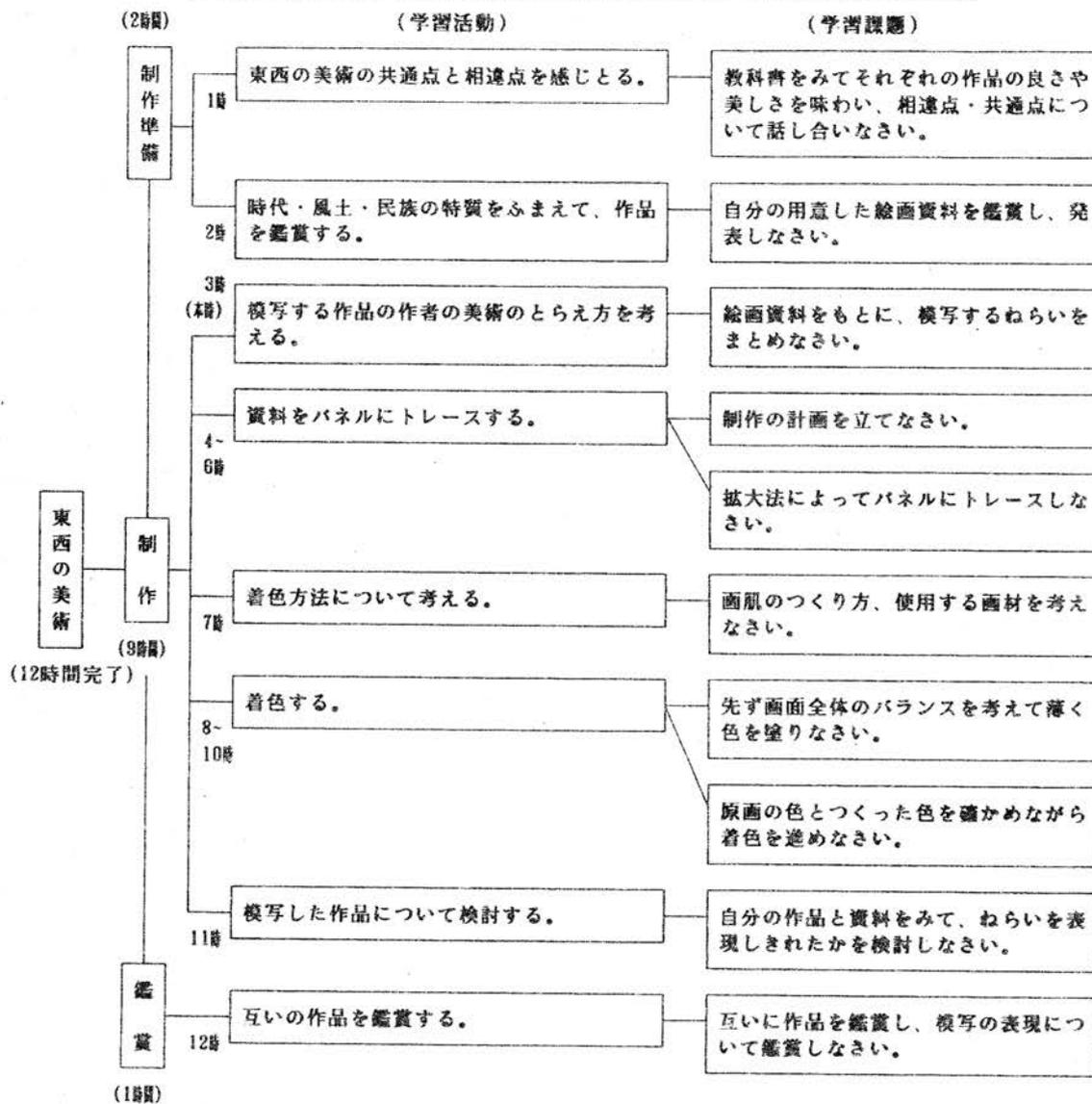
(2) 準備 生徒 鑑賞資料

(3) 学習過程

	学習活動	留意点	評価
準備過程	鑑賞資料を検討しなさい。		
	1. 本時の学習内容を知る。 2. 用意した資料の要点をまとめる。	⑩ ◦ 鑑賞資料をもとに、模写のねらいをまとめることを知らせる。 ◦ 作品や作者についての鑑賞資料の中で魅力的に感じた部分にアンダーラインを引きながらまとめさせる。	◦ 資料の検討がなされているか。 (机間巡視)
中心過程	友達の用意した鑑賞資料を読み作品とその背景について話し合いなさい。		
	3. 班内で用意した鑑賞資料について相互に話し合う。 (1) 鑑賞資料をもとに発表する。	⑫ ◦ 自分の用意した作品のもつ独特の個性について班内で発表できるようにさせる。 ◦ 作品の画肌や色づかい、素材についての補足をしながら発表させる。	◦ 資料をもとに発表できたか。 (観察・発表)
	(2) 発表をもとに意見を持って話し合う。	◦ 作者の美術のとらえ方に注目させて各自が気づいたことを書きとめながら話し合わせる。	◦ 積極的に話し合うことができたか。 (観察)
話し合いをもとに模写するねらいをまとめなさい。			
	4. 資料の作品の作者の制作姿勢や美術のとらえ方をふまえながら模写をする時に最も表現したことをまとめなさい。	⑮ ◦ ただ単に正確に写すのではなく、個性の違いによって独自の表現が生まれていることに気づかせ、各自がテーマを持って取り組めるようにさせる。	◦ ねらいをまとめることができたか。 (机間巡視・発表)
確認過程	模写のねらいをまとめることができたか確認しなさい。		
	5. 班内で互いにねらいがまとめられたかを確認しなさい。 6. 次時の予告を聞く。	⑯ ◦ ねらいが明確になっているかを確認させ、制作の意欲を高めさせる。 ◦ 制作の計画を立てることを知らせる。	◦ ねらいを確認することができたか。 (相互評価)

第3学年美術科学習課題構成図

10~12月	単元名	東西の美術	12時間完了
目標	○ 東西の美術の相違点や共通点が説明できるようにさせる。 ○ 作者の制作姿勢や美術のとらえ方、個性の違いによって独自の作品が生まれることを模写を通して理解させる。		



第3学年8組 国語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室
指導者 中山 喜久子

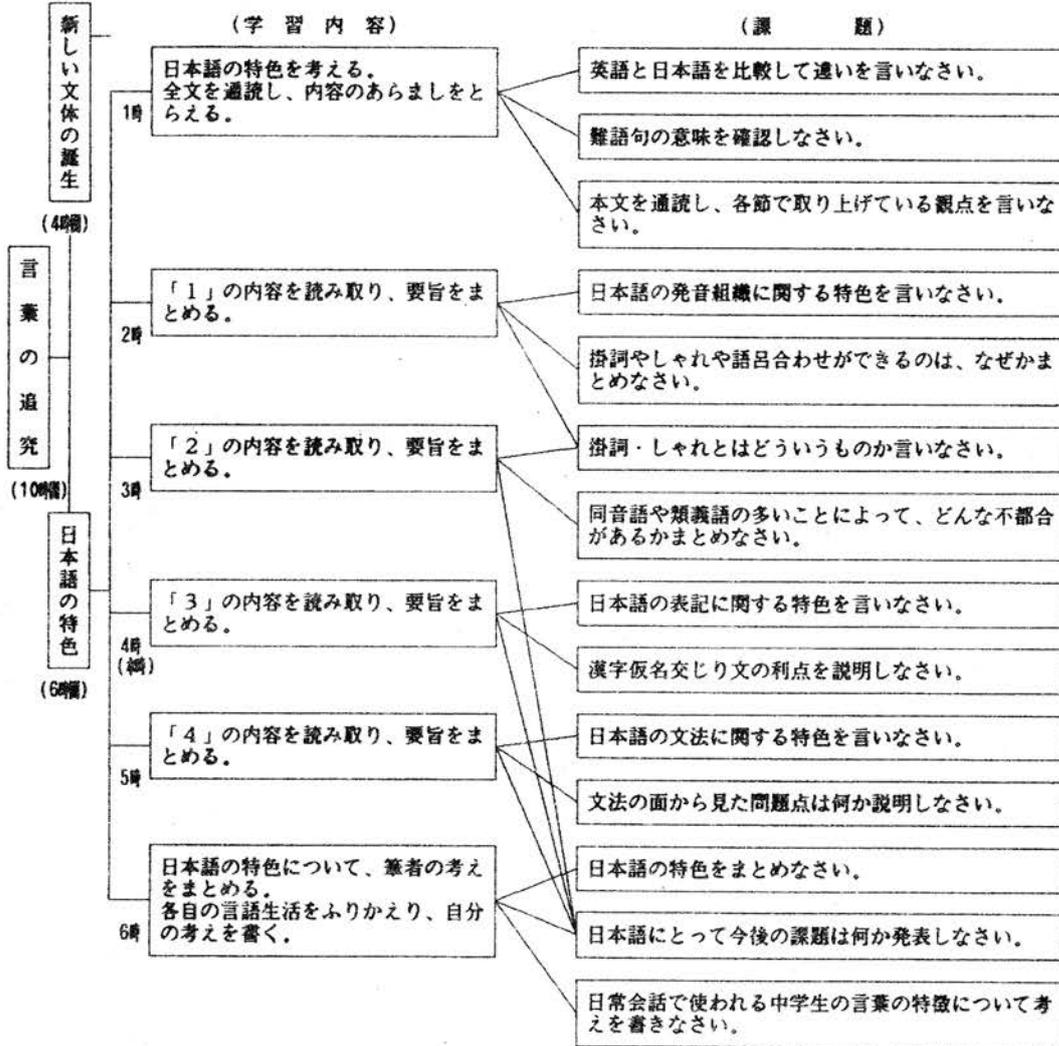
1. 題材 日本語の特色
 2. 本時の指導 (本時4/6)
 (1) 目標 ◦日本語の表記上の特色について読みとり、要旨をまとめさせる。
 ◦読みとったことをもとに班での話し合いに積極的に参加させる。
 (2) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準 備 過 程	1. 本時の目標を知る。 2. 「3」を班ごとに音読する。	⑧ ◦内容を確認しながら読ませる。	◦つかえずに読むことができたか。 (観察)
	日本語の表記に関する特色を言いなさい。		
中 心 過 程	3. 漢字仮名交じり文について読みとる。 (1) 漢字仮名交じり文が、できたのはなぜかについて話し合う。 (2) 漢字仮名交じり文とは何かをまとめる。	⑮ ◦形式段落③④から考えさせる。 ◦漢字と仮名の性質の違いに注意してまとめさせる。	◦読みとったことをもとに話し合いに参加できたか。 (机間巡視)
	漢字仮名交じり文の利点を説明しなさい。		
	4. 漢字仮名交じり文の利点を考える。 (1) 平仮名・片仮名ばかりの文はなぜわかりにくいかについて話し合う。 (2) 今後の課題は何かを読みとる。	⑮ ◦「1」「2」の内容とも関連して考えさせる。	◦漢字仮名交じり文の特殊性に気づいたか。 (観察)
	形式段落ごとの内容をひとことずつでまとめなさい。		
確 認 過 程	5. 形式段落ごとに内容をまとめる。 6. 次時予告を聞く。	⑫ ◦長く書かずひとことでまとめさせる。 ◦文法上の特色について学習することを知らせる。	◦形式段落ごとの内容をまとめることができたか。 (机間巡視)

3 学年国語科学習課題構成図

10月	単元・題材名	言葉の追究	10時間完了
-----	--------	-------	--------

目標	○文章の展開に即して筆者の考えの進め方をとらえさせる。 ○文章の展開に即して内容を的確にとらえさせる。 ○日本語についての理解を深め、言語生活への関心を高めさせる。
----	--



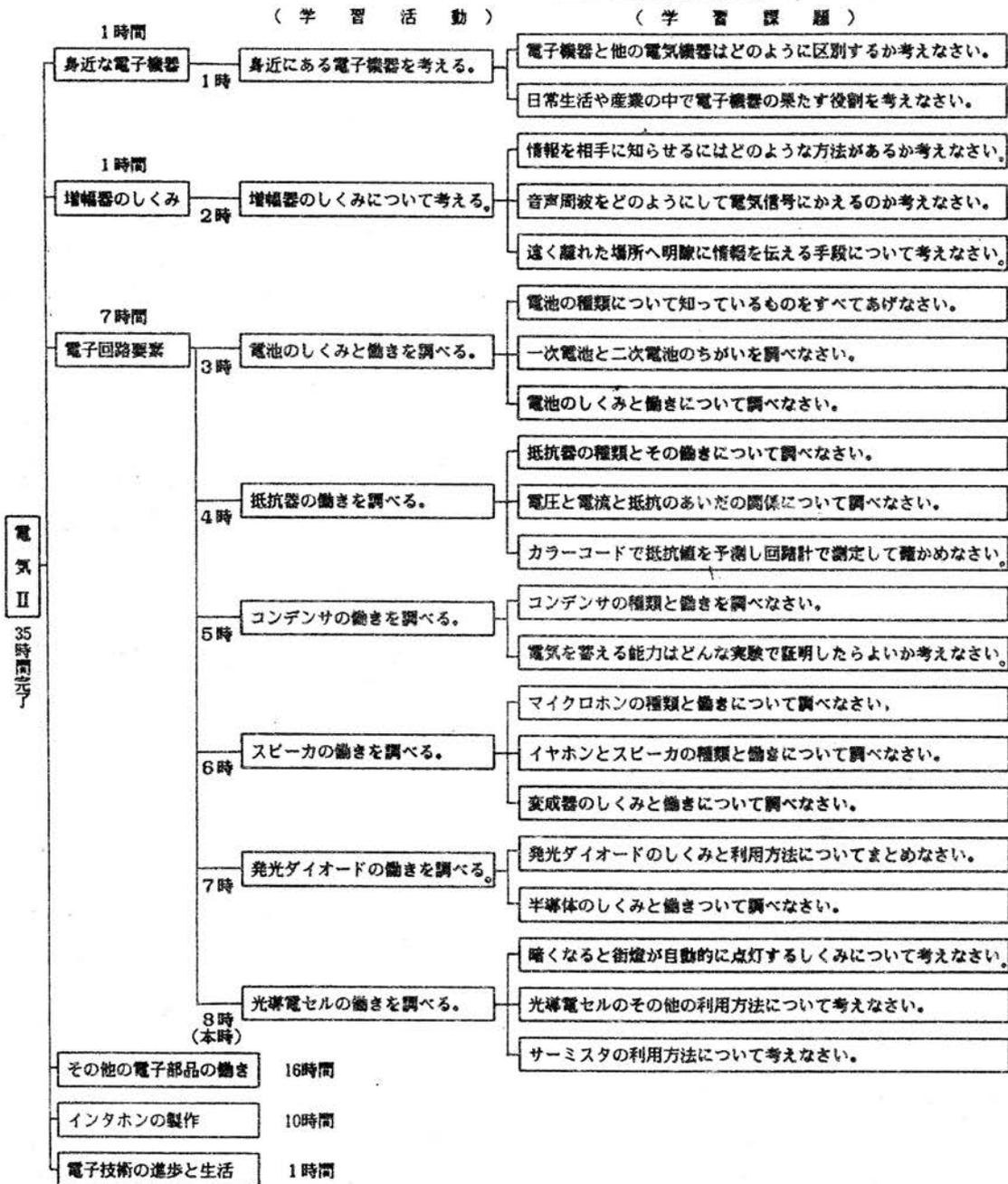
昭和63年10月7日(金) 第3時限 3の9教室
指導者 押谷政紀

1. 単元 電気I
2. 本時の学習目標 (本時8/35)
(1) 目標 ◦光導電セルの働きや利用方法について理解させる。
◦話し合いや実験に積極的に参加させる。
(2) 準備 教師 光導電セル, 回路構成板, みの虫クリップ, 小黒板
生徒 乾電池(SUM-2)
(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	暗くなると街燈が自動的に点灯するしくみについて考えなさい。		
	1. 本時の学習目標を知る。 (1)街路灯自動点滅装置の構造について話し合う。⑩ (2)光導電セルを知る。 2. CdS の性質を確かめる。	◦態度目標についても指示すること ◦光に反応する電子部品があることに気づかせる。 ◦光導電セルは硫化カドミウム(CdS)からなることを知らせる。	◦光導電セルの性質について理解できたか。(観察)
中心過程	暗い時に点灯するにはどのような回路にしたらよいか話し合いなさい。		
	3. 発光ダイオードと乾電池と光導電セルを使って、街燈のように暗い時点灯する回路を考える。⑫ (1)各自で回路を考える。 (2)班で話し合う。 (3)実際に回路をつくって確かめる。	◦光導電セルをそのまま直列につないだのでは明るいときに点灯してしまうことに気づかせる。 ◦回路をくむ時は可変抵抗器で電流を調節させる。	◦暗い時に点灯する回路について理解できたか。(観察)
確認過程	光導電セルのその他の利用方法について考えなさい。		
	4. 光導電セルの利用について実際に利用されていると思われるものをあげ、さらに新しい利用方法を発想する。⑩	◦カメラの自動露出装置や照度計などにひろく利用されていることを説明する。 ◦音や温度によって抵抗値のかわる電子部品も紹介する。	◦光導電セルの利用方法について考えることができたか。(発表)
確認過程	光導電セルのしくみと働きをプリントにまとめなさい。		
	5. 本時のまとめをする。 6. 次時の予告を聞く。⑤	◦光導電セルについてプリントにまとめさせ、班で確認させる。 ◦トランジスタについて学習することを知らせる。	◦光導電セルについてまとめることができたか。(机間巡視)

9月～12月	単元・題材名	電気 II	35時間完了
--------	--------	-------	--------

目標	<ul style="list-style-type: none"> 増幅回路を用いた装置の設計と製作を通して、電子の働きと利用について理解させ、電子機器を適切に活用する能力を養わせる。 増幅回路を用いた装置の概要を理解させる。 低周波増幅器における増幅の内容を理解させる。 増幅回路に用いられる電気回路要素の働きと使用方法を理解させる。
----	---



第3学年9・10組(女子)技術・家庭科学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第3時限 3の10教室
指導者 高木昭子

1. 単元 保育
2. 本時の学習 (本時2/20)
(1) 目標 ○幼児の体の特徴を理解するとともに、環境の影響も大きいことを認識させる。
○話し合いに積極的に参加させる。
(2) 準備 教師 新生児と3歳児の体型模型、スカモンの発育曲線
生徒 プリント『カラマの生涯』
(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価	
準 備 過 程	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 出生時から5歳までの身長と体重の変化を調べなさい。 </div> <p>1. 出生時から5歳までの身長と体重を、表に記入する (1) 増加の状態について話し合う。</p>			<p>○出生時から1歳までの増加が大であることに気付かせる。 ⑩○『乳』の蛋白によるところが大きいことにふれる</p> <p>○話し合いが出来ているか。 (机間巡視)</p>
中 心 過 程	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 体の特徴を説明しなさい。 </div> <p>2. 幼児の体の特徴をノートに記入する。 (1) 体型、体の働きを話し合う。 (2) スカモンの発育曲線について話を聞く。</p>			<p>○大人と違う生理現象に気付かせる。 ⑮○脳は幼児期にほぼ完成することを知らせる。</p> <p>○幼児の体の特徴がわかったか。 (指名)</p>
過 程	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 環境の影響と個人差について話し合いなさい。 </div> <p>3. 成長発育は環境の影響を受けるものだろうかについて話し合う。 (1) 諸外国と我が国の体型について考える。 (2) 『カラマの生涯』についてプリントを読む。</p>			<p>○個人差があるので数値にこだわりすぎない。 ⑮○環境の影響の大きさを強調する。</p> <p>○環境の影響が大きいことを理解できたか。 (感想文)</p>
確 認 過 程	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本時の学習内容から感想を書きなさい。 </div> <p>4. 感想を書く。 次時予告を聞く。</p>			<p>⑩○正しい姿勢で書いているか。 ○ノートを提出する。</p>

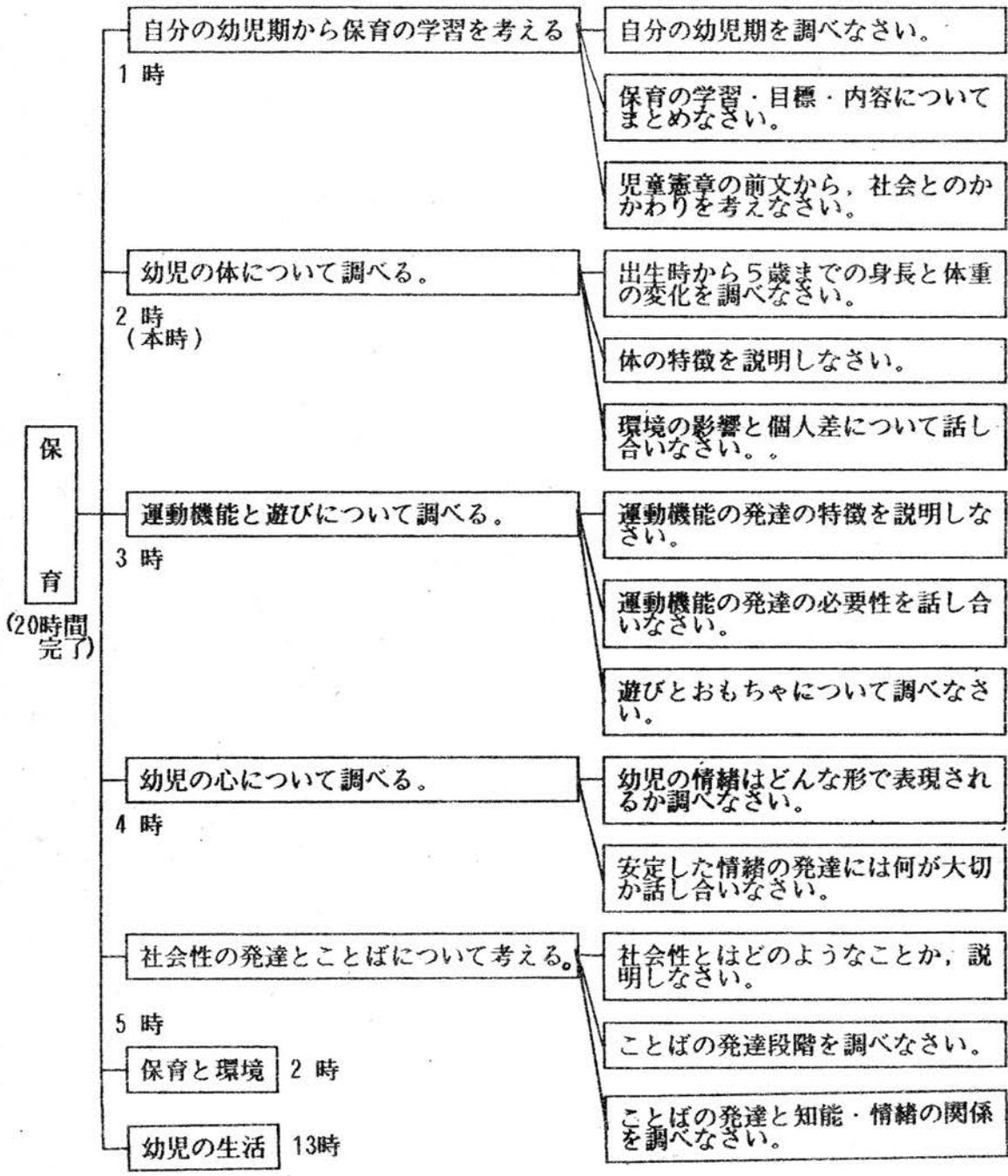
第3学年 技術・家庭科 学習課題構成図

10, 11月 | 単元・題材名 | 保 育 | 20時間完了

目標
 ○ 幼児の遊びや被服、食物に関する学習を通して、その心身の発達に
 応じた生活について理解させ、幼児に対する関心を高める。
 ○ 自分たちの幼児期をふり返り、互いに意見を交換させながら、理
 解を深める態度を養う。

(学 習 活 動)

(学 習 課 題)



第3学年 1 1組社会科学学習指導案

昭和63年10月7日(金) 第3時限 教室
指導者 加藤 武 文

1. 単 元 消費生活と経済のしくみ

2. 本時の学習 (本時 2/9)

(1) 目 標 ○ 現在の暮らしにおける消費水準の高度化に気づき、ほんとうの生活の豊かさとは、どのような内容の生活をするのかを考えさせる。

○ 自らの考えをもって積極的に話し合いに参加させる。

(2) 準 備 教師 フラッシュカード

(3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	家計における収入はどのようにして得られているか話し合いなさい		
	1. 本時の目標を知る。 2. 家計における収入はどのようにして得られているか発表する。	⑮ ○各自の家計を参考にさせ、班で一人一発言させる。 ○班内で確認させた後、全体発表させる。	○一人一発言ができていないか。 (反応器)
中心過程	日本は豊かな国かどうか話し合いなさい。		
	3. 日本は豊かな国かどうか考える。 (1) 日本より豊かな国と貧しい国を発表する。	理由をつけて班で2カ国づつあげさせる。 ○発表された理由づけの中から豊かさの要素を検討させる。	○理由をつけて発表しているか。 (机間巡視)
	(2) 生活水準を欧米と比較して考える。 (3) 耐久消費財の普及率を見て考える。	⑳ ○比較することによって現在の豊かさに疑問をもたせる。 ○消費水準の高度化に気づかせる。	
	(4) あらためて日本は豊かな国かどうか発表する。	○班で話し合い、理由づけて全体発表させる。 ○物の豊かさだけではなく生きがいや安らぎの必要性にも気づかせる。	○理由をつけて発表しているか。 (机間巡視)
確認過程	生活の豊かさとはどのような内容の生活をするのかをまとめなさい。		
	4. 本時のまとめをする。 (1) ノートにまとめる。	○板書を整理し、ノートまとめの参考にさせる。 ⑵	○ノートにまとめることができたか。 (机間巡視・反応器)
	5. 次時の予告を聞く。		

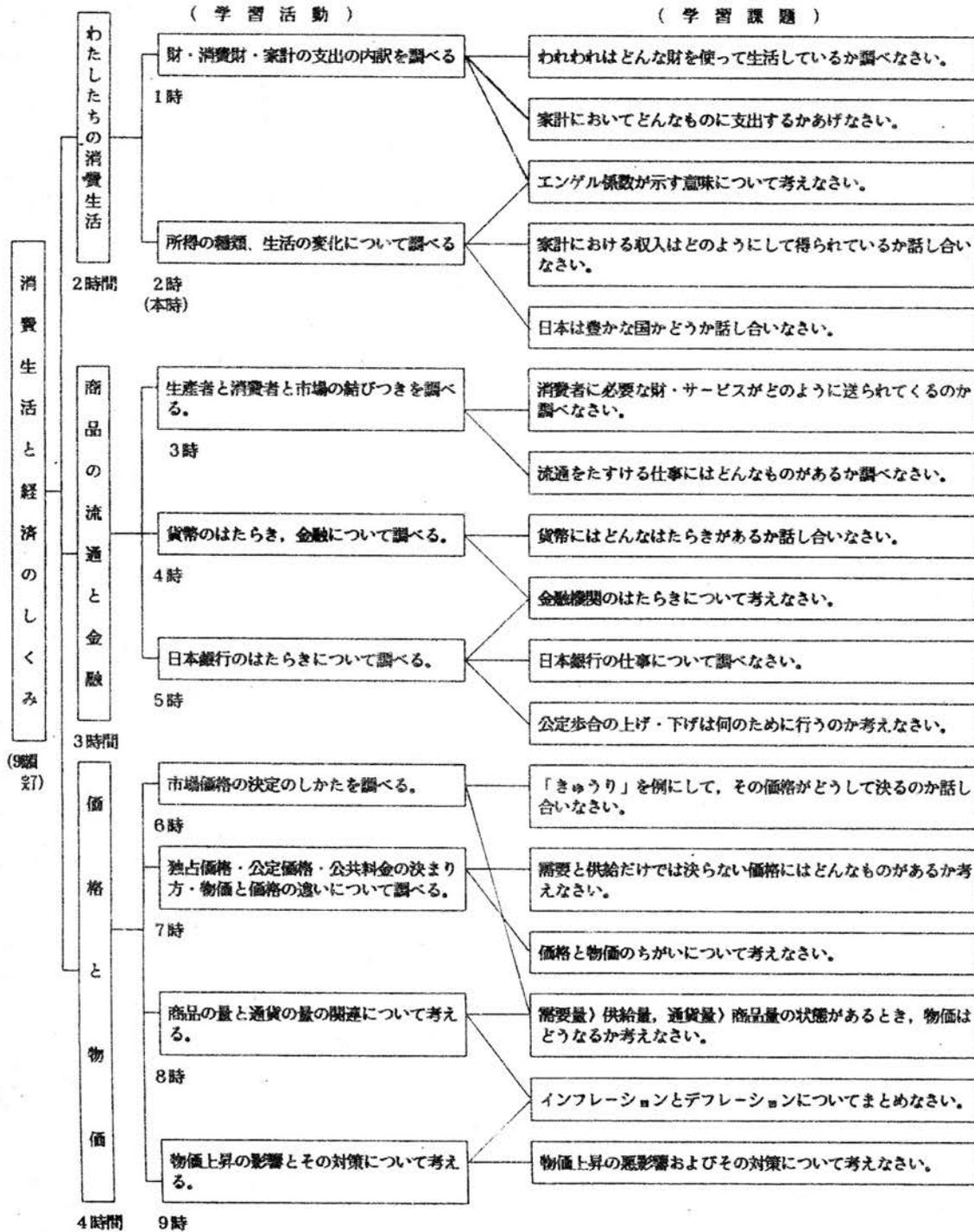
⑮⑲の考えを
別紙に提出する

理由をつけて

第3学年社会科学習課題構成図

10月	単元名	消費生活と経済のしくみ	9時間完了
-----	-----	-------------	-------

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの消費生活を中心にさまざまな経済活動が行われていることを理解させる。 商品の流通のしくみとはたらきについて理解させる。 価格のはたらきや物価の動き、またそれらをめぐる問題について理解させる。
-----	--



第3学年13組英語科学習指導案

昭和63年10月7日(金)第3時限 教室

指導者 久木田 まゆみ

1. 題材 Miss May Tells Us about Paris
2. 本時の指導 (本時 1/6)
 - (1) 目標
 - 関係代名詞 who の用法を理解させる。
 - Chart 3 の文を全員が言えるように、積極的に練習に参加させる。
 - (2) 準備 教師 Tape Flash cards TP
 - (3) 学習過程

	学 習 活 動	留 意 点	評 価
準備過程	<p>新出語句の発音・意味を確認しなさい。</p> <p>1. 新出語句の発音練習をする。 (1) 教師の後について発音する。 (2) 意味を発表する。 (3) 語句をノートに練習する。 (4) 小テストを受ける。</p>	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 母音の発音に注意させる。 ◦ 2分間書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 発音・アクセントは正しいか。(観察)
中心過程	<p>関係代名詞 who の用法を理解しなさい。</p> <p>2. 関係代名詞 who の文を学習する。 (1) 教師の示す文を見て、意味を考える。 (2) 班で確認する。 (3) Chart 3 を用いて口頭練習をする。</p>	<p>⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ OHPで提示する。 ◦ 言えたならばチェック表に○をつけるさせる。 <i>期214120 野田用</i> 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ Chart 3 の絵をみて文が言える。(自由会話法)
中心過程	<p>本文の概要を把握しなさい。</p> <p>3. 本文の概要をつかむ。 (1) 内容理解のポイントを知る。 (2) 教師の後について本文を音読する。 (3) 個人読みの練習をする。 (4) 内容理解のポイントの疑問点を班で解決する。</p>	<p>⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ OHPで提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 正しく読めているか。(机間巡視)
確認過程	<p>新出文型のまとめをしなさい。</p> <p>4. T or F テストを受ける。 5. ポイントを確認しノートにまとめる。 6. 次時の予告を聞く。</p>	<p>⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ テープを2回聞かせる。 ◦ OHPで提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 本文の内容の確認ができたか。(挙手)

3 学年英語科学習課題構成図

10月	単元・題材名	Miss May Tells Us about Paris	6時間完了
-----	--------	-------------------------------	-------

目標	<ul style="list-style-type: none"> ◦ パリの風物について知り、外国に対する関心を深めさせる。 ◦ 関係代名詞 who which (主格) that (主格) の用法を理解させる。
----	--

